

『障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』

報告書

令和2年3月

株式会社 リベルタス・コンサルティング

目次

1	調査概要	1
1.	調査目的	3
2.	調査内容	3
3.	有識者会議の設置.....	3
2	障害児・者のスポーツライフに関する調査	5
1.	調査概要	7
2.	調査結果及び分析	9
3	障害者のスポーツ観戦に関する調査	71
1.	調査概要	73
2.	調査結果（事例調査）	74
4	まとめと考察	103
1.	障害者・児のスポーツ実施の現状	105
2.	障害者のスポーツ観戦について	108
5	参考	113
1.	障害当事者・介助者へのヒアリング調査	115
2.	障害児・者のスポーツライフに関する調査.....	119

1 調査概要

1 調査概要

1. 調査目的

スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、日本各地において障害者が健常者と同様にスポーツに親しめるようにするためには、各地域で抱える課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備を図ることが不可欠である。平成29年3月に策定された「第2期スポーツ基本計画」においても、障害者スポーツ振興のための体制や方策の充実を重点的に盛り込んでいる。このことから、本事業では、障害者がスポーツに参加するに当たっての阻害要因や促進要因を障害種や程度別に把握した上で分析するなどの調査研究を実施することにより、障害者のスポーツ参加促進に資することを目的とする。

2. 調査内容

(1) 障害児・者のスポーツライフに関する調査

全国の障害者及び障害者を家族に持つ方々を対象として、障害に関する基本情報、スポーツ・レクリエーションの実施状況（実施種目、頻度、目的等）、スポーツ実施における障壁、今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション、スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況、過去1年間のスポーツ観戦の実態、スポーツ観戦における障壁等を調査した。

(2) 障害者のスポーツ観戦に関する調査

スポーツ大会・スポーツイベント等における障害者が観戦しやすい会場づくりや運営方法に関する事例の調査を行った。

3. 有識者会議の設置

(1) 有識者委員名簿

染谷 栄一	株式会社ADK	マーケティング・ソリューションズ	チーフ・ディレクター
平山 豊	一般社団法人	パラスポーツ推進ネットワーク	理事
藤田 紀昭	日本福祉大学	スポーツ科学部	教授
雪下 岳彦	順天堂大学	医学部・スポーツ健康科学部	非常勤講師

(2) 有識者会議概要

第一回 日時	令和元年9月30日(月)14時~16時
開催場所	文部科学省 16F3 会議室
議題	(1) 調査趣旨・内容について (2) アンケート調査項目について (3) ヒアリングについて (4) その他

第二回 日時	令和元年12月24日(火)15時~17時
開催場所	文部科学省 16F3 会議室
議題	(1) アンケート調査結果(速報値) (2) ヒアリング調査中間報告 (3) その他

第三回 日時	令和2年3月13日(金)13時~15時
開催場所	文部科学省 16F3 会議室
議題	(1) 障害児・者のスポーツライフに関する調査 (2) 障害者のスポーツ観戦に関する調査 (3) その他

2 障害児・者のスポーツライフに関する調査

2 障害児・者のスポーツライフに関する調査

1. 調査概要

1-1 調査目的

本調査は、全国の障害児・者のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況やニーズを把握し、今後の障害児・者へのスポーツ環境の提供に関する基礎情報を得ることを目的とする。

1-2 調査方法及び回収結果

(1) 調査方法

無記名式のインターネット方式

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・障害児・者の基本情報（障害の種類、障害者手帳の保有状況など）
- ・スポーツ・レクリエーションの実施状況（実施種目、頻度、施設、目的など）
- ・スポーツ・レクリエーションの実施における障害
- ・今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション
- ・スポーツクラブや同好会・サークルへの加入
- ・過去1年間のスポーツ観戦

(3) 調査対象及び回収結果

インターネット調査会社が保有するリサーチモニターのうち、以下に該当する者を調査対象とした。

- ・障害児・者本人あるいは同居する家族で障害児・者がいる
- ・障害児がいる場合、7歳以上である

該当する回答者は5,569人であった。兄弟、姉妹、第4子以降の子で障害児・者が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の者についてのみ、回答を依頼した。その結果、回答者本人及び同居する家族内の障害児・者を含めた障害児・者の総数は7,768人であった。

図表 2-1 回答者の居住地

(N=5,569)

居住地	%
北海道地方	5.6%
東北地方	5.9%
関東地方	38.2%
中部地方	15.2%
近畿地方	19.7%
中国地方	5.0%
四国地方	2.2%
九州・沖縄地方	8.3%

図表 2-2 回答者の年齢

(N=5,569)

年齢	%
19歳以下	1.8%
20～29歳	9.2%
30～39歳	16.3%
40～49歳	26.0%
50～64歳	35.2%
65～74歳	9.4%
75歳以上	2.0%

図表 2-3 回答者の性別

(N=5,569)

性別	%
男性	58.2%
女性	41.8%

(4) 調査期間

令和元年 11 月 19 日（火）～令和元年 11 月 22 日（金）

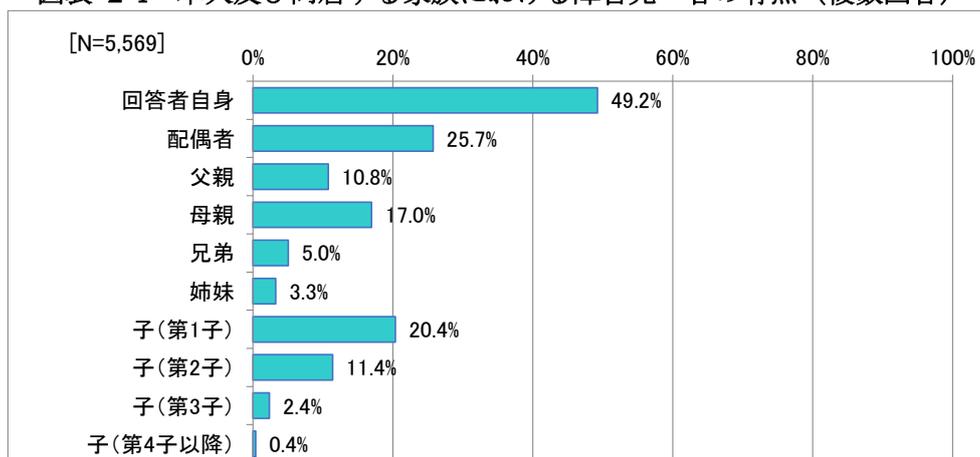
2. 調査結果及び分析

2-1 障害児・者の属性

(1) 本人あるいは同居する家族における障害児・者の有無

回答者本人あるいは同居する家族に障害児・者がいるかについて、「回答者自身」(49.2%)が最も多く、次いで「配偶者」(25.7%)、「子(第1子)」(20.4%)であった。(図表 2-4)。

図表 2-4 本人及び同居する家族における障害児・者の有無 (複数回答)

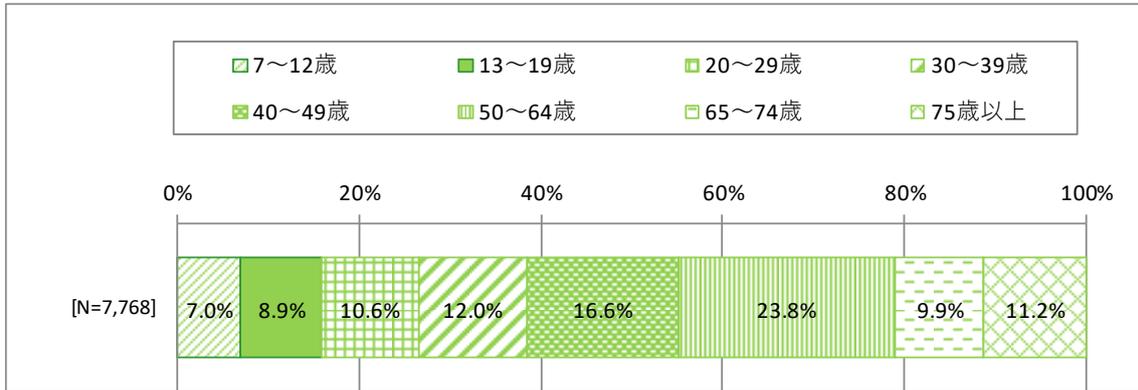


以後の報告では、障害児・者本人及び同居する障害児・者 7,768 人に関する回答結果を示す。

(2) 年齢

年齢は 7～19 歳が 15.9%、20～64 歳が 63.0%、65 歳以上が 21.1%であった (図表 2-5)。

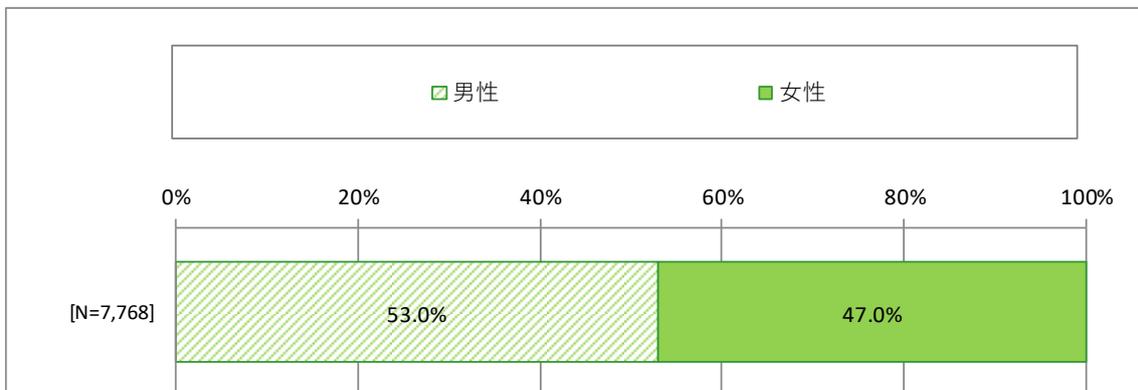
図表 2-5 年齢



(3) 性別

性別は、「男性」が 53.0%、「女性」が 47.0%であった (図表 2-6)。

図表 2-6 性別

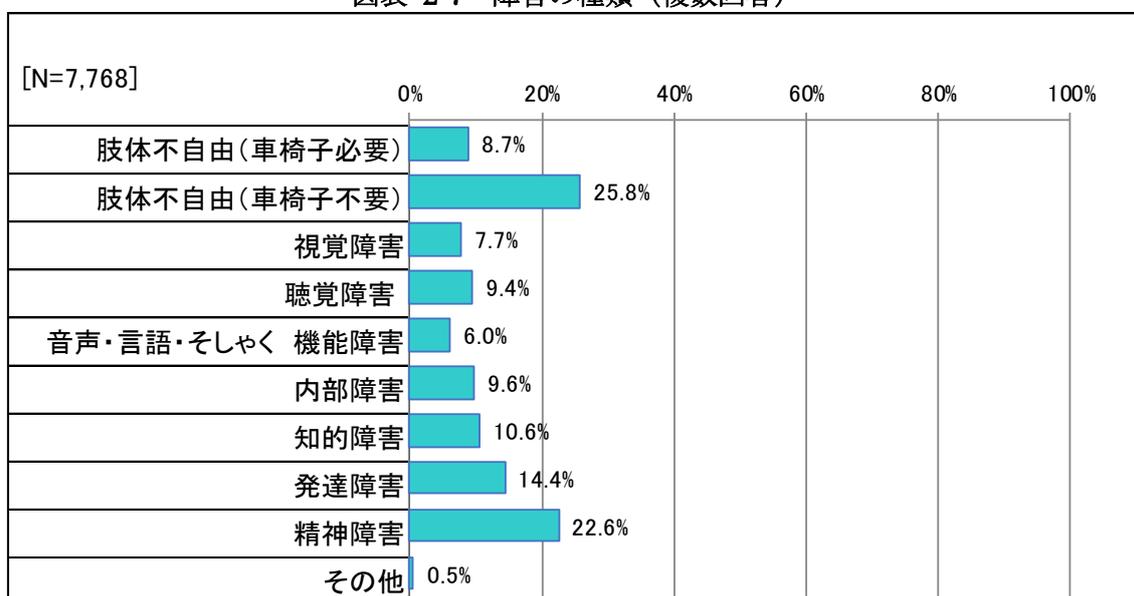


(4) 障害の種類

障害の種類は、「肢体不自由」が最も多く、日常生活で車椅子を必要とする人(8.7%)と必要としない人(25.8%)を合わせると、34.5%となり回答者の約3分の1を占めた。以下、「精神障害」(22.6%)、「発達障害」(14.4%)、「知的障害」(10.6%)のと続く(図表 2-7)。

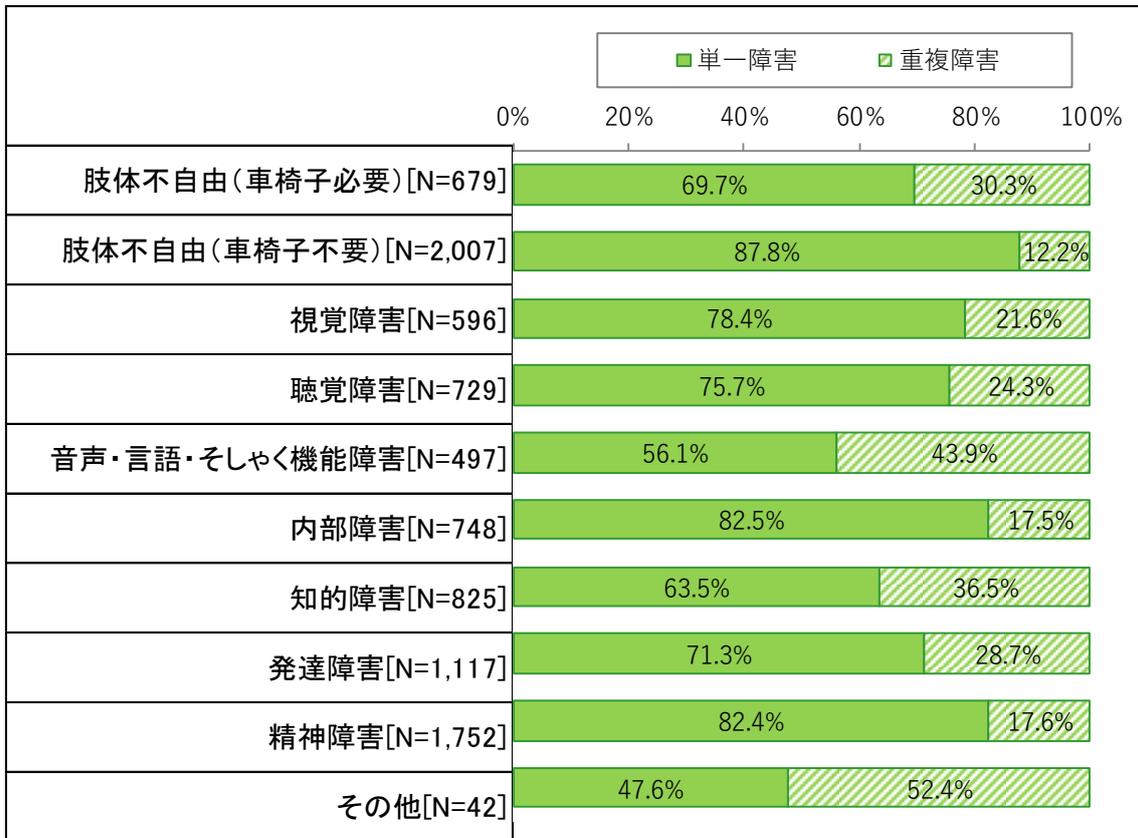
重複障害の割合を障害種別に見ると、「その他」を除くと「音声・言語・そしゃく機能障害」(43.9%)が最も多く、「知的障害」(36.5%)、「肢体不自由(車椅子必要)」(30.3%)と続く(図表 2-8)。

図表 2-7 障害の種類 (複数回答)



※車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。(以下同じ)

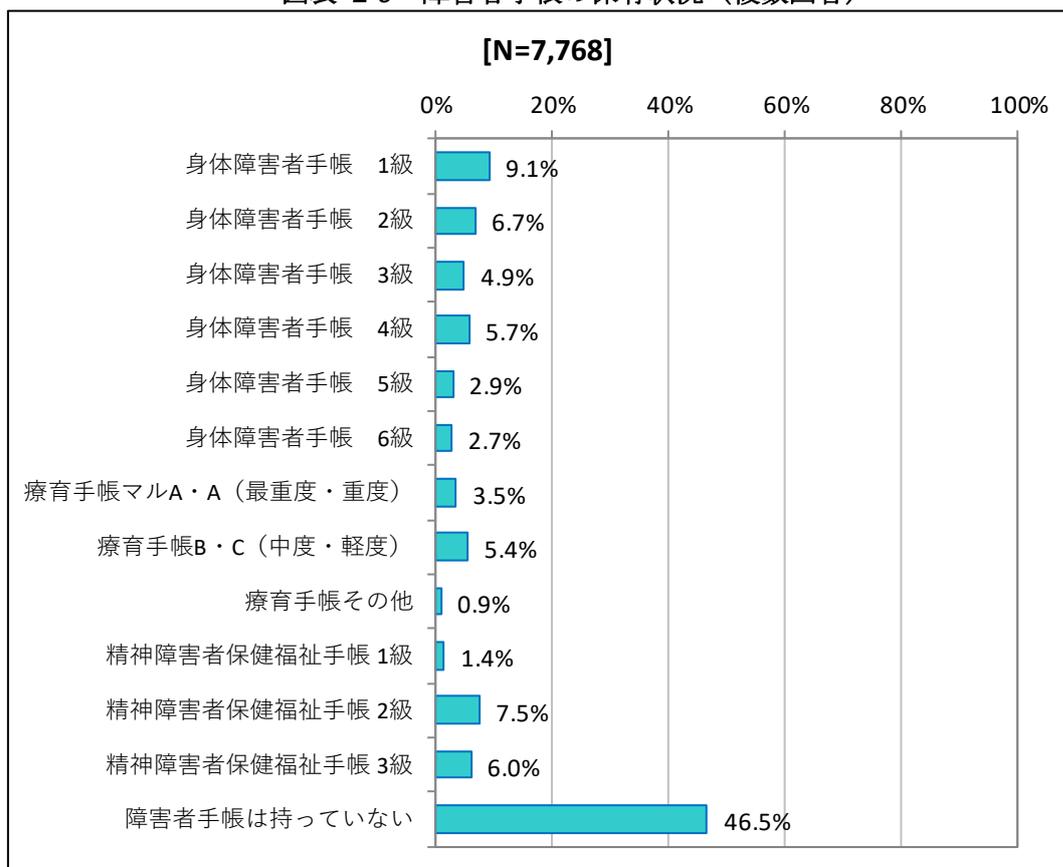
図表 2-8 単一障害・重複障害の比率



(5) 障害者手帳の保有状況

障害者手帳の保有状況について、「障害者手帳は持っていない」(46.5%)であった。障害者手帳を持っている人の中では、「身体障害者手帳 1級」(9.1%)が最も多かった。次いで、「精神障害者保健福祉手帳 2級」(7.5%)、「身体障害者手帳 2級」(6.7%)、となっている(図表 2-9)。

図表 2-9 障害者手帳の保有状況(複数回答)



図表 2-10 障害者手帳の保有状況（障害種別）

	（車椅子不自由）	（車椅子不自由）	視覚障害	聴覚障害	音声・言語・機能障害	内部障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他
	N=679	N=2,007	N=596	N=729	N=467	N=748	N=825	N=1,117	N=1,752	N=42
身体障害者手帳 1級	28.6%	6.0%	12.2%	6.6%	13.9%	35.8%	7.9%	3.8%	2.5%	23.8%
身体障害者手帳 2級	14.9%	9.8%	12.4%	11.2%	10.5%	4.3%	4.5%	2.9%	2.9%	21.4%
身体障害者手帳 3級	8.2%	7.1%	5.5%	6.2%	7.9%	8.6%	3.0%	1.5%	2.1%	4.8%
身体障害者手帳 4級	6.2%	8.6%	7.0%	8.6%	10.9%	11.5%	3.3%	1.7%	1.5%	7.1%
身体障害者手帳 5級	2.8%	4.2%	6.2%	4.7%	3.0%	2.7%	1.5%	1.7%	1.1%	0.0%
身体障害者手帳 6級	1.6%	4.1%	3.2%	8.0%	4.7%	1.7%	1.5%	1.1%	0.9%	7.1%
療育手帳 マルA・A(最重度・重度)	4.4%	0.8%	2.3%	1.2%	6.0%	1.9%	25.3%	7.6%	1.0%	7.1%
療育手帳 B・C(中度・軽度)	0.6%	0.8%	2.2%	2.1%	4.3%	1.5%	33.2%	14.9%	1.7%	9.5%
療育手帳その他	0.3%	0.4%	1.0%	0.4%	2.1%	0.3%	2.8%	2.0%	0.6%	0.0%
精神障害者保健福祉手帳 1級	0.7%	0.3%	0.8%	0.4%	1.7%	1.5%	1.7%	2.0%	4.2%	2.4%
精神障害者保健福祉手帳 2級	2.4%	1.2%	1.2%	1.5%	2.1%	1.7%	3.3%	9.5%	27.8%	7.1%
精神障害者保健福祉手帳 3級	1.2%	1.3%	1.8%	1.6%	2.4%	0.7%	1.8%	9.8%	20.3%	4.8%
障害者手帳は持っていない	35.5%	58.1%	49.0%	52.1%	39.6%	32.4%	20.1%	48.9%	38.8%	16.7%

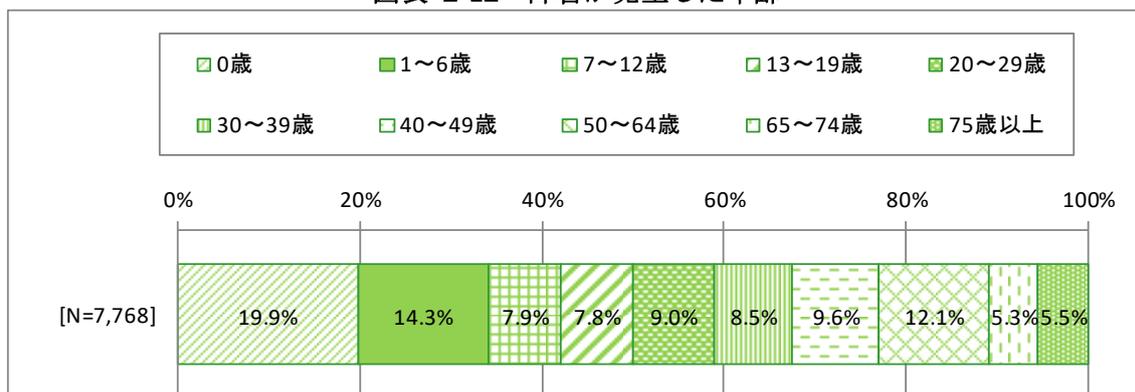
図表 2-11 障害者手帳の保有状況（年齢別）

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上
	N=1,236	N=822	N=935	N=1,289	N=1,850	N=766	N=870
身体障害者手帳 1級	5.3%	6.1%	6.5%	7.3%	10.0%	15.5%	15.5%
身体障害者手帳 2級	2.8%	5.2%	5.3%	5.4%	7.8%	11.9%	10.5%
身体障害者手帳 3級	1.6%	4.9%	4.6%	4.3%	5.7%	6.0%	8.3%
身体障害者手帳 4級	1.9%	3.4%	4.9%	4.0%	7.3%	9.1%	10.1%
身体障害者手帳 5級	2.0%	1.7%	3.5%	2.2%	3.8%	3.7%	2.9%
身体障害者手帳 6級	1.6%	2.2%	2.0%	3.1%	3.0%	3.5%	3.3%
療育手帳マルA・A(最重度・重度)	9.1%	9.7%	4.2%	1.9%	0.7%	0.4%	0.3%
療育手帳 B・C(中度・軽度)	15.5%	12.4%	7.4%	2.9%	0.7%	0.5%	0.8%
療育手帳その他	1.6%	1.7%	1.3%	0.7%	0.4%	0.1%	0.3%
精神障害者保健福祉手帳 1級	0.8%	1.6%	2.4%	1.1%	1.4%	1.6%	1.7%
精神障害者保健福祉手帳 2級	3.5%	5.7%	9.3%	12.3%	11.4%	3.5%	0.9%
精神障害者保健福祉手帳 3級	3.1%	6.7%	8.3%	10.1%	7.2%	2.5%	1.4%
障害者手帳は持っていない	54.2%	43.7%	44.4%	47.5%	43.2%	43.7%	48.0%

(6) 障害が発生した年齢

障害が発生した年齢は、「0歳」が19.9%、「1～6歳」が14.3%で、出生前・出生時や、小学校就学前に障害が発生した割合が全体の3割強となっている（図表 2-12）。

図表 2-12 障害が発生した年齢



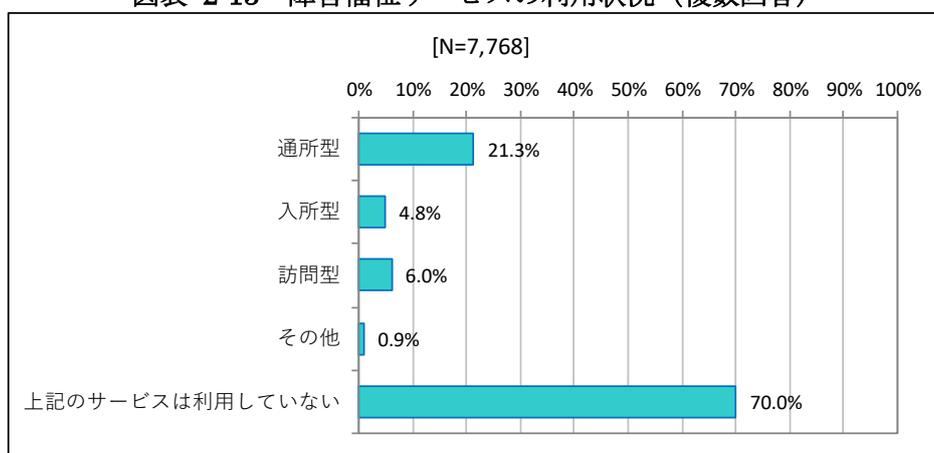
※複数の障害がある場合は、最初に障害が発生した年齢を回答。

(7) 障害福祉サービスの利用状況

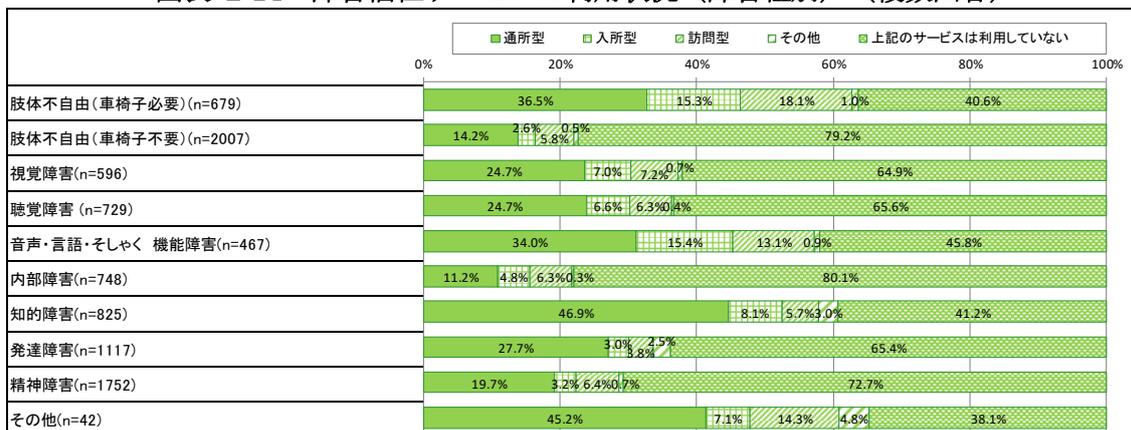
障害福祉サービスの利用状況を見ると、「サービスは利用していない」が7割であった。何らかのサービスを利用している割合は全体の約3分の1で、「通所型」が21.3%と最も多い(図表 2-13)。

障害種別にみると、知的障害(46.9%)は通所型サービスを利用している割合が高い(図表 2-14)。

図表 2-13 障害福祉サービスの利用状況 (複数回答)



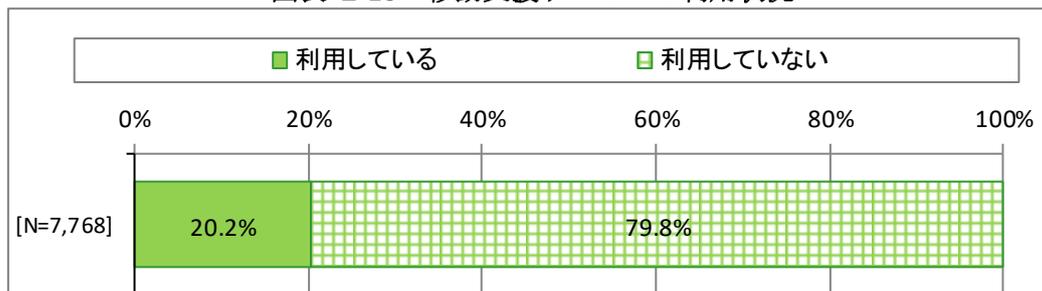
図表 2-14 障害福祉サービスの利用状況 (障害種別) (複数回答)



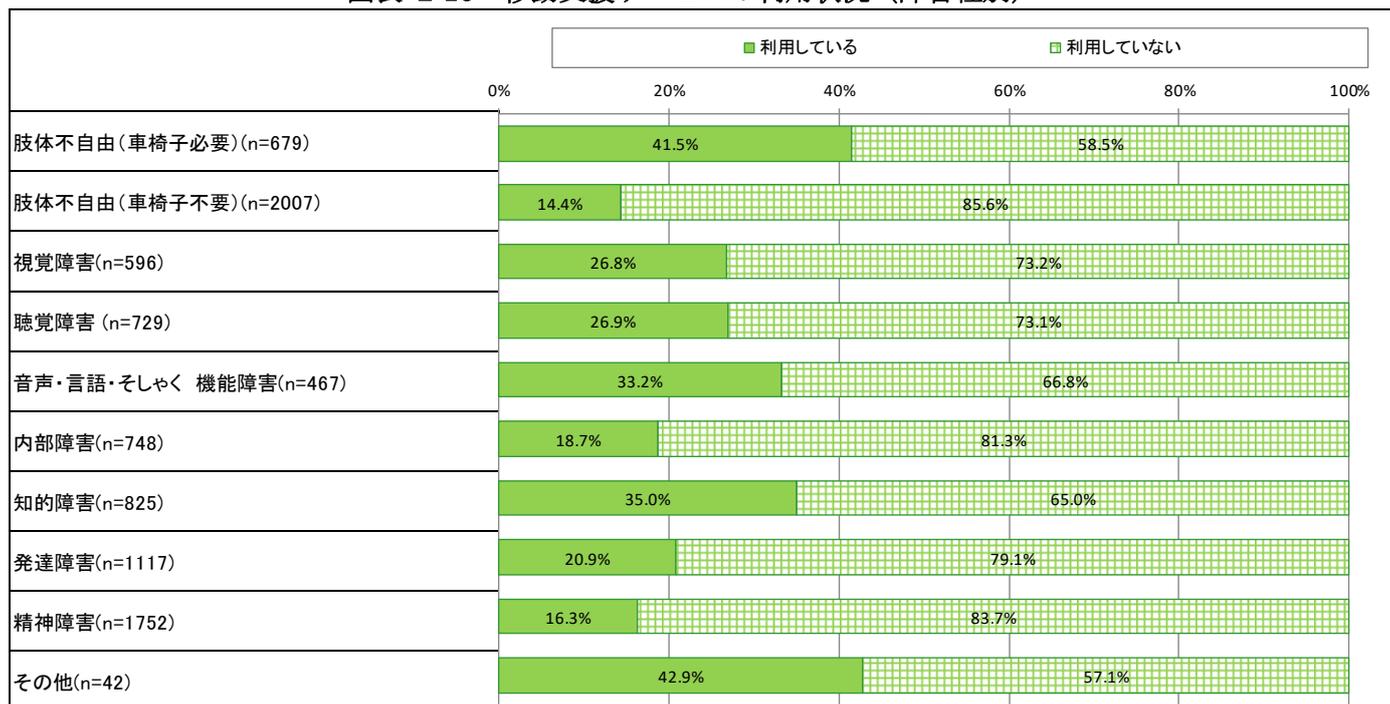
(8) 移動支援に関する福祉サービスの利用状況

移動支援に関する福祉サービスの利用状況をみると、「利用している」割合は約 2 割となっている(図表 2-15)。障害種別では、「肢体不自由(車椅子必要)」(41.5%)、「知的障害」(35.0%)の利用している割合が高い(図表 2-16)。

図表 2-15 移動支援サービスの利用状況



図表 2-16 移動支援サービスの利用状況(障害種別)

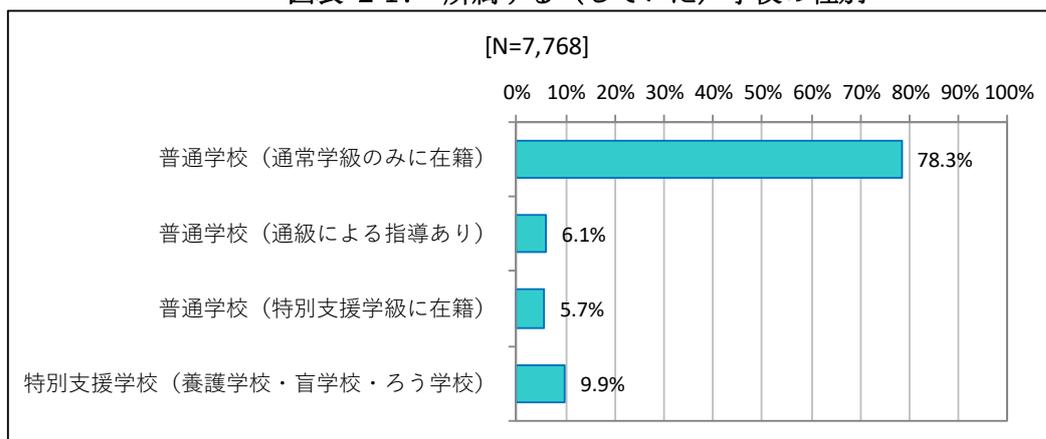


(9) 所属する（していた）学校の種別

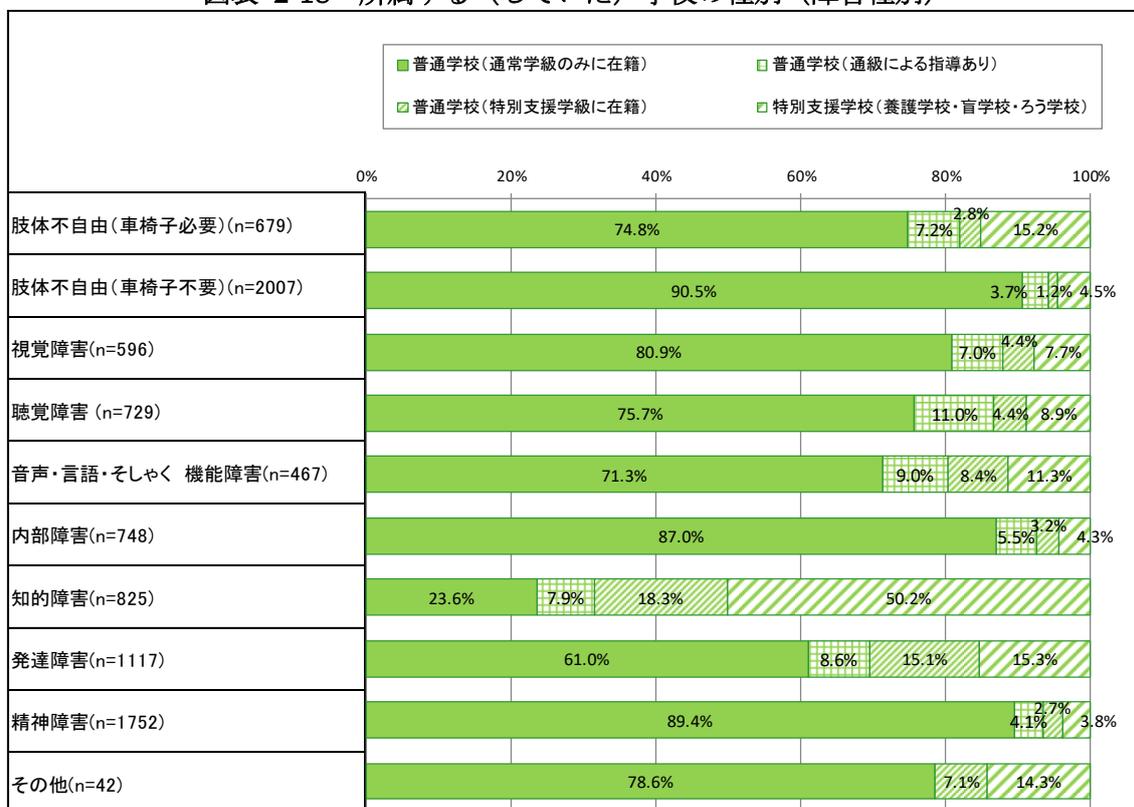
所属する（していた）学校の種別は、「普通学校（通常学級のみ在籍）」が全体の約8割を占め、「特別支援学校」(9.9%)は約1割となっている(図表 2-17)。

障害種別では、「知的障害」(50.2%)は約半数が「特別支援学校（養護学校・盲学校・ろう学校）」に所属する（所属していた）ことがわかる(図表 2-18)。

図表 2-17 所属する（していた）学校の種別



図表 2-18 所属する（していた）学校の種別（障害種別）



図表 2-19 所属する（していた）学校の種別（障害種別／障害発生年齢別）

	障害発生年齢	普通学校 (通常学級 のみに在 籍)	普通学校 (通級による 指導あり)	普通学校 (特別支援 学級に在 籍)	特別支援学 校(養護学 校・盲学校・ ろう学校)
全体	0-6歳[N=2,654]	59.2%	7.7%	11.1%	22.0%
	7-15歳[N=892]	68.3%	12.4%	8.7%	10.5%
	16-18歳[N=266]	83.5%	6.4%	3.0%	7.1%
肢体不自由 (車椅子必要)	0-6歳[N=179]	45.8%	8.9%	2.2%	43.0%
	7-15歳[N=71]	73.2%	9.9%	2.8%	14.1%
	16-18歳[N=269]	68.4%	15.8%	0.0%	15.8%
肢体不自由 (車椅子不要)	0-6歳[N=710]	87.2%	2.5%	2.3%	8.0%
	7-15歳[N=135]	77.8%	12.6%	0.0%	9.6%
	16-18歳[N=46]	80.4%	8.7%	6.5%	4.3%
視覚障害	0-6歳[N=147]	66.0%	8.8%	6.8%	18.4%
	7-15歳[N=101]	70.3%	12.9%	9.9%	6.9%
	16-18歳[N=23]	87.0%	0.0%	0.0%	13.0%
聴覚障害	0-6歳[N=216]	55.6%	15.3%	7.9%	21.3%
	7-15歳[N=96]	71.9%	15.6%	7.3%	5.2%
	16-18歳[N=18]	77.8%	11.1%	5.6%	5.6%
音声・言語・そしゃく 機能障害	0-6歳[N=151]	48.3%	12.6%	15.9%	23.2%
	7-15歳[N=52]	48.1%	19.2%	15.4%	17.3%
	16-18歳[N=10]	40.0%	20.0%	10.0%	30.0%
内部障害	0-6歳[N=137]	63.5%	12.4%	6.6%	17.5%
	7-15歳[N=52]	63.5%	19.2%	9.6%	7.7%
	16-18歳[N=20]	95.0%	0.0%	5.0%	0.0%
知的障害	0-6歳[N=604]	12.7%	5.8%	21.0%	60.4%
	7-15歳[N=91]	30.8%	14.3%	15.4%	39.6%
	16-18歳[N=17]	52.9%	0.0%	5.9%	41.2%
発達障害	0-6歳[N=694]	49.6%	8.2%	20.3%	21.9%
	7-15歳[N=221]	70.1%	12.7%	10.0%	7.2%
	16-18歳[N=36]	88.9%	2.8%	0.0%	8.3%
精神障害	0-6歳[N=284]	66.9%	9.5%	7.0%	16.5%
	7-15歳[N=158]	75.9%	7.0%	10.1%	7.0%
	16-18歳[N=100]	91.0%	7.0%	1.0%	1.0%
その他	0-6歳[N=14]	42.9%	0.0%	14.3%	42.9%
	7-15歳[N=1]	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	16-18歳[N=0]	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

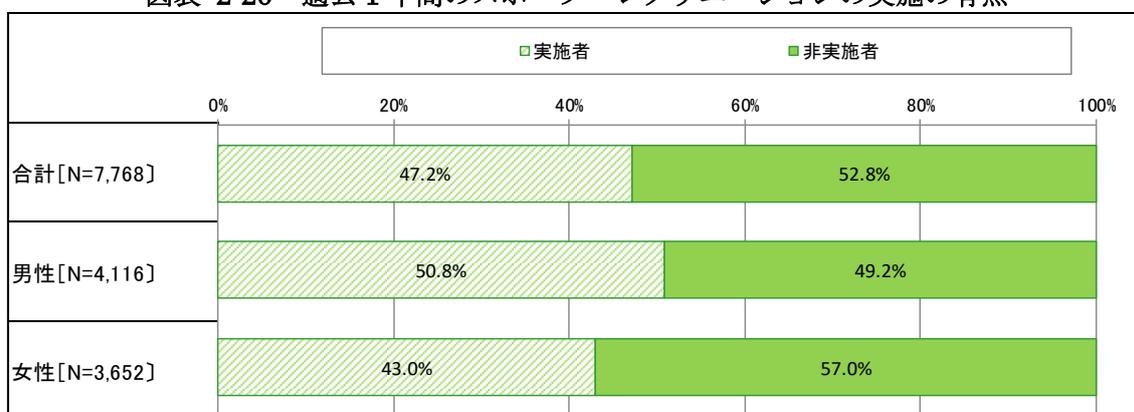
2-2 スポーツ・レクリエーションの実施

(1) 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無

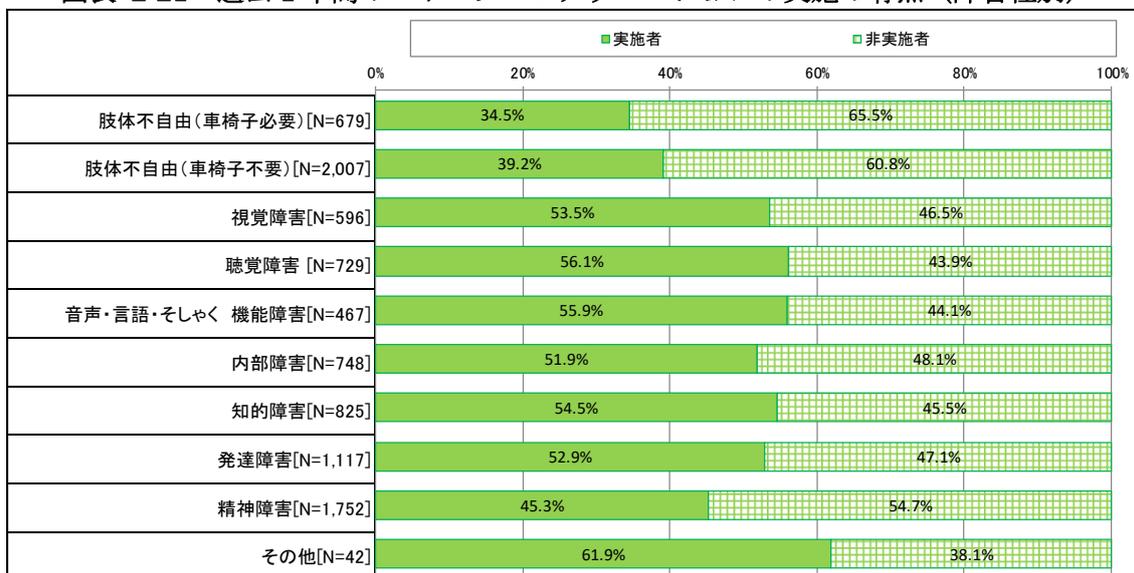
過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施状況を見ると、実施者が47.2%であった。男性のほうが女性よりも実施率が高くなっている（図表 2-20）。

障害種別に見ると、「肢体不自由（車椅子必要）」（34.5%）、「肢体不自由（車椅子不要）」（39.2%）の実施率が他と比べ低い（図表 2-21）。全ての障害種において、女性より男性の実施率が高かった（図表 2-22）。

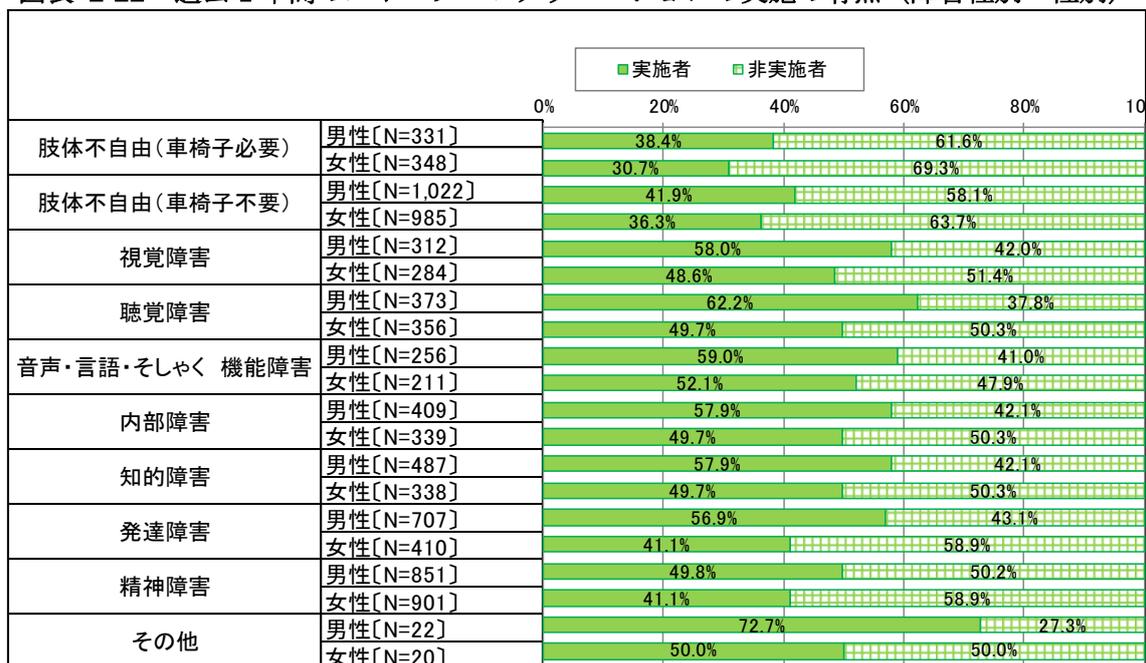
図表 2-20 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無



図表 2-21 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無（障害種別）

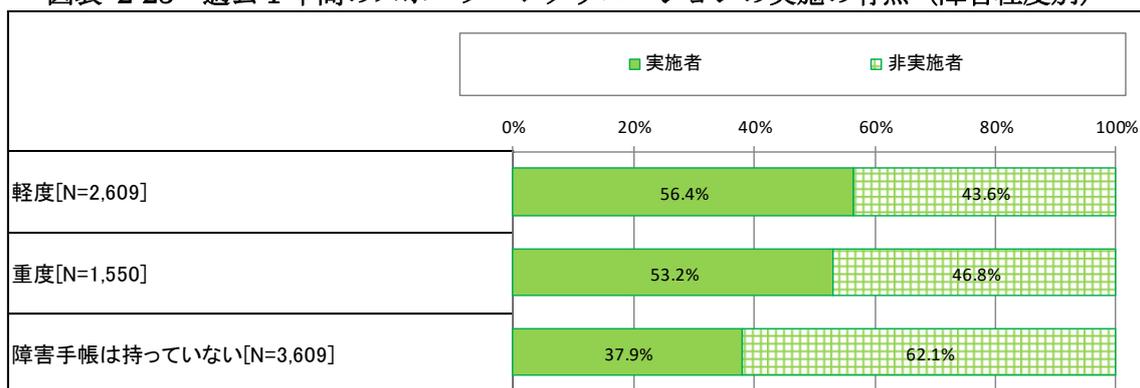


図表 2-22 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無（障害種別・性別）



障害の程度別に見ると、軽度の障害児・者や重度障害児・者では、スポーツ・レクリエーションの実施者が非実施者を上回るが、手帳を持っていない障害児・者では非実施者の割合が高かった(図表 2-23)。さらに男女別にみると、障害の程度にかかわらず、男性の実施者が女性の実施者を上回っている(図表 2-24)。

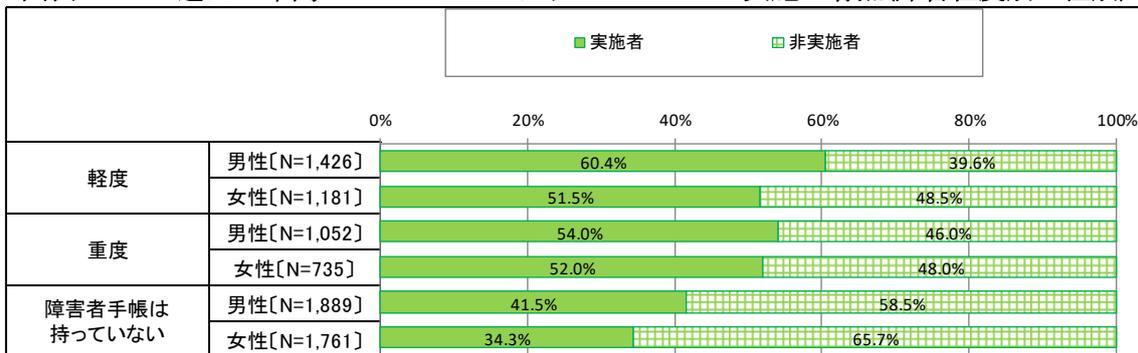
図表 2-23 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無（障害程度別）



※重度／軽度の分類は以下のとおり。(以下同じ)

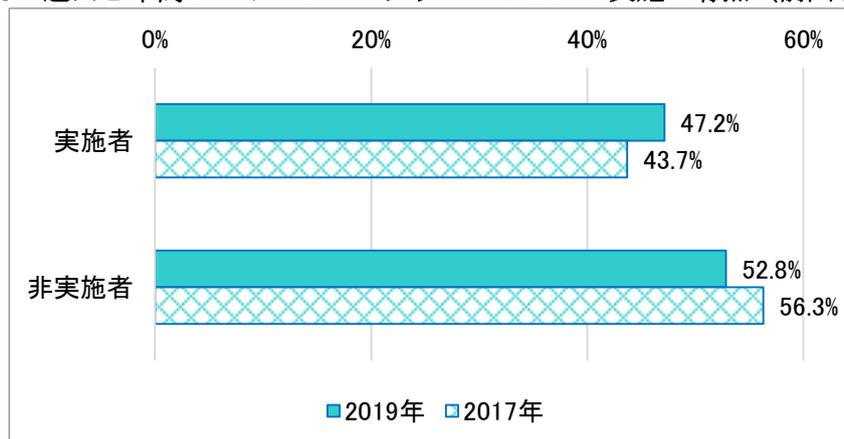
- ・ 重度：身体障害者手帳1級、2級、療育手帳マルA・A、精神障害者福祉手帳1級の保持者
- ・ 軽度：上記以外の障害者手帳保持者

図表 2-24 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(障害程度別・性別)



2017年度調査と比較すると、実施者の割合は43.7%から47.2%となり、障害者のスポーツ実施者は増加していることがわかる(図表 2-25)。

図表 2-25 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(前回との比較)



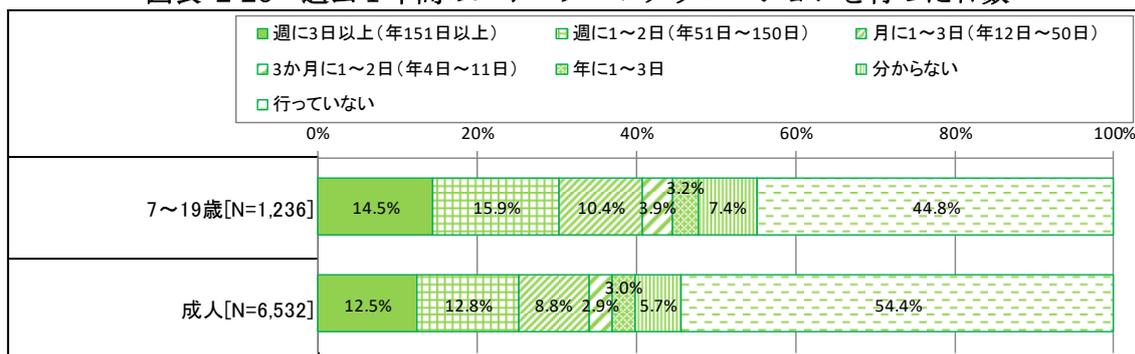
(2) 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数

過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数について、7～19歳と成人に分けて集計した。7～19歳では「週に3日以上」が14.5%、「週に1～2日」が15.9%と、週1日以上の実施者が30.4%であるのに対して、「行っていない」が44.8%であった。成人では、「週に3日以上」と「週に1～2日」を合わせ週1日以上の実施者が25.3%、「行っていない」が約5割以上を占めた(図表2-26)。

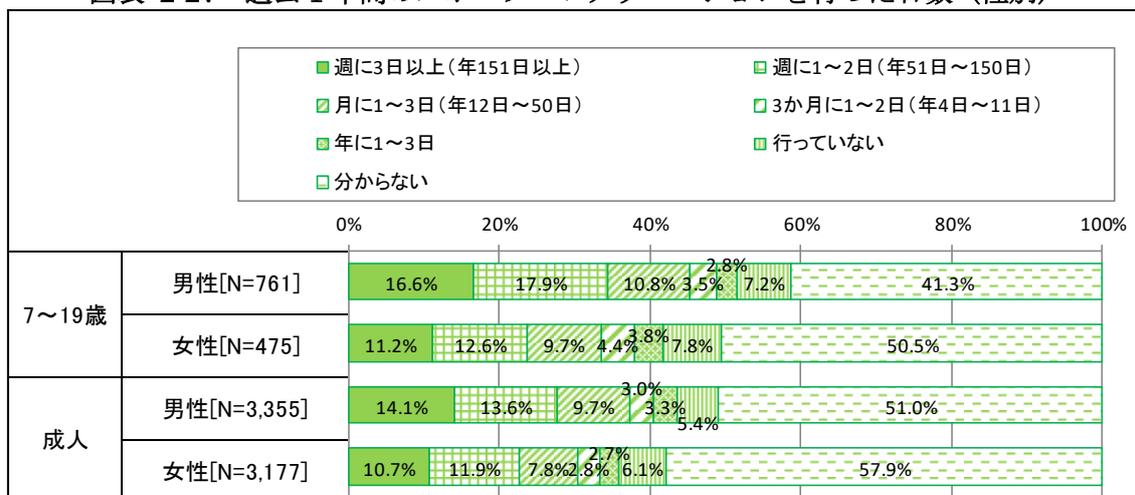
また、男女別では19歳以下の男性は34.5%、女性は23.8%、成人男性は27.7%、成人女性は22.6%となっており、男性のほうが週1日以上スポーツを実施する割合が高い(図表2-27)。

年度別でみると、成人は週1日以上の実施率が2013年から増加してきているが、7～19歳は「行っていない」割合が増加している(図表2-28)。

図表 2-26 過去1年間のスポーツ・レクリエーションを行った日数



図表 2-27 過去1年間のスポーツ・レクリエーションを行った日数(性別)



図表 2-28 過去1年間のスポーツ・レクリエーションを行った日数
(障害種別・年度別/7～19歳・成人別)

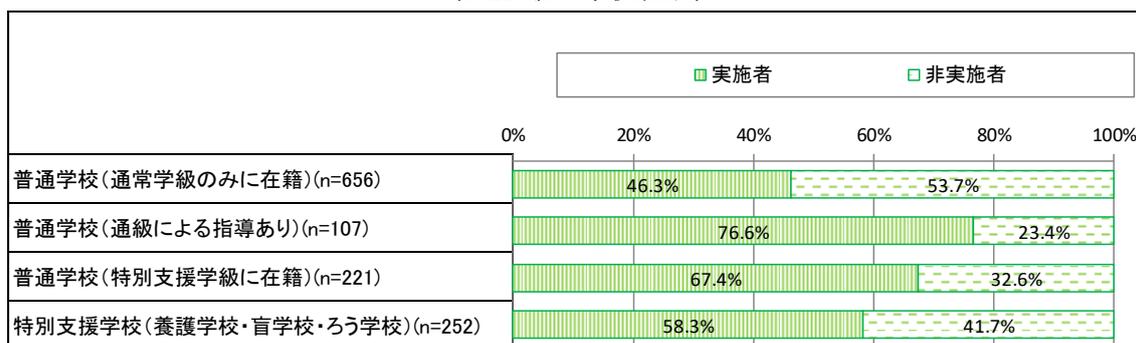
	調査年度	調査年度	(年週に3日以上)	(年週に5日以上)	(年週に10日以上)	(年週に15日以上)	(年週に20日以上)	年1～3日	行っていない	分からない
			(年週に3日以上)	(年週に5日以上)	(年週に10日以上)	(年週に15日以上)	(年週に20日以上)			
全体	7-19歳[N=1,236]	2019	14.5	15.9	30.4	10.4	3.9	3.2	44.8	7.4
	7-19歳[N=1,394]	2017	13.2	16.4	29.6	11.3	5.0	3.6	43.8	6.7
	7-19歳[N=950]	2015	14.0	17.5	31.5	10.8	4.7	4.3	41.9	6.7
	7-19歳[N=710]	2013	10.0	20.7	30.7	14.1	4.1	6.3	38.6	6.2
	成人[N=6,532]	2019	12.5	12.8	25.3	8.8	2.9	3.0	54.4	5.7
	成人[N=6,700]	2017	9.8	11.0	20.8	8.4	2.9	3.8	58.9	5.1
	成人[N=5,499]	2015	9.3	9.9	19.2	8.0	3.0	4.0	60.2	5.7
	成人[N=4,671]	2013	8.5	9.7	18.2	8.9	4.1	5.0	58.2	5.5
	7-19歳[N=69]	2019	13.0	13.0	26.0	15.9	5.8	4.3	47.8	0.0
肢体不自由 (車椅子必要)	7-19歳[N=72]	2017	6.9	12.5	19.4	11.1	5.6	5.6	58.3	0.0
	7-19歳[N=49]	2015	4.1	6.1	10.2	10.2	4.1	0.0	71.4	4.1
	7-19歳[N=58]	2013	3.4	8.6	12.0	19.0	1.7	5.2	55.2	6.9
	成人[N=610]	2019	9.0	8.9	17.9	8.0	2.5	1.6	67.5	2.5
	成人[N=647]	2017	5.9	6.5	12.4	6.5	3.2	2.2	72.8	2.9
	成人[N=606]	2015	5.4	4.8	10.2	6.8	1.3	1.7	76.7	3.3
	成人[N=572]	2013	6.1	5.9	12.0	4.9	3.7	3.8	72.2	3.3
	7-19歳[N=186]	2019	8.6	8.1	16.7	3.8	1.6	2.2	71.5	4.3
	7-19歳[N=190]	2017	4.7	11.6	16.3	10.0	2.6	1.6	63.7	5.8
肢体不自由 (車椅子不要)	7-19歳[N=108]	2015	11.1	9.3	20.4	5.6	0.9	0.9	67.6	4.6
	7-19歳[N=78]	2013	3.8	15.4	19.2	7.7	1.3	0.0	64.1	7.7
	成人[N=1,821]	2019	11.7	11.6	23.3	6.4	1.9	2.4	59.7	6.2
	成人[N=1,721]	2017	9.5	9.7	19.2	6.6	2.5	2.8	64.7	4.2
	成人[N=1,528]	2015	7.7	8.8	16.5	6.2	3.2	3.7	66.0	4.5
	成人[N=1,185]	2013	7.0	9.4	16.4	7.3	3.1	4.3	63.5	5.4
	7-19歳[N=56]	2019	16.1	17.9	34.0	7.1	1.8	8.9	39.3	8.9
	7-19歳[N=68]	2017	2.9	20.6	23.5	10.3	7.4	4.4	51.5	2.9
	7-19歳[N=35]	2015	17.1	25.7	42.9	2.9	2.9	5.7	42.9	2.9
視覚障害	7-19歳[N=38]	2013	7.9	13.2	21.1	15.8	2.6	5.3	39.5	15.8
	成人[N=540]	2019	13.5	15.4	28.9	9.8	4.4	3.1	47.2	6.5
	成人[N=620]	2017	11.5	14.2	25.7	7.3	3.2	3.4	54.5	6.0
	成人[N=509]	2015	8.3	11.0	19.3	10.0	2.2	4.3	57.0	7.3
	成人[N=436]	2013	8.5	10.3	18.8	7.6	5.3	5.7	58.5	4.1
	7-19歳[N=63]	2019	20.6	17.5	38.1	9.5	6.3	1.6	34.9	9.5
	7-19歳[N=90]	2017	20.0	10.0	30.0	15.6	6.7	5.6	33.3	8.9
	7-19歳[N=59]	2015	20.3	16.9	37.3	13.6	6.8	3.4	32.2	6.8
	7-19歳[N=60]	2013	15.0	18.3	33.3	21.7	5.0	3.3	31.7	5.0
聴覚障害	成人[N=666]	2019	15.0	17.1	32.1	11.4	4.1	2.4	44.7	5.3
	成人[N=672]	2017	11.0	12.2	23.2	11.3	2.2	4.0	53.9	5.4
	成人[N=566]	2015	11.0	11.1	22.1	8.1	4.4	2.8	55.3	7.2
	成人[N=445]	2013	9.0	13.5	22.5	11.0	6.5	5.6	48.1	6.3
	7-19歳[N=60]	2019	18.3	20.0	38.3	8.3	11.7	1.7	35.0	5.0
	成人[N=407]	2017	8.1	15.5	23.6	14.5	4.9	5.4	45.5	6.1
	7-19歳[N=57]	2019	15.8	19.3	35.1	15.8	1.8	0.0	47.4	0.0
	成人[N=691]	2019	16.1	13.9	30.0	9.4	4.2	2.5	48.2	5.8
	7-19歳[N=276]	2019	15.6	23.6	39.2	15.2	1.8	2.9	32.2	8.7
知的障害	7-19歳[N=360]	2017	12.8	19.2	32.0	13.3	7.2	3.9	34.2	9.4
	7-19歳[N=292]	2015	11.3	20.2	31.5	14.0	6.5	3.1	37.0	7.9
	7-19歳[N=224]	2013	9.4	25.4	34.8	14.3	5.4	6.3	34.4	4.9
	成人[N=549]	2019	10.6	13.3	23.9	11.7	2.9	4.2	52.1	5.3
	成人[N=653]	2017	7.7	10.4	18.1	10.1	3.4	6.6	54.7	7.2
	成人[N=440]	2015	6.6	12.3	18.9	8.6	3.6	5.7	56.8	6.4
	成人[N=470]	2013	5.7	8.7	14.4	12.8	2.1	8.1	55.5	7.0
	7-19歳[N=547]	2019	19.6	17.7	37.3	9.7	4.0	2.2	38.9	7.9
	7-19歳[N=598]	2017	18.4	19.9	38.3	12.7	5.2	3.5	33.6	6.7
発達障害	7-19歳[N=445]	2015	15.3	19.8	35.1	11.2	4.5	5.8	35.5	7.9
	7-19歳[N=335]	2013	11.3	25.7	37.0	13.7	5.1	9.3	31.0	3.9
	成人[N=570]	2019	13.3	10.0	23.3	9.5	2.3	3.0	54.9	7.0
	成人[N=542]	2017	10.0	10.3	20.3	11.4	3.3	5.5	54.4	5.0
	成人[N=357]	2015	11.2	11.8	23.0	7.8	3.1	5.9	54.9	5.3
	成人[N=288]	2013	9.0	10.1	19.1	10.4	4.5	5.6	52.8	7.6
	7-19歳[N=149]	2019	13.4	10.7	24.1	8.1	4.0	5.4	46.3	12.1
	7-19歳[N=192]	2017	8.9	11.5	20.4	7.3	1.6	3.6	58.9	8.3
	7-19歳[N=77]	2015	13.0	14.3	27.3	5.2	3.9	3.9	54.5	5.2
精神障害	7-19歳[N=76]	2013	7.9	9.2	17.1	7.9	7.9	5.3	53.9	7.9
	成人[N=1,603]	2019	13.7	12.2	25.9	7.7	1.8	3.2	55.5	5.8
	成人[N=1,734]	2017	11.4	11.6	23.0	8.0	2.1	4.4	57.2	5.2
	成人[N=1,375]	2015	12.1	11.5	23.6	7.9	2.8	4.1	55.2	6.3
	成人[N=1,237]	2013	9.8	9.3	19.1	9.6	3.8	4.4	56.8	6.2
	7-19歳[N=4]	2019	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0
	7-19歳[N=155]	2017	9.0	13.5	22.5	15.5	8.4	5.2	41.9	6.5
	7-19歳[N=91]	2015	11.0	11.0	22.0	11.0	7.7	5.5	51.6	2.2
	7-19歳[N=80]	2013	5.0	17.5	22.5	17.5	3.8	6.3	42.5	7.5
その他(2013～2017は音声・言語・そ しゃく機能障害や内部障害を含む)	成人[N=38]	2019	21.1	7.9	29.0	13.2	0.0	2.6	42.1	13.2
	成人[N=1,315]	2017	10.7	11.3	22.0	8.2	3.6	3.1	57.6	5.5
	成人[N=1,037]	2015	10.9	10.3	21.2	8.2	2.9	3.7	58.8	5.2
	成人[N=912]	2013	8.8	9.3	18.1	8.1	3.2	4.4	62.4	3.8

図表 2-29 過去1年間のスポーツ・レクリエーションを行った日数
(障害種別・性別/7~19歳・成人別)

		性別	(年151日以上) 週に3日以上	(年5週に152日) 週に15日以上	(週に152日以上) 週に15日以上	(年12日53日) 週に15日以上	(年4日51日) 週に15日以上	年に153日	行っていない	分からない
全体	7-19歳	合計[N=1,236]	14.5	15.9	30.4	10.4	3.9	3.2	44.8	7.4
		男性[N=761]	16.6	17.9	34.5	10.8	3.5	2.8	41.3	7.2
		女性[N=475]	11.2	12.6	23.8	9.7	4.4	3.8	50.5	7.8
	成人	合計[N=6,532]	12.5	12.8	25.3	8.8	2.9	3.0	54.4	5.7
		男性[N=3,355]	14.1	13.6	27.7	9.7	3.0	3.3	51.0	5.4
		女性[N=3,177]	10.7	11.9	22.6	7.8	2.8	2.7	57.9	6.1
肢体不自由 (車椅子必要)	7-19歳	合計[N=69]	13.0	13.0	26.0	15.9	5.8	4.3	47.8	0.0
		男性[N=44]	13.6	11.4	25.0	18.2	9.1	4.5	43.2	0.0
		女性[N=25]	12.0	16.0	28.0	12.0	0.0	4.0	56.0	0.0
	成人	合計[N=610]	9.0	8.9	17.9	8.0	2.5	1.6	67.5	2.5
		男性[N=287]	11.8	8.7	20.5	8.0	2.8	1.7	64.5	2.4
		女性[N=323]	6.5	9.0	15.5	8.0	2.2	1.5	70.3	2.5
肢体不自由 (車椅子不要)	7-19歳	合計[N=186]	8.6	8.1	16.7	3.8	1.6	2.2	71.5	4.3
		男性[N=91]	9.9	9.9	19.8	4.4	1.1	2.2	67.0	5.5
		女性[N=95]	7.4	6.3	13.7	3.2	2.1	2.1	75.8	3.2
	成人	合計[N=1,821]	11.7	11.6	23.3	6.4	1.9	2.4	59.7	6.2
		男性[N=931]	12.8	12.8	25.6	7.2	1.6	2.8	57.3	5.6
		女性[N=890]	10.6	10.4	21.0	5.5	2.2	2.0	62.4	6.9
視覚障害	7-19歳	合計[N=56]	16.1	17.9	34.0	7.1	1.8	8.9	39.3	8.9
		男性[N=31]	22.6	16.1	38.7	9.7	3.2	3.2	38.7	6.5
		女性[N=25]	8.0	20.0	28.0	4.0	0.0	16.0	40.0	12.0
	成人	合計[N=540]	13.5	15.4	28.9	9.8	4.4	3.1	47.5	6.5
		男性[N=281]	17.8	16.7	34.5	10.3	3.6	3.2	42.3	6.0
		女性[N=259]	8.9	13.9	22.8	9.3	5.4	3.1	52.5	6.9
聴覚障害	7-19歳	合計[N=63]	20.6	17.5	38.1	9.5	6.3	1.6	34.9	9.5
		男性[N=35]	25.7	20.0	45.7	8.6	5.7	2.9	28.6	8.6
		女性[N=28]	14.3	14.3	28.6	10.7	7.1	0.0	42.9	10.7
	成人	合計[N=666]	15.0	17.1	32.1	11.4	4.1	2.4	44.7	5.3
		男性[N=338]	16.3	17.5	33.8	13.9	5.3	2.7	38.8	5.6
		女性[N=328]	8.9	13.9	22.8	9.3	5.4	3.1	52.5	6.9
音声・言語・そしゃく 機能障害	7-19歳	合計[N=60]	18.3	20.0	38.3	8.3	11.7	1.7	35.0	5.0
		男性[N=40]	22.5	25.0	47.5	10.0	7.5	0.0	27.5	7.5
		女性[N=20]	10.0	10.0	20.0	5.0	20.0	5.0	50.0	0.0
	成人	合計[N=407]	8.1	15.5	23.6	14.5	4.9	5.4	45.5	6.1
		男性[N=216]	11.6	13.4	25.0	13.4	4.6	6.5	43.5	6.9
		女性[N=191]	4.2	17.8	22.0	15.7	5.2	4.2	47.6	5.2
内部障害	7-19歳	合計[N=57]	15.0	17.0	32.0	11.4	4.2	2.3	45.0	5.5
		男性[N=28]	21.4	21.4	42.8	14.3	0.0	0.0	42.9	0.0
		女性[N=29]	10.3	17.2	27.5	17.2	3.4	0.0	51.7	0.0
	成人	合計[N=691]	15.0	17.1	32.1	11.4	4.1	2.4	44.7	5.3
		男性[N=381]	17.6	14.7	32.3	7.9	2.6	2.1	49.9	5.2
		女性[N=310]	14.2	12.9	27.1	11.3	6.1	2.9	46.1	6.5
知的障害	7-19歳	合計[N=276]	15.6	23.6	39.2	15.2	1.8	2.9	32.2	8.7
		男性[N=190]	16.3	24.7	41.0	14.2	1.6	2.1	33.2	7.9
		女性[N=86]	14.0	20.9	34.9	17.4	2.3	4.7	30.2	10.5
	成人	合計[N=549]	10.6	13.3	23.9	11.7	2.9	4.2	52.1	5.3
		男性[N=297]	11.8	11.8	23.6	15.2	3.7	4.0	47.8	5.7
		女性[N=252]	9.1	15.1	24.2	7.5	2.0	4.4	57.1	4.8
発達障害	7-19歳	合計[N=547]	19.6	17.7	37.3	9.7	4.0	2.2	38.9	7.9
		男性[N=398]	21.1	20.6	41.7	9.0	3.0	2.0	36.4	7.8
		女性[N=149]	15.4	10.1	25.5	11.4	6.7	2.7	45.6	8.1
	成人	合計[N=570]	13.3	10.0	23.3	9.5	2.3	3.0	54.9	7.0
		男性[N=309]	14.6	10.7	25.3	12.0	2.3	3.2	51.8	5.5
		女性[N=261]	11.9	9.2	21.1	6.5	2.3	2.7	58.6	8.8
精神障害	7-19歳	合計[N=149]	13.4	10.7	24.1	8.1	4.0	5.4	46.3	12.1
		男性[N=77]	13.0	11.7	24.7	9.1	1.3	5.2	51.9	7.8
		女性[N=72]	13.9	9.7	23.6	6.9	6.9	5.6	40.3	16.7
	成人	合計[N=1,603]	13.7	12.2	25.9	7.7	1.8	3.2	55.5	5.8
		男性[N=774]	15.6	14.7	30.3	8.5	2.1	3.4	50.0	5.7
		女性[N=829]	11.9	9.9	21.8	7.0	1.6	3.1	60.6	5.9
その他	7-19歳	合計[N=4]	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0
		男性[N=3]	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3
		女性[N=1]	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	成人	合計[N=38]	21.1	7.9	29.0	13.2	0.0	2.6	42.1	13.2
		男性[N=19]	42.1	5.3	47.4	10.5	0.0	0.0	31.6	10.5
		女性[N=19]	0.0	10.5	10.5	15.8	0.0	5.3	52.6	15.8
スポーツの実施状況等に関する世論調査(平成29年度)	成人	合計[N=19,502]	26.0	25.5	51.5	12.1	4.7	3.0	26.3	2.5
		男性[N=9,686]	26.9	26.1	53.0	13.3	4.6	3.0	24.1	1.9
		女性[N=9,816]	25.1	24.9	50.0	10.8	4.7	3.1	28.4	3.1

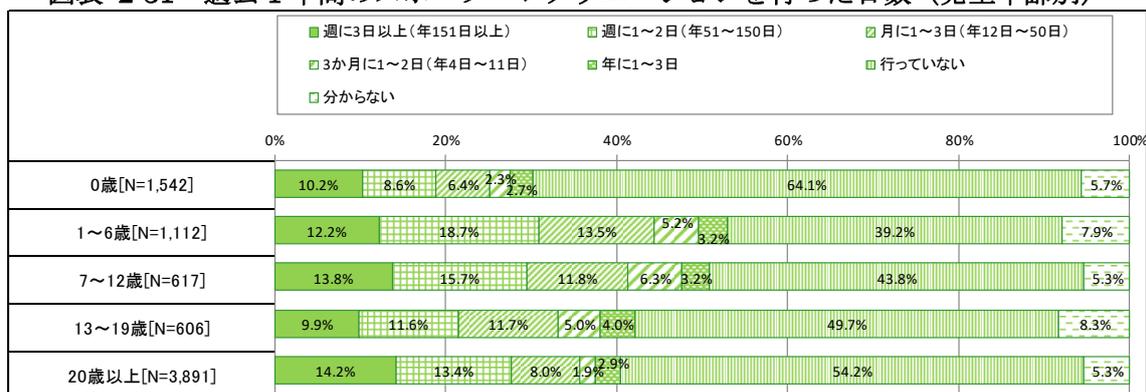
7～19歳の実施者・非実施者の割合を学校種別でみると、普通学校(通常学級のみ)に在籍の場合、非実施者の割合が53.7%と半数を超えている。普通学校に在籍していると、スポーツに触れにくくなっているという可能性が考えられる(図表 2-30)。

図表 2-30 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(7-19歳・学校種別)

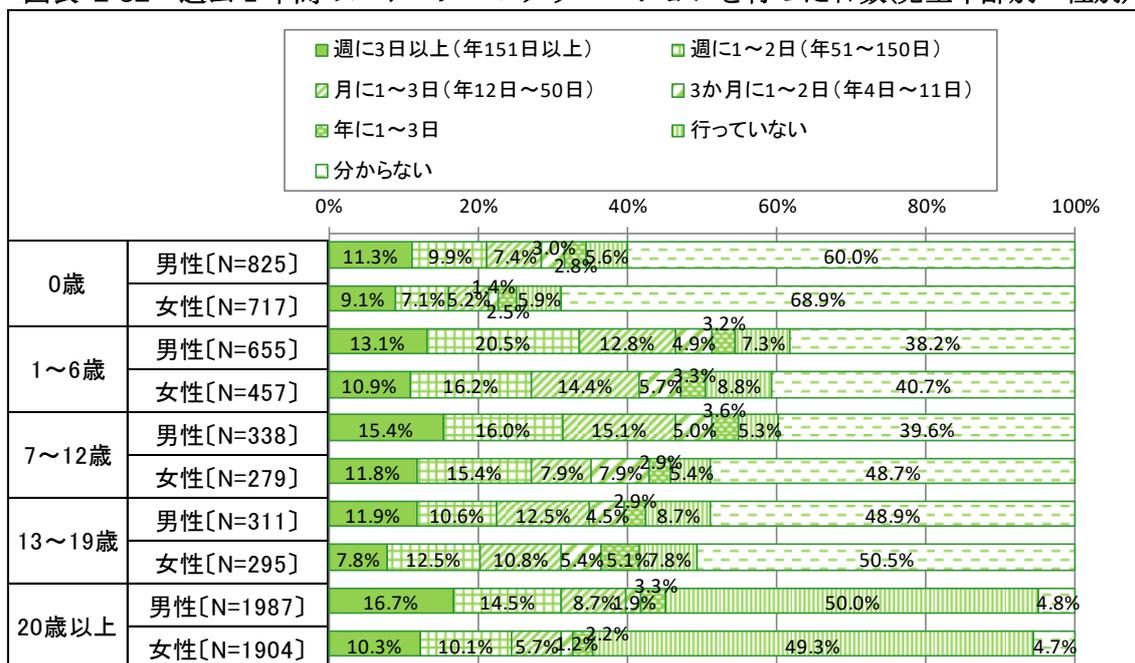


発生年齢別にみると、週1日以上の実施者は「1～6歳」(30.9%)、「7～12歳」(29.5%)、「20歳以上」(27.6%)、「13～19歳」(21.5%)、「0歳」(18.8%)の順になっている(図表 2-31)。性別では、発生年齢を問わず男性のほうが週1日以上の実施率が高い(図表 2-32)。年収別でみると、年収が高いとスポーツを実施する割合が増えることがわかる(図表 2-33)。

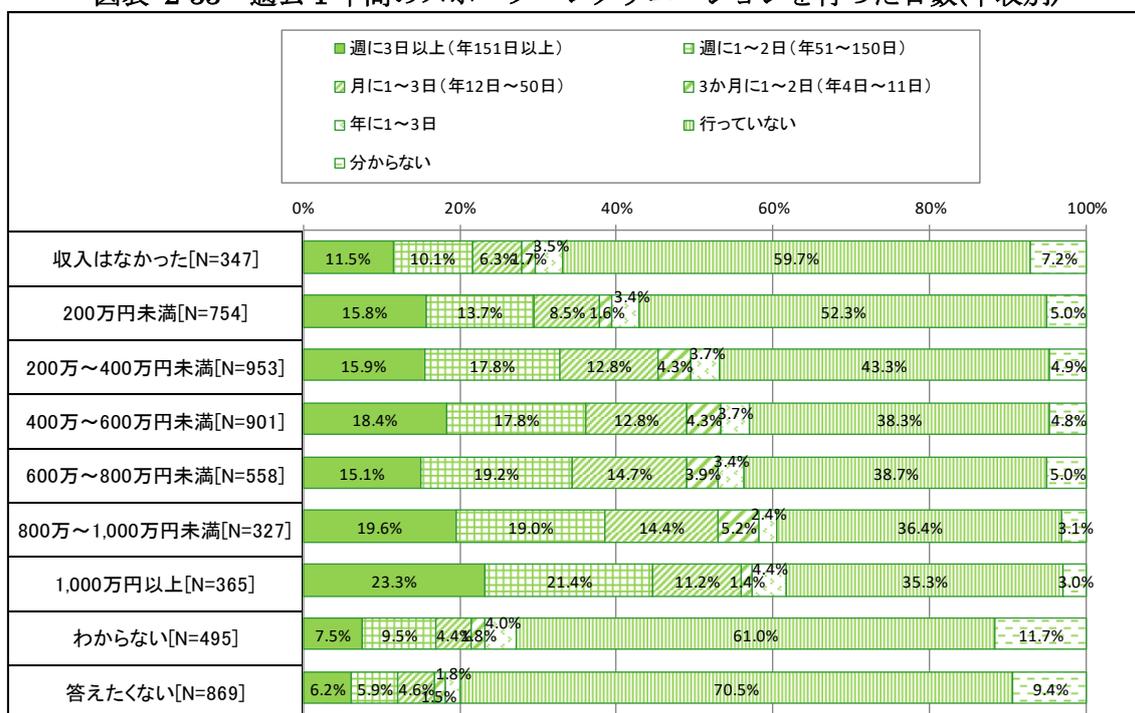
図表 2-31 過去1年間のスポーツ・レクリエーションを行った日数(発生年齢別)



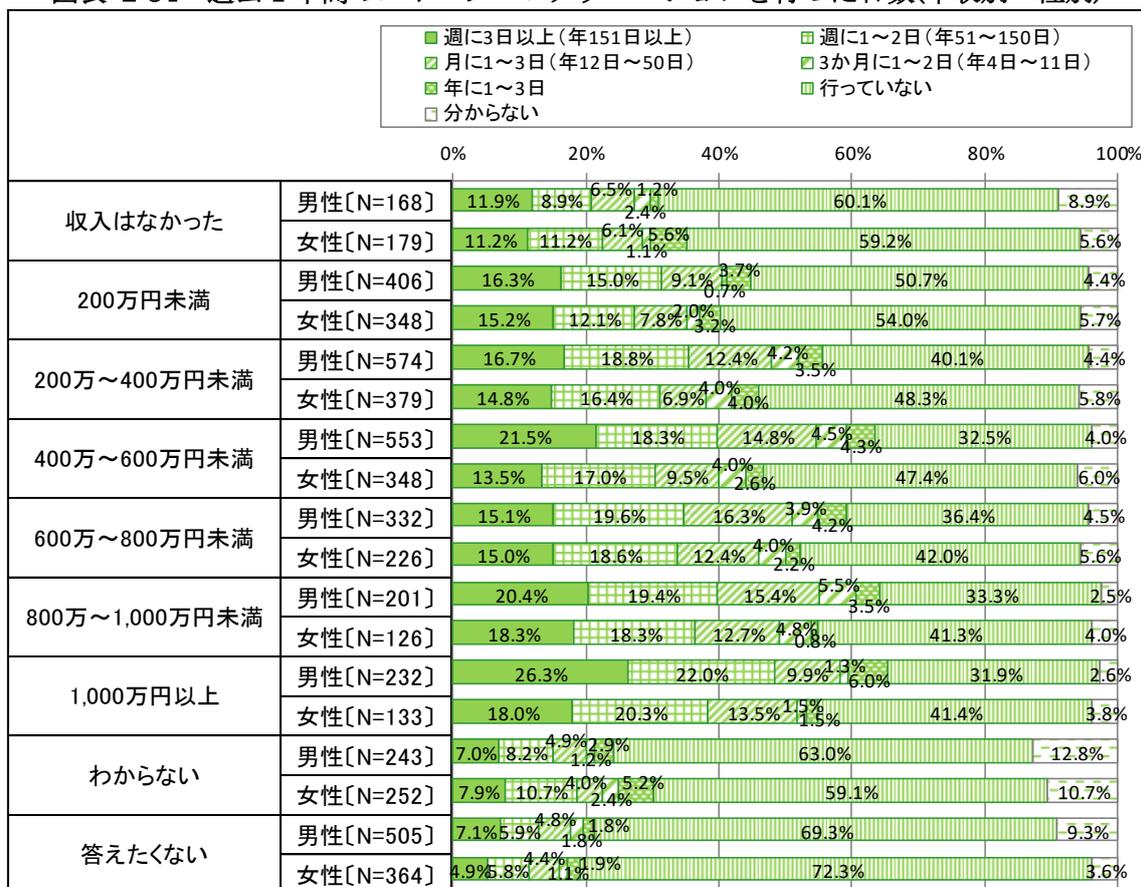
図表 2-32 過去1年間のスポーツ・レクリエーションを行った日数(発生年齢別・性別)



図表 2-33 過去1年間のスポーツ・レクリエーションを行った日数(年収別)



図表 2-34 過去1年間のスポーツ・レクリエーションを行った日数(年収別・性別)



以下の(3)～(7)は、過去1年間に何らかのスポーツ・レクリエーションを行った3,663人を対象とする。

(3) 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション

過去1年間にスポーツ・レクリエーションを「行った」と回答した人が、どのようなスポーツ・レクリエーションを行ったかについて、障害種別に上位種目をまとめた。どの障害も、「ウォーキング」の割合が最も高く、「散歩(ぶらぶら歩き)」、「階段昇降」も実施率が高かった。肢体不自由(車椅子必要)は、他の障害に比べて「身体活動を伴うリハビリテーション」の割合が高い(図表 2-35)。

図表 2-35 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別・全体:N=3,663) (複数回答)

	(車椅子不自由)		(車椅子不自由)		視覚障害	聴覚障害	音声・言語・その他	内部障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他								
	N=234	N=786	N=319	N=409									N=261	N=388	N=450	N=591	N=794	N=26		
1位	ウォーキング	38.5	ウォーキング	54.8	ウォーキング	52.4	ウォーキング	50.4	ウォーキング	41.4	ウォーキング	37.8	ウォーキング	42.1	ウォーキング	57.9	散歩(ぶらぶら歩き)	42.3		
2位	身体活動を伴うリハビリテーション	25.6	散歩(ぶらぶら歩き)	35.2	階段昇降	32.0	散歩(ぶらぶら歩き)	34.5	散歩(ぶらぶら歩き)	26.4	散歩(ぶらぶら歩き)	39.4	散歩(ぶらぶら歩き)	34.4	散歩(ぶらぶら歩き)	35.7	散歩(ぶらぶら歩き)	40.4	ウォーキング	34.6
3位	散歩(ぶらぶら歩き)	17.5	階段昇降	20.7	ジョギング/ランニング	19.1	階段昇降	18.1	階段昇降	16.9	階段昇降	24.0	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	23.1	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	23.0	階段昇降	20.9	階段昇降	19.2
4位	階段昇降	15.8	身体活動を伴うリハビリテーション	9.8	マラソン・駅伝などのロードレース	12.9	ジョギング/ランニング	13.9	リハビリテーション	12.3	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	12.4	階段昇降	15.6	階段昇降	18.8	ジョギング/ランニング	13.6	身体活動を伴うリハビリテーション	15.4
5位	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	7.3	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	9.2	散歩(ぶらぶら歩き)	6.3	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	8.6	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	10.7	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	10.8	ジョギング/ランニング	12.2	ジョギング/ランニング	18.6	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	8.9	ボウリング	11.5
6位	マラソン・駅伝などのロードレース	5.6	ジョギング/ランニング	7.0	陸上競技	5.3	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	6.6	ジョギング/ランニング	9.6	ジョギング/ランニング	8.8	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	8.7	なわとび	13.4	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	7.8	その他	
7位	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	5.1	水中歩行	6.4	ソフトバレーボール	4.7	水中歩行	6.1	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	8.4	水中歩行	7.1	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	7.1	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	10.5	ヨーガ/ピラティス	6.3	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	
8位	ジョギング/ランニング	4.7	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	6.0	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	4.4	自転車(BMX含む)/サイクリング	5.6	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	5.7	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	6.7	水中歩行	5.8	自転車(BMX含む)/サイクリング	9.1	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	6.2	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	
9位	ポッチャ		筋力トレーニング(マシントレーニング)	4.5	キャッチボール	4.1	身体活動を伴うリハビリテーション	5.4	マラソン・駅伝などのロードレース	5.0	身体活動を伴うリハビリテーション	6.2	マラソン・駅伝などのロードレース	5.8	サッカー	8.6	筋力トレーニング(マシントレーニング)	5.9	筋力トレーニング(マシントレーニング)	7.7
10位	【歩く・走る・泳ぐ】水泳		ゴルフ(練習場)	3.7	サッカー	3.8	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	4.9	水中歩行	3.8	筋力トレーニング(マシントレーニング)	5.9	身体活動を伴うリハビリテーション	5.6	マラソン・駅伝などのロードレース	7.3	自転車(BMX含む)/サイクリング	5.8	自転車(BMX含む)/サイクリング	
11位	ヨーガ/ピラティス		ゴルフ(コース)	3.4	水中歩行		マラソン・駅伝などのロードレース	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	3.4	ヨーガ/ピラティス		なわとび	5.6	ドッジボール	6.4	卓球(ラージボール含む)	4.3	その他のレクリエーション等	
12位	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)		筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	3.2	バレーボール/ビーチバレー	3.4	釣り	4.6	アクアエクササイズ	3.4	自転車(BMX含む)/サイクリング	5.4	ボウリング	5.3	海水浴	6.1	スキー	3.9	ジョギング/ランニング/体操(軽い体操/ラジオ体操など)/卓球(ラージボール含む)/スキー	
13位	筋力トレーニング(マシントレーニング)	3.4	マラソン・駅伝などのロードレース	2.4	ソフトボール	3.1	筋力トレーニング(マシントレーニング)	ゴルフ(練習場)		なわとび	3.9	ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)	4.7	ボウリング		水中歩行	3.7	【障害者スポーツ】水泳/ソフトボール		
14位	水中歩行		ヨーガ/ピラティス	2.0	グラウンド・ゴルフ/パークゴルフ/フレットゴルフ等	2.8	ゴルフ(コース)	4.4	海水浴	3.1	ゴルフ(練習場)		サッカー	4.4	キャッチボール	5.9	なわとび	3.4	ロッククライミング/バドミントン/エアロビックダンス/ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)	3.8
15位	ふうせんバレー		釣り		フットベースボール		ゴルフ(練習場)	4.2	なわとび	2.7	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等		海水浴		トランポリン	5.8	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等		水中歩行/登山/トレッキング/トレイルランニング等	
	【障害者スポーツ】水泳												トランポリン							

図表 2-36 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別・7~19歳：N=682) (複数回答)

		(単 肢 体 子 不 自 由)	(単 肢 体 子 不 自 由)	視 覚 障 害	聴 覚 障 害	音 声 ・ 機 能 障 害 ・ そ し ゃ く	内 部 障 害	知 的 障 害	発 達 障 害	精 神 障 害	そ の 他							
												N=36	N=53	N=34	N=41	N=39	N=30	N=187
1位	階段昇降	27.8	ウォーキング	49.1	ウォーキング	38.2	ウォーキング	48.7	ウォーキング	30.0	散歩(ぶらぶら歩き)	38.5	散歩(ぶらぶら歩き)	ウォーキング	62.5	【歩く・走る・泳ぐ】水泳		
2位	ウォーキング		散歩(ぶらぶら歩き)	22.6	散歩(ぶらぶら歩き)	26.5	階段昇降	26.8	散歩(ぶらぶら歩き)	35.9	階段昇降	30.0	ウォーキング	35.8	ウォーキング	36.2	散歩(ぶらぶら歩き)	
3位	身体活動を伴うリハビリテーション	25.0	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	11.3	階段昇降	20.8	散歩(ぶらぶら歩き)	24.4	階段昇降	23.1	散歩(ぶらぶら歩き)	23.3	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	33.7	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	32.0	階段昇降	
4位	ポッチャ	19.4	階段昇降		【歩く・走る・泳ぐ】水泳	9.4	ジョギング/ランニング	22.0	ジョギング/ランニング	20.5	階段昇降	20.9	ジョギング/ランニング	19.3	ジョギング/ランニング	19.8	ジョギング/ランニング	
5位	【歩く・走る・泳ぐ】水泳		サッカー		身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等		【歩く・走る・泳ぐ】水泳	12.2	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	17.9	マラソン・駅伝などのロードレース	20.0	ジョギング/ランニング	11.8	ジョギング/ランニング	19.2	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	
6位	マラソン・駅伝などのロードレース	16.7	卓球(ラージボール含む)		ジョギング/ランニング		陸上競技		身体活動を伴うリハビリテーション	7.3	水中歩行	15.4	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	11.2	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	15.6	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	
7位	散歩(ぶらぶら歩き)	13.9	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	5.7	陸上競技	8.8	体操(軽い体操/ラジオ体操など)		水中歩行		身体活動を伴うリハビリテーション	15.4	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	11.2	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	15.6	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	
8位	海水浴		身体活動を伴うリハビリテーション		なわとび		なわとび		ジョギング/ランニング		ジョギング/ランニング	12.8	なわとび	10.7	サッカー	13.5	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	
9位	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	11.1	ジョギング/ランニング		フリークライミング/ボルダリング		ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)		身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	12.8	なわとび	13.3	なわとび	9.6	ドッジボール	10.2	身体活動を伴うリハビリテーション	
10位	水中歩行	8.3	陸上競技		ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)		水中歩行	4.9	マラソン・駅伝などのロードレース		陸上競技		マラソン・駅伝などのロードレース	8.6	自転車(BMX含む)/サイクリング	9.6	マラソン・駅伝などのロードレース	
11位	トランポリン		バスケットボール		ゴルフ(練習場)	5.9	トランポリン	10.3	トランポリン	10.3	テニス(硬式テニス)		身体活動を伴うリハビリテーション		トランポリン		キャッチボール	
12位	ジョギング/ランニング		ハレーボール/ビーチバレー	3.8	登山/トレッキング/トレイルランニング/ロッククライミング		ボウリング		ポッチャ		体操(軽い体操/ラジオ体操など)		海水浴		マラソン・駅伝などのロードレース	9.3	バスケットボール	
13位	サッカー(ブラインドサッカー/ハンドサッカー/OPサッカー/アンブティサッカー/ロビジョンフットサル等)	5.6	スキー		ポッチャ		身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等		バドミントン	7.7	ポッチャ		サッカー	8.0	キャッチボール	8.7	サッカー	
14位	体操(軽い体操/ラジオ体操など)		アクアエクササイズ		マラソン・駅伝などのロードレース		ポッチャ		卓球(ラージボール含む)		海水浴	10.0	水中歩行		ボウリング	8.1	自転車(BMX含む)/サイクリング	
15位	ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)		水中歩行		体操(軽い体操/ラジオ体操など)		アクアエクササイズ		海水浴		海水浴		ポッチャ	5.9	海水浴	7.8	陸上競技	
	ヨーガ/ピラティス		キャッチボール		アクアエクササイズ		野球		自転車(BMX含む)/サイクリング		サッカー		ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)				スキー	
			野球		キャッチボール		バドミントン		バドミントン									テニス(硬式テニス)
			ボウリング		野球	2.9	自転車(BMX含む)/サイクリング	2.4	自転車(BMX含む)/サイクリング	2.4								ハレーボール/ビーチバレー
			フットサル		バドミントン		サッカー		サッカー									
			フットベースボール(キックベース)	1.9	自転車(BMX含む)/サイクリング		ドッジボール		釣り									
			ソフトテニス(軟式テニス)		サッカー		釣り		グラウンド・ゴルフ/パークゴルフ/マレットゴルフ等									
			テニス(硬式テニス)		バスケットボール		バスケットボール		チャリティー/バドミントン									
			ドッジボール		ドッジボール		ドッジボール		レスリング/相撲/ボクシング等									
			バドミントン 等		ハレーボール(シッティングハレーボール/フロアハレーボール等)等		ハレーボール(シッティングハレーボール/フロアハレーボール等)等											

図表 2-37 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション障害種別・成人：N=2,981（複数回答）

	(車椅子不自由)	(肢体不自由)	視覚障害	聴覚障害	音声・言語・その他	内部障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他										
											N=198	N=733	N=285	N=368	N=222	N=358	N=263	N=257	N=714	N=22
1位	ウォーキング	40.9	ウォーキング	55.3	ウォーキング	54.0	ウォーキング	51.1	ウォーキング	40.1	ウォーキング	55.6	ウォーキング	39.2	ウォーキング	49.8	ウォーキング	57.4	散歩(ぶらぶら歩き)	50.0
2位	身体活動を伴うリハビリテーション	25.8	散歩(ぶらぶら歩き)	36.2	散歩(ぶらぶら歩き)	32.6	散歩(ぶらぶら歩き)	35.6	散歩(ぶらぶら歩き)	24.8	散歩(ぶらぶら歩き)	40.8	散歩(ぶらぶら歩き)	31.6	散歩(ぶらぶら歩き)	35.0	散歩(ぶらぶら歩き)	41.7	ウォーキング	40.9
3位	散歩(ぶらぶら歩き)	18.2	階段昇降	21.6	階段昇降	18.9	階段昇降	17.1	階段昇降	15.8	階段昇降	23.5	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	15.9	階段昇降	18.3	階段昇降	20.7	階段昇降	22.7
4位	階段昇降	13.6	身体活動を伴うリハビリテーション	10.1	ジョギング/ランニング	13.3	ジョギング/ランニング	13.0	身体活動を伴うリハビリテーション	11.3	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	11.7	階段昇降	11.8	ジョギング/ランニング	17.1	ジョギング/ランニング	13.3	身体活動を伴うリハビリテーション	18.2
5位	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	7.6	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	9.0	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	6.0	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	8.2	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	9.5	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	10.9	ジョギング/ランニング	7.2	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	11.3	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	9.0	ボウリング	13.6
6位	ジョギング/ランニング	4.5	ジョギング/ランニング	7.2	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	5.6	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	6.5	ジョギング/ランニング	9.0	ジョギング/ランニング	7.5	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	6.5	自転車(BMX含む)/サイクリング	8.6	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	7.7	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	
7位	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	4.0	水中歩行	6.2	筋力トレーニング(マシントレーニング)	5.3	水中歩行	6.3	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	6.3	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	7.3	ボウリング	6.1	筋力トレーニング(マシントレーニング)	6.6	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	6.6	筋力トレーニング(マシントレーニング)	
8位	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	6.0	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	6.0	身体活動を伴うリハビリテーション	4.6	自転車(BMX含む)/サイクリング	6.0	筋力トレーニング(マシントレーニング)	6.0	水中歩行	7.0	水中歩行	4.2	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	5.8	ヨーガ/ピラティス	5.9	自転車(BMX含む)/サイクリング	9.1
9位	マラソン・駅伝などのロードレース	3.5	筋力トレーニング(マシントレーニング)	4.6	マラソン・駅伝などのロードレース	4.6	マラソン・駅伝などのロードレース	5.7	マラソン・駅伝などのロードレース	5.7	マラソン・駅伝などのロードレース	5.9	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	5.9	なわとび	5.1	筋力トレーニング(マシントレーニング)	6.2	その他	
10位	ヨーガ/ピラティス	3.5	ゴルフ(練習場)	4.0	ヨーガ/ピラティス	4.2	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	5.4	アクアエクササイズ	3.6	身体活動を伴うリハビリテーション	5.6	身体活動を伴うリハビリテーション	3.8	マラソン・駅伝などのロードレース	4.7	自転車(BMX含む)/サイクリング	5.9	その他のレクリエーション等	
11位	筋力トレーニング(マシントレーニング)	3.7	ゴルフ(コース)	3.7	水中歩行	3.9	マラソン・駅伝などのロードレース	5.2	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	5.2	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	5.6	ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)	3.8	スキー	4.7	卓球(ラージボール含む)	4.6	ジョギング/ランニング	
12位	ふうせんバレー	3.0	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	3.4	アクアエクササイズ	4.9	筋力トレーニング(マシントレーニング)	4.9	ゴルフ(練習場)	2.7	ゴルフ(練習場)	3.4	マラソン・駅伝などのロードレース	5.0	水中歩行	4.3	スキー	3.8	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	
13位	【障害者スポーツ】水泳	2.6	マラソン・駅伝などのロードレース	2.6	自転車(BMX含む)/サイクリング	3.5	釣り	3.5	釣り	2.7	ゴルフ(練習場)	3.4	エアロビクダンス	3.0	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	3.9	水中歩行	3.4	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	
14位	陸上競技	2.5	ヨーガ/ピラティス	2.5	陸上競技	3.2	ゴルフ(コース)	4.6	キャッチボール	2.3	キャッチボール	3.1	エアロビクダンス	3.0	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	3.9	釣り	3.4	卓球(ラージボール含む)	
15位	水中歩行	2.0	海水浴	2.0	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	2.5	ゴルフ(練習場)	4.6	陸上競技	2.3	なわとび	3.1	エアロビクダンス	3.0	ヨーガ/ピラティス	2.7	海水浴	2.9	スキー	
	ポッチャ		釣り		海水浴												海水浴		水中歩行	
	なわとび				釣り														バドミントン	
					なわとび														【障害者スポーツ】水泳	
					ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)														ソフトボール	
					登山/トレッキング/トレイルランニング/ロッククライミング														トランポリン	
					エアロビクダンス														アーチェリー/弓道/射撃/クレー射撃	

図表 2-38 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション(発生年齢別：N=3,663) (複数回答)

	0歳		1~19歳		20歳以上	
	N=553		N=1,328		N=1,782	
1位	ウォーキング	49.2	ウォーキング	38.3	ウォーキング	58.1
2位	散歩(ぶらぶら歩き)	34.0	散歩(ぶらぶら歩き)	26.4	散歩(ぶらぶら歩き)	38.6
3位	階段昇降	19.9	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	15.3	階段昇降	20.0
4位	ジョギング/ランニング	15.4	階段昇降	14.8	ジョギング/ランニング	9.2
5位	【歩く・走る・泳ぐ】水泳		ジョギング/ランニング	14.3	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	8.6
6位	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	8.4	なわとび	8.1	身体活動を伴うリハビリテーション	7.6
7位	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	5.8	マラソン・駅伝などのロードレース	6.3	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	7.4
8位	マラソン・駅伝などのロードレース	5.6	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	6.1	筋カトレーニング(マシントレーニング)	5.5
9位	身体活動を伴うリハビリテーション		サッカー	5.3	水中歩行	5.4
10位	なわとび	5.4	自転車(BMX含む)/サイクリング	5.1	筋カトレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	5.2
11位	自転車(BMX含む)/サイクリング	4.7	陸上競技	4.3	ヨーガ/ピラティス	4.2
12位	海水浴	4.3	ボウリング	4.1	自転車(BMX含む)/サイクリング	3.5
13位	水中歩行	4.0	キャッチボール	3.7	ゴルフ(練習場)	3.2
14位	キャッチボール		海水浴	3.3	ゴルフ(コース)	3.1
15位	ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)		水中歩行	3.1	釣り	2.7
		筋カトレーニング(ダンベル/自重のトレーニング) 野球				

(4) スポーツ・レクリエーションの実施回数

過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション種目の年平均実施回数を尋ねたところ「階段昇降」「筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)」「体操」「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」「筋力トレーニング(マシントレーニング)」が多かった(図表 2-39)。

図表 2-39 スポーツ・レクリエーション種目(実施率上位 30 種目)の年平均実施回数(回)

種目名	年平均実施回数
階段昇降[N=625]	189.0
筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)[N=142]	153.6
体操(軽い体操/ラジオ体操など)[N=225]	131.6
ウォーキング[N=1,774]	125.3
散歩(ぶらぶら歩き)[N=1,181]	122.8
筋力トレーニング(マシントレーニング)[N=135]	107.9
自転車(BMX含む)/サイクリング[N=128]	105.0
ソフトテニス(軟式テニス)[N=23]	97.7
身体活動を伴うリハビリテーション[N=178]	97.1
その他[N=32]	93.9
空手/少林寺拳法[N=19]	92.7
ジョギング[N=403]	86.7
太極拳[N=15]	80.7
アーチェリー/弓道/射撃/クレー射撃[N=13]	80.5
ハンドボール[N=10]	78.9
野球[N=60]	77.9
身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏 等[N=84]	76.3
ヨガ/ピラティス[N=110]	75.4
トランポリン[N=36]	74.8
バレーボール/ビーチバレー[N=23]	74.8
バスケットボール[N=45]	72.1
陸上競技[N=81]	71.9
柔道[N=15]	70.2
卓球(ラージボール含む)[N=78]	66.9
ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)[N=78]	65.5
サッカー[N=88]	64.9
エアロビックダンス[N=41]	64.7
ゆるスポーツ[N=36]	64.7
卓球/サウンドテーブルテニス[N=12]	59.3
剣道/居合道/なぎなた/銃剣道[N=12]	58.3

※回答者が 10 人以上だった種目のみ

図表 2-40 スポーツ・レクリエーション種目（実施率上位 30 種目）の年平均実施回数（障害種別：全体 N=3,663）
(回)

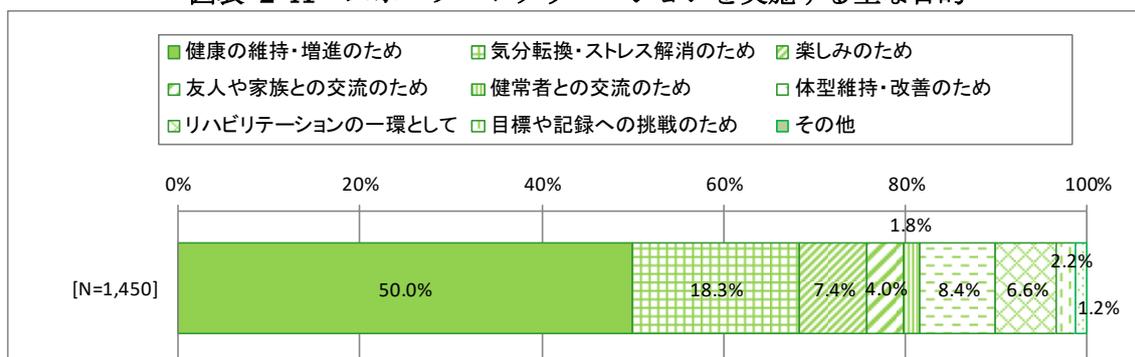
	(車椅子不自由)	(車椅子不自由)	視覚障害	聴覚障害	音声・言語機能障害・その他	内部障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他
	N=234	N=786	N=319	N=409	N=261	N=388	N=450	N=591	N=794	N=26
1位	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	散歩(ぶらぶら歩き)
2位	身体活動を伴うリハビリテーション	散歩(ぶらぶら歩き)	階段昇降	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	ウォーキング
3位	散歩(ぶらぶら歩き)	階段昇降	ジョギング/ランニング	階段昇降	階段昇降	階段昇降	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	階段昇降	階段昇降
4位	階段昇降	身体活動を伴うリハビリテーション	マラソン・駅伝などのロードレース	ジョギング/ランニング	身体活動を伴うリハビリテーション	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	階段昇降	階段昇降	ジョギング/ランニング	身体活動を伴うリハビリテーション
5位	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	散歩(ぶらぶら歩き)	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	ジョギング/ランニング	ジョギング/ランニング	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	ボウリング
6位	マラソン・駅伝などのロードレース	ジョギング/ランニング	陸上競技	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	ジョギング/ランニング	ジョギング/ランニング	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	なわとび	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	その他
7位	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	水中歩行	ソフトバレーボール	水中歩行	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	水中歩行	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	ヨーガ/ピラティス	【歩く・走る・泳ぐ】水泳
8位	ジョギング/ランニング	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	自転車(BMX含む)/サイクリング	筋カトレニング(マシントレーニング)	筋カトレニング(ダンベル/自重のトレーニング)	水中歩行	自転車(BMX含む)/サイクリング	筋カトレニング(ダンベル/自重のトレーニング)	筋カトレニング(ダンベル/自重のトレーニング)
9位	ポッチャ	筋カトレニング(マシントレーニング)	キャッチボール	身体活動を伴うリハビリテーション	マラソン・駅伝などのロードレース	身体活動を伴うリハビリテーション	マラソン・駅伝などのロードレース	サッカー	筋カトレニング(マシントレーニング)	筋カトレニング(マシントレーニング)
10位	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	ゴルフ(練習場)	サッカー	筋カトレニング(ダンベル/自重のトレーニング)	水中歩行	筋カトレニング(マシントレーニング)	身体活動を伴うリハビリテーション	マラソン・駅伝などのロードレース	自転車(BMX含む)/サイクリング	自転車(BMX含む)/サイクリング
11位	ヨーガ/ピラティス	ゴルフ(コース)	水中歩行	マラソン・駅伝などのロードレース	筋カトレニング(ダンベル/自重のトレーニング)	ヨーガ/ピラティス	なわとび	ドッジボール	卓球(ラージボール含む)	その他のレクリエーション等
12位	筋カトレニング(ダンベル/自重のトレーニング)	筋カトレニング(ダンベル/自重のトレーニング)	バレーボール/ビーチバレー	釣り	アクアエクササイズ	自転車(BMX含む)/サイクリング	ボウリング	海水浴	スキー	ジョギング/ランニング
13位	筋カトレニング(マシントレーニング)	マラソン・駅伝などのロードレース	ソフトボール	筋カトレニング(マシントレーニング)	ゴルフ(練習場)	なわとび	ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)	ボウリング	水中歩行	体操(軽い体操/ラジオ体操など)
14位	水中歩行	ヨーガ/ピラティス	グラウンド/ゴルフ/パークゴルフ/マレットゴルフ等	ゴルフ(コース)	海水浴	ゴルフ(練習場)	サッカー	キャッチボール	なわとび	卓球(ラージボール含む)
15位	ふうせんバレー	釣り	フットベースボール	ゴルフ(練習場)	なわとび	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	海水浴	トランポリン	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	スキー
	【障害者スポーツ】水泳						トランポリン			

(5) スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的

スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的については、「健康の維持・増進のため」(50.0%)が最も多く、次いで「気分転換・ストレス解消のため」(18.3%)、「体型維持・改善のため」(8.4%)であった(図表 2-41)。

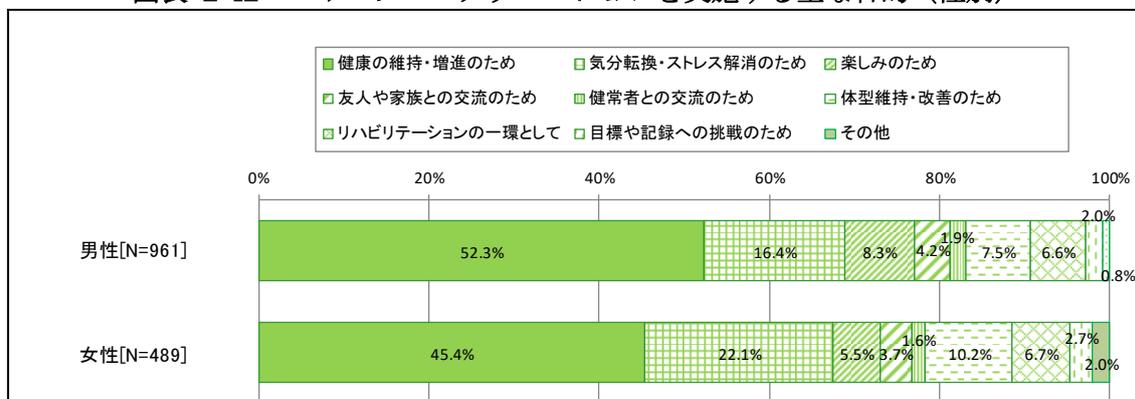
性別に見ると、「健康維持・増進のため」が男性で高く、「気分転換・ストレス解消のため」及び「体型維持・改善のため」が女性で高くなった(図表 2-42)。

図表 2-41 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的



※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した

図表 2-42 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的 (性別)



※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した

図表 2-43 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的（障害種別）

		調査年度	健康の維持・増進のため	気分転換・ストレス解消のため	楽しみのため	友人や家族との交流のため	健常者との交流のため	体型維持・改善のため	リハビリテーションの一環として	目標や記録への挑戦のため	その他
肢体不自由 (車椅子必要)	N=69	2019	47.8	15.9	7.2	7.2	2.9	1.4	17.4	0.0	0.0
	N=67	2017	31.3	23.9	14.9	4.5	6.0	1.5	14.9	3.0	0.0
	N=51	2015	31.4	21.6	13.7	5.9	2.0	2.0	19.6	3.9	0.0
肢体不自由 (車椅子不要)	N=61	2013	26.2	13.1	18.0	8.2	3.3	4.9	21.3	4.9	0.0
	N=337	2019	49.9	12.2	6.5	3.3	0.3	7.7	15.7	2.7	1.8
	N=308	2017	43.8	14.3	8.8	5.5	1.9	3.9	17.2	1.9	2.6
視覚障害	N=266	2015	33.8	17.3	7.5	7.1	1.1	5.6	24.8	1.9	0.8
	N=273	2013	36.7	16.5	11.0	6.8	0.4	3.0	22.8	2.1	0.8
	N=120	2019	61.7	14.2	5.8	4.2	0.8	5.8	4.2	2.5	0.8
聴覚障害	N=128	2017	47.7	13.3	10.9	11.7	0.8	5.5	6.3	3.1	0.8
	N=114	2015	34.2	28.9	9.6	8.8	1.8	6.1	7.9	1.8	0.9
	N=92	2013	38.0	23.9	10.9	8.7	0.0	6.5	7.6	3.3	1.1
音声・言語・そしゃく 機能障害	N=149	2019	53.0	16.1	7.4	5.4	5.4	6.7	2.7	3.4	0.0
	N=133	2017	48.9	18.0	13.5	7.5	0.8	6.8	2.3	1.5	0.8
	N=117	2015	39.3	21.4	16.2	4.3	1.7	3.4	7.7	5.1	0.9
内部障害	N=110	2013	36.4	29.1	15.5	7.3	0.0	6.4	1.8	3.6	0.0
	N=80	2019	46.3	12.5	10.0	6.3	8.8	7.5	8.8	0.0	0.0
	N=185	2019	56.2	14.6	6.5	5.9	1.1	7.6	4.9	1.6	1.6
知的障害	N=52	2019	48.1	19.2	9.6	3.8	11.5	0.0	3.8	3.8	0.0
	N=64	2017	42.2	28.1	3.1	6.3	0.0	4.7	1.6	10.9	3.1
	N=18	2015	33.3	27.8	16.7	0.0	11.1	5.6	0.0	5.6	0.0
発達障害	N=13	2013	30.8	15.4	15.4	0.0	7.7	7.7	7.7	15.4	0.0
	N=141	2019	41.1	22.0	10.6	2.8	2.1	12.1	4.3	2.8	2.1
	N=128	2017	39.1	25.8	13.3	5.5	1.6	9.4	2.3	0.8	2.3
精神障害	N=82	2015	35.4	22.0	15.9	3.7	1.2	7.3	12.2	2.4	0.0
	N=46	2013	45.7	26.1	4.3	6.5	0.0	4.3	8.7	4.3	0.0
	N=500	2019	44.8	24.6	6.8	1.6	0.2	13.6	4.4	2.4	1.6
その他(2013～2017は音声・ 言語・そしゃく機能障害や 内部障害を含む)	N=475	2017	37.7	22.7	10.5	5.9	0.6	11.8	6.5	1.3	2.9
	N=411	2015	39.7	28.7	6.1	4.4	0.2	9.7	8.5	1.7	1.0
	N=322	2013	34.2	30.7	8.1	5.6	1.2	9.0	8.4	1.6	1.2
その他(2013～2017は音声・ 言語・そしゃく機能障害や 内部障害を含む)	N=13	2019	46.2	7.7	7.7	0.0	0.0	7.7	30.8	0.0	0.0
	N=272	2017	39.7	17.6	11.4	6.3	2.2	9.2	9.2	2.2	2.2
	N=227	2015	39.6	22.0	11.5	9.7	1.3	2.6	9.3	2.6	1.3
	N=186	2013	39.2	21.0	11.8	6.5	1.1	3.8	14.0	1.1	1.6

※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

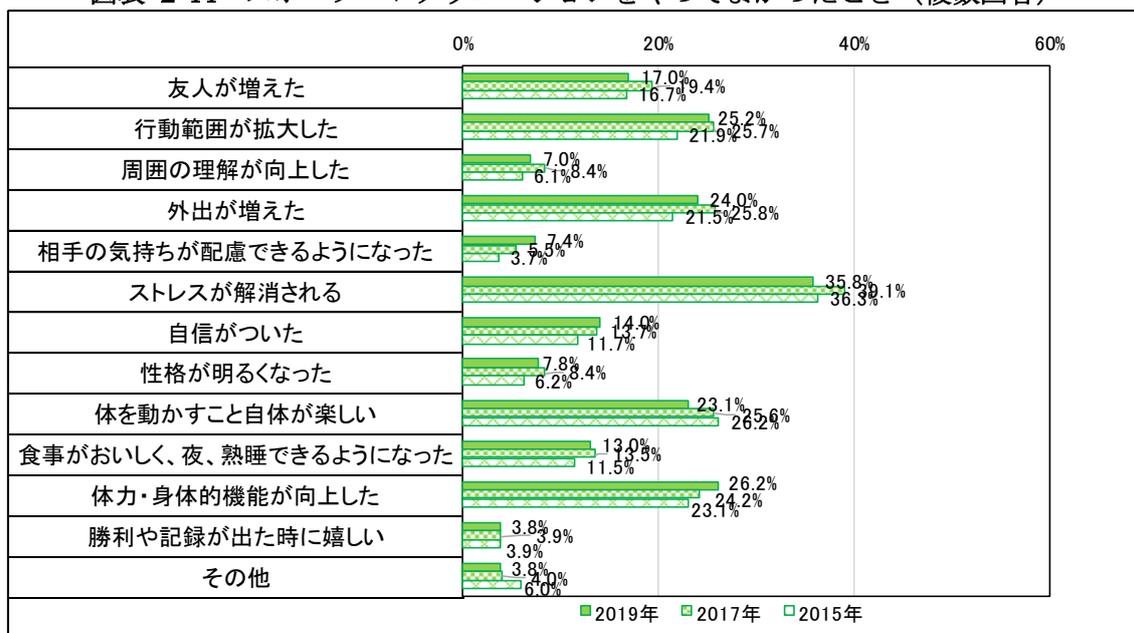
(6) スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと

スポーツ・レクリエーションをやってよかったことについては、「ストレスが解消される」(35.8%)が最も多く、次いで「体力・身体的機能が向上した」(26.2%)、「行動範囲が拡大した」(25.2%)、「外出が増えた」(24.0%)であった(図表 2-44)。

障害種別に見ると、「肢体不自由(車椅子必要)」では「友人が増えた」、その他の障害では「外出が増えた」「ストレスが解消される」が多かった(図表 2-45)。

障害の程度を重度に絞って障害種別にみると、肢体不自由(車椅子必要)では「友人が増えた」、精神障害、聴覚障害では「行動範囲が拡大した」、知的障害、発達障害では「相手の気持ちが配慮できるようになった」の割合が高く、障害によって違いがみられた(図表 2-46)。

図表 2-44 スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと(複数回答)



※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 2-45 スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと（障害種別）

	調査年度	友人が増えた	行動範囲が拡大した	周囲の理解が向上した	外出が増えた	相手の気持ち配慮できるようになった	ストレスが解消される	自信がついた	性格が明るくなった	体を動かすこと自体が楽しい	食事がおいしく、夜、熟睡できるようになった	体力・身体的機能が向上した	勝利や記録が出た時に嬉しい	その他
肢体不自由 (車椅子必要)	2019[N=69]	33.3	24.6	5.8	18.8	18.8	18.8	13.0	8.7	7.2	2.9	18.8	1.4	0.0
	2017[N=67]	41.8	19.4	11.9	23.9	9.0	17.9	6.0	4.5	13.4	6.0	11.9	3.0	4.5
	2015[N=51]	31.4	21.6	9.8	27.5	5.9	15.7	5.9	9.8	9.8	5.9	9.8	2.0	2.0
肢体不自由 (車椅子不要)	2019[N=337]	20.8	28.5	8.3	22.6	4.2	32.0	14.5	6.8	22.0	11.9	27.9	3.9	3.9
	2017[N=308]	22.4	27.9	8.4	24.4	5.8	31.8	13.3	7.8	26.3	13.0	27.6	3.2	3.9
	2015[N=266]	20.7	21.1	5.3	21.4	4.1	28.9	12.0	4.9	25.6	10.2	27.4	4.9	8.3
視覚障害	2019[N=120]	20.0	21.7	13.3	17.5	15.8	26.7	17.5	6.7	20.0	15.0	17.5	0.8	1.7
	2017[N=128]	23.4	24.2	7.8	21.1	2.3	34.4	9.4	7.0	19.5	10.2	26.6	3.9	3.1
	2015[N=114]	22.8	27.2	10.5	24.6	5.3	35.1	10.5	7.0	23.7	14.9	15.8	2.6	1.8
聴覚障害	2019[N=149]	22.1	33.6	15.4	25.5	9.4	37.6	18.8	13.4	30.2	14.1	29.5	4.7	2.0
	2017[N=133]	25.6	30.8	10.5	24.1	4.5	42.9	15.8	12.0	28.6	10.5	18.0	3.8	2.3
	2015[N=117]	16.2	22.2	5.1	14.5	5.1	41.9	9.4	4.3	30.8	8.5	20.5	6.0	3.4
音声・言語・そしゃく機能障害	2019[N=80]	18.8	20.0	2.5	23.8	10.0	27.5	16.3	6.3	17.5	11.3	28.8	2.5	2.5
内部障害	2019[N=185]	16.8	20.0	3.2	23.2	3.2	36.2	10.3	4.3	22.7	16.8	35.1	3.8	3.8
知的障害	2019[N=52]	15.4	26.9	1.9	15.4	19.2	32.7	7.7	13.5	28.8	13.5	5.8	1.9	1.9
	2017[N=64]	20.3	21.9	4.7	21.9	10.9	37.5	12.5	7.8	20.3	10.9	15.6	7.8	0.0
	2015[N=18]	44.4	33.3	5.6	22.2	11.1	27.8	11.1	11.1	33.3	5.6	11.1	5.6	11.1
発達障害	2019[N=141]	12.1	27.7	8.5	22.7	14.2	37.6	15.6	11.3	23.4	12.8	27.0	6.4	5.0
	2017[N=128]	14.8	24.2	11.7	26.6	7.8	41.4	15.6	9.4	25.8	13.3	23.4	4.7	3.1
	2015[N=82]	17.1	22.0	3.7	17.1	2.4	36.6	12.2	7.3	24.4	12.2	20.7	6.1	6.1
精神障害	2019[N=500]	10.2	24.6	6.2	30.4	5.8	42.6	15.8	9.0	27.6	15.0	26.2	5.8	6.2
	2017[N=475]	15.2	26.1	8.4	32.0	6.3	43.2	15.6	10.7	29.7	16.2	25.1	4.8	4.6
	2015[N=411]	11.9	23.6	5.1	24.8	2.7	43.1	12.9	7.1	26.8	13.6	24.8	3.6	8.0
その他(2015~2017は音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)	2019[N=13]	7.7	23.1	15.4	38.5	0.0	38.5	0.0	15.4	15.4	23.1	30.8	7.7	7.7
	2017[N=272]	16.9	24.6	5.5	21.0	3.7	43.0	15.4	8.1	25.7	12.9	28.3	4.0	6.3
	2015[N=227]	13.7	23.3	7.0	18.9	3.1	38.8	13.2	4.0	29.5	12.3	24.7	1.8	3.5

※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 2-46 スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと（障害種別）【重度】

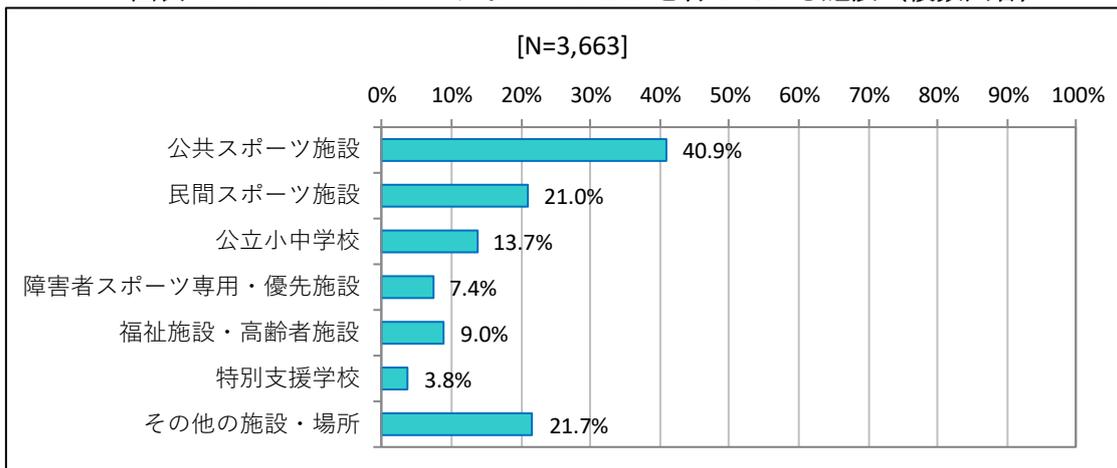
	調査年度	友人が増えた	行動範囲が拡大した	周囲の理解が向上した	外出が増えた	相手の気持ちが配慮できるようになった	ストレスが解消される	自信がついた	性格が明るくなった	体を動かすこと自体が楽しい	食事がおいしく、夜、熟睡できるようになった	体力・身体的機能が向上した	勝利や記録が出た時に嬉しい	その他
肢体不自由 (車椅子必要)	2019[N=38]	34.2	28.9	0.0	21.1	10.5	21.2	15.8	5.3	7.9	0.0	26.3	0.0	0.0
	2017[N=39]	48.7	17.9	10.3	30.8	10.3	17.9	10.3	5.1	15.4	10.3	15.4	2.6	5.1
	2015[N=28]	35.7	32.1	14.3	35.7	3.6	17.9	3.6	3.6	10.7	3.6	14.3	0.0	0.0
肢体不自由 (車椅子不要)	2019[N=79]	20.3	32.9	8.9	26.6	6.3	24.1	11.4	6.3	17.7	13.9	30.4	3.8	3.8
	2017[N=66]	24.2	36.4	16.7	28.8	10.6	22.7	19.7	10.6	25.8	9.1	28.8	4.5	7.6
	2015[N=66]	16.7	19.7	3.0	22.7	4.5	24.2	9.1	1.5	18.2	7.6	31.8	4.5	12.1
視覚障害	2019[N=27]	18.5	29.6	18.5	18.5	25.9	25.9	25.9	14.8	18.5	15.8	18.5	0.0	0.0
	2017[N=32]	25.0	21.9	9.4	31.3	6.3	40.6	12.5	3.1	25.0	9.4	25.0	6.3	0.0
	2015[N=33]	36.4	27.3	12.1	12.1	3.0	18.2	12.1	3.0	18.2	15.2	18.2	6.1	6.1
聴覚障害	2019[N=28]	25.0	39.3	21.4	25.0	10.7	35.7	14.3	10.7	28.6	14.3	39.9	0.0	0.0
	2017[N=31]	38.7	51.6	22.6	32.3	6.5	45.2	22.6	16.1	32.3	16.1	35.5	6.5	0.0
	2015[N=28]	28.6	32.1	10.7	14.3	3.6	46.4	7.1	3.6	32.1	3.6	21.4	7.1	7.1
音声・言語・そしゃく機能障害	2019[N=23]	21.7	26.1	4.3	26.1	8.7	26.1	13.0	0.0	13.0	13.0	21.7	0.0	4.3
内部障害	2019[N=93]	14.0	21.5	3.2	25.8	3.2	39.8	8.6	3.2	26.9	18.3	10.0	3.2	2.2
知的障害	2019[N=11]	9.1	18.2	0.0	18.2	45.5	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	2017[N=13]	30.8	30.8	0.0	0.0	15.4	38.5	15.4	15.4	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0
	2015[N=5]	60.0	80.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0
発達障害	2019[N=13]	23.1	30.8	15.4	23.1	38.5	23.1	0.0	7.7	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0
	2017[N=9]	55.6	22.2	44.4	33.3	22.2	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0
	2015[N=31]	12.9	38.7	6.5	22.6	0.0	29.0	9.7	12.9	16.1	16.1	12.9	0.0	6.5
精神障害	2019[N=25]	20.0	40.0	16.0	16.0	16.0	48.0	16.0	8.0	16.0	16.0	16.0	8.0	0.0
	2017[N=38]	42.1	28.9	15.8	23.7	10.5	28.9	15.8	13.2	10.5	10.5	13.2	5.3	7.9
	2015[N=167]	11.4	26.3	6.0	29.9	2.4	43.1	13.8	9.0	25.7	15.6	23.4	3.0	9.0
その他(2015~2017は音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)	2019[N=6]	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
	2017[N=100]	18.0	23.0	4.0	24.0	2.0	46.0	16.0	4.0	25.0	15.0	36.0	4.0	7.0
	2015[N=92]	9.8	21.7	8.7	20.7	3.3	40.2	16.3	5.4	26.1	17.4	30.4	2.2	2.2

※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

(7) スポーツ・レクリエーションを行っている施設

スポーツ・レクリエーションを行っている施設についてみると、「公共スポーツ施設」が約4割と最も割合が高かった(図表 2-47)。障害種別でみると、「肢体不自由(車椅子必要)」は「福祉施設・高齢者施設」の割合が29.1%と他よりも高い(図表 2-48)。

図表 2-47 スポーツ・レクリエーションを行っている施設 (複数回答)



図表 2-48 スポーツ・レクリエーションを行っている施設 (障害種別) (複数回答)

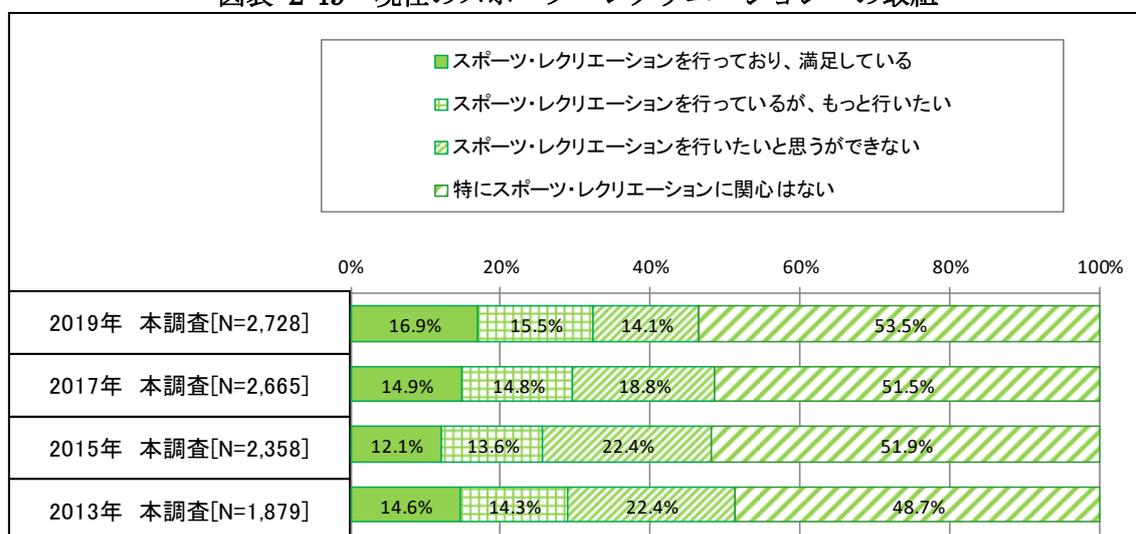
施設	N=3,663 全体	N=234 (肢体不自由 要車椅子)	N=786 (肢体不自由 要車椅子)	N=319 視覚障害	N=409 聴覚障害	N=261 音声・言語 機能障害	N=388 内部障害	N=450 知的障害	N=591 発達障害	N=794 精神障害	N=26 その他
公共スポーツ施設	40.9%	33.3%	43.1%	45.8%	43.5%	31.8%	34.0%	32.9%	39.6%	42.8%	30.8%
民間スポーツ施設	21.0%	12.4%	23.2%	25.4%	24.4%	16.5%	19.6%	16.0%	23.2%	18.3%	11.5%
公立小中学校	13.7%	15.0%	9.8%	15.7%	15.6%	11.9%	11.1%	13.6%	21.0%	7.3%	3.8%
障害者スポーツ専用 ・優先施設	7.4%	13.2%	6.5%	10.3%	9.0%	14.6%	6.2%	14.4%	7.4%	2.8%	7.7%
福祉施設・高齢者施設	9.0%	29.1%	12.6%	7.2%	8.6%	21.8%	9.3%	17.1%	6.4%	6.0%	30.8%
特別支援学校	3.8%	5.1%	2.0%	0.6%	2.0%	4.6%	1.8%	16.2%	8.6%	1.5%	3.8%
その他	21.7%	12.8%	21.2%	14.7%	18.6%	15.3%	31.2%	17.1%	21.7%	32.1%	38.5%

(8) 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組

現在のスポーツ・レクリエーションへの取組については、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」(53.5%)が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」が16.9%であった(図表 2-49)。

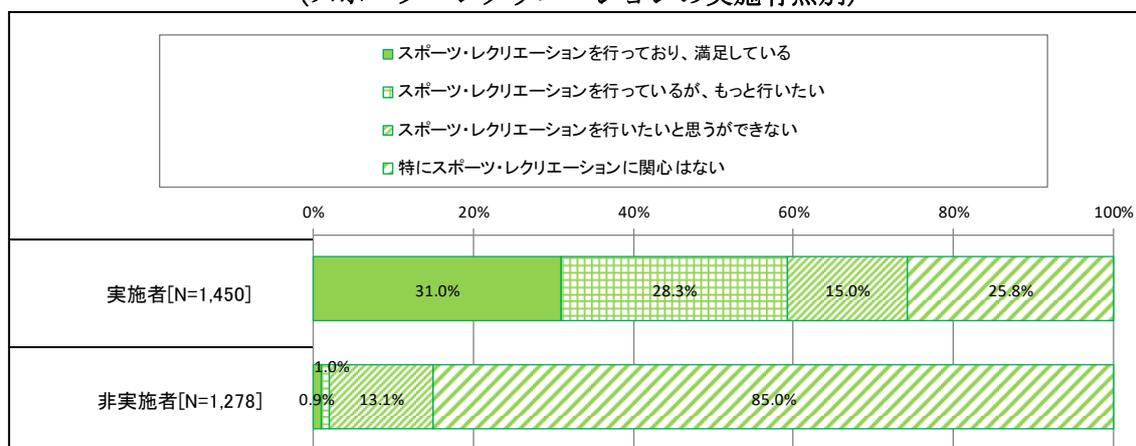
過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施有無別にみると、非実施者には「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」が85.0%となり、実施者よりも無関心層の割合が高いことがわかる(図表 2-50)。

図表 2-49 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組



※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 2-50 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組
(スポーツ・レクリエーションの実施有無別)

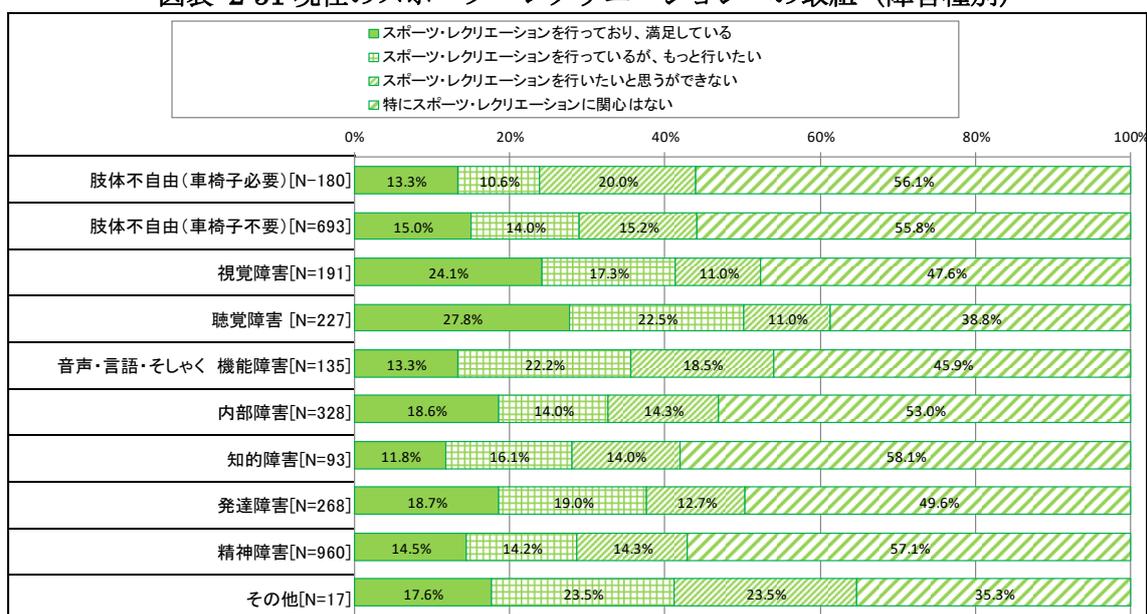


※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。
 ※非実施者の中に、「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」「スポーツを行っているが、もっと行いたい」と回答した人がいる。矛盾した回答であるが、比較の参考として、そのまま掲載した。

障害種別に見ると、全障害において「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層の割合が高く、肢体不自由（車椅子必要）においては「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」が2割だった(図表 2-51)。

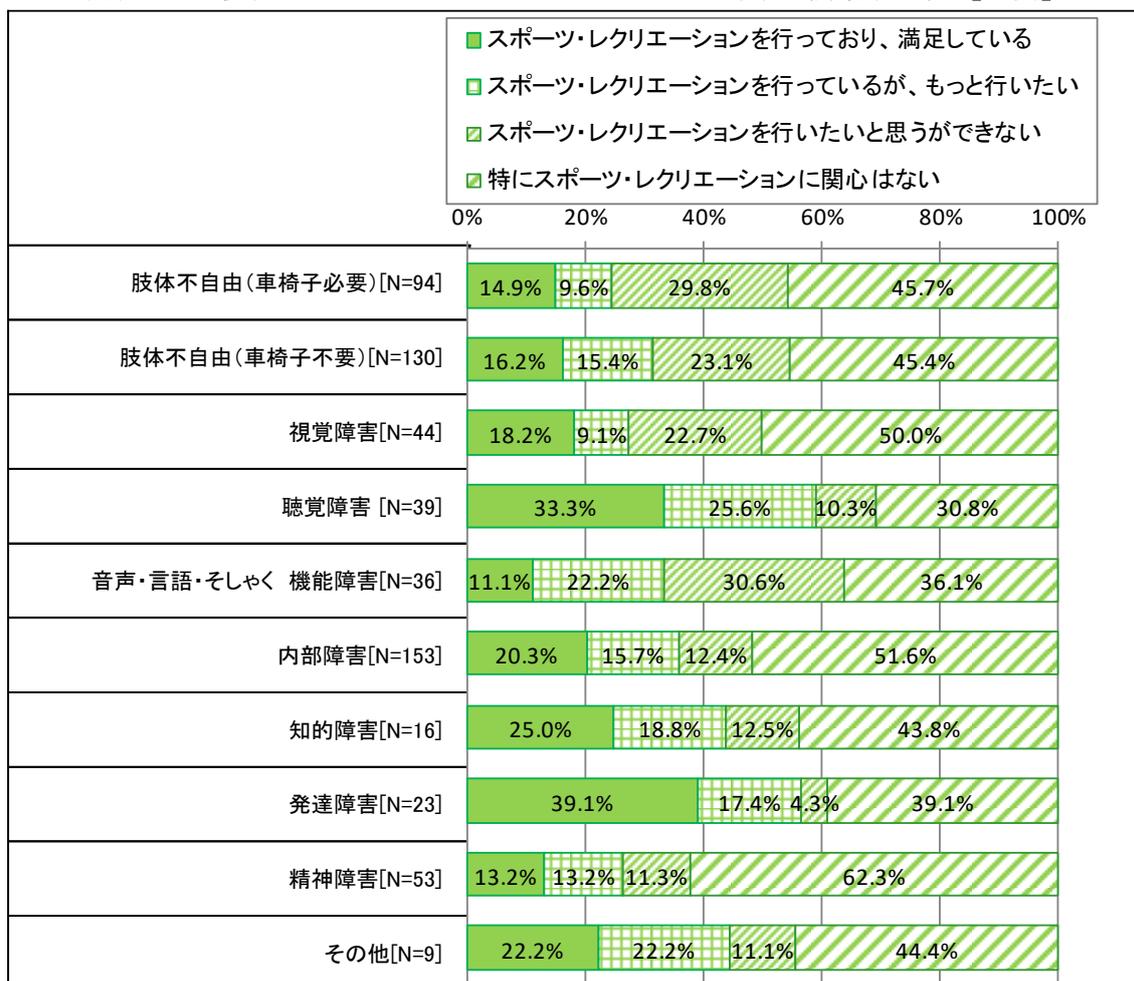
障害の程度を重度に絞って障害の程度別にみると、精神障害では「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」、音声・言語・そしゃく障害では「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」割合が他の障害よりも高い(図表 2-52)。

図表 2-51 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組（障害種別）



※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 2-52 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組（障害種別）【重度】

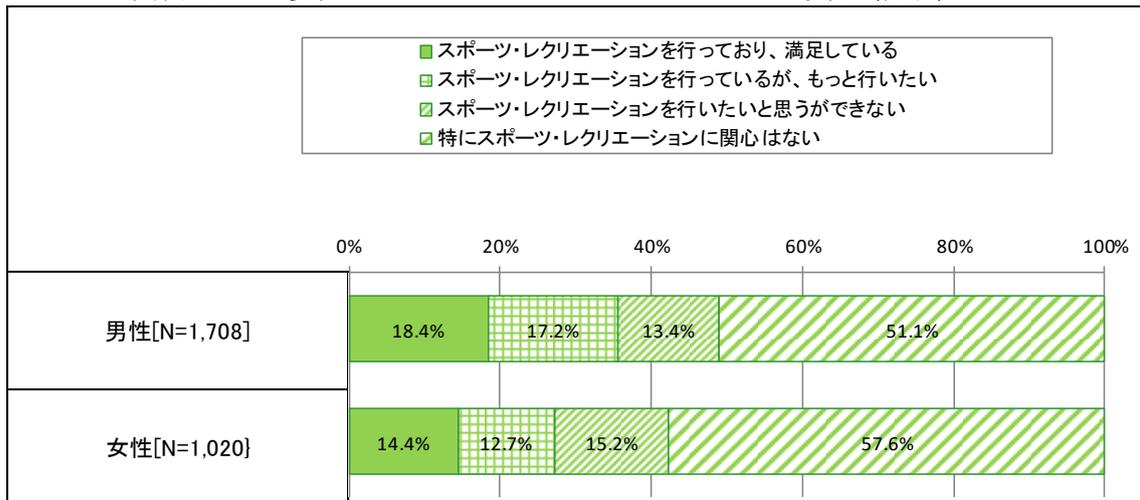


※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

男女別に見ると、男性のほうが「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」割合が18.4%と女性の14.4%よりもやや高い。また、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」割合は女性の方が57.6%と男性よりも高い(図表 2-53)。

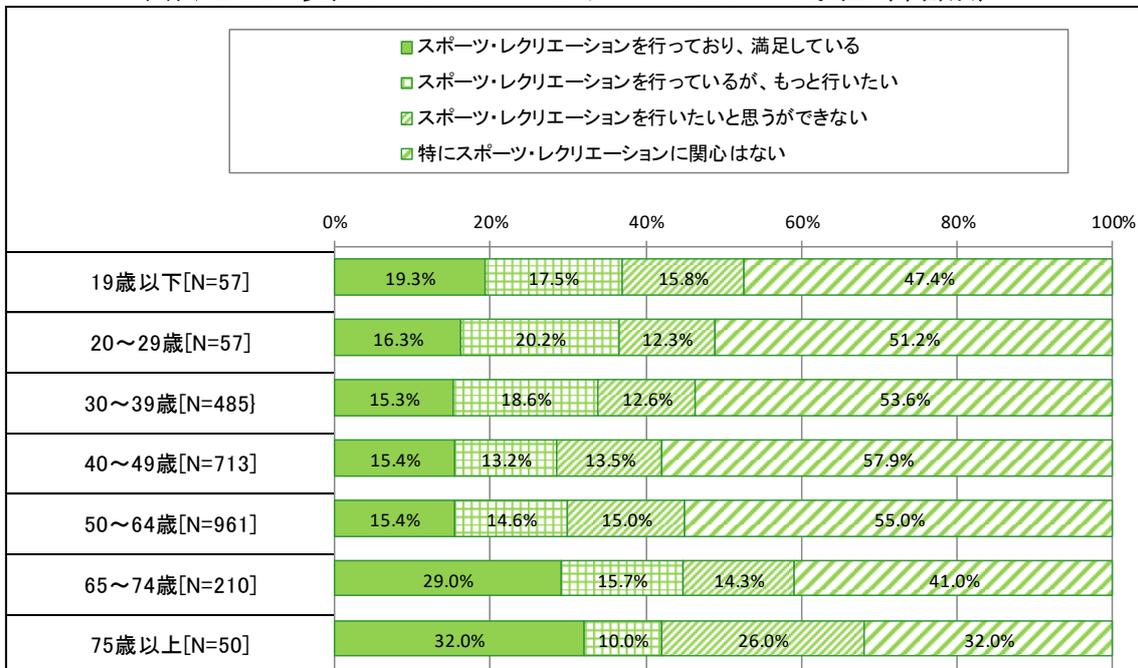
年齢別に見ると、65歳以上は「スポーツ・レクリエーション行っており、満足している」割合が他の年齢層よりも高い(図表 2-54)。

図表 2-53 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組 (性別)



※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 2-54 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組 (年齢別)

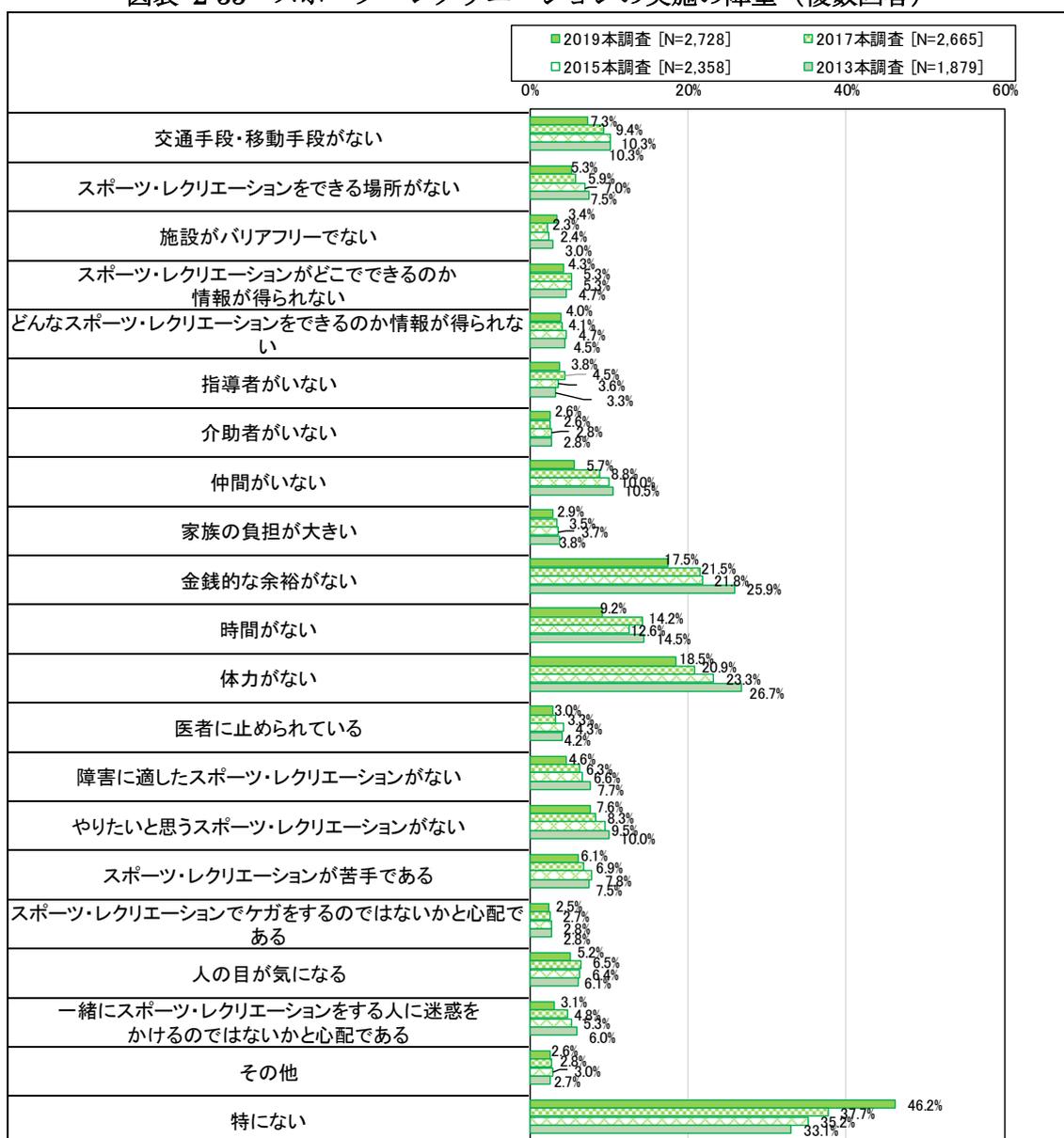


※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

(9) スポーツ・レクリエーションの実施の障壁

スポーツ・レクリエーションの実施において障壁となっているものについて尋ねたところ、「特にない」が46.2%であった。障壁があると回答した中では、「体力がない」(18.5%)が最も多く、次いで「金銭的な余裕がない」(17.5%)、「時間がない」(9.2%)、「やりたいと思うレクリエーションがない」(7.6%)、「交通手段・移動手段がない」(7.3%)であった(図表 2-55)。障害種別にみると、肢体不自由(車椅子必要)では「交通手段・移動手段がない」、その他の障害では「体力がない」「金銭的な余裕がない」が上位となった(図表 2-56)。

図表 2-55 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁 (複数回答)



※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 2-56 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁（障害種別）（複数回答）

	（車椅子不自由）		（車椅子不自由）		視覚障害		聴覚障害		音声・機器言語・しゃく		内部障害		知的障害		発達障害		精神障害		その他		
	N=180		N=693		N=191		N=227		N=135		N=328		N=93		N=268		N=960		N=17		
1位	交通手段・移動手段がない	21.1	体力がない	16.3	金銭的な余裕がない	15.7	金銭的な余裕がない	11.9	体力がない	19.3	体力がない	25.6	体力がない	12.9	金銭的な余裕がない	21.3	金銭的な余裕がない	25.8	体力がない	41.2	
2位	金銭的な余裕がない	18.3	金銭的な余裕がない	13.9	体力がない	13.6	体力がない	11.5	金銭的な余裕がない	15.6	金銭的な余裕がない	16.8	金銭的な余裕がない	12.9	体力がない	19.4	体力がない	25.4	金銭的な余裕がない	23.5	
3位	体力がない	15.6	時間がない	9.5	交通手段・移動手段がない	8.9	時間がない	9.7	スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない	8.1	時間がない	10.7	スポーツ・レクリエーションが苦手である	11.8	時間がない	11.6	時間がない	11.0	人の目が気になる	17.6	
4位	介助者がいない	13.3	交通手段・移動手段がない	7.4	スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない	8.4	施設がバリアフリーでない	9.3	交通手段・移動手段がない	8.1	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	9.1	交通手段・移動手段がない	11.8	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	11.6	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	8.9	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	17.6	
5位	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	12.8	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	6.6	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	6.3	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない	5.7	指導者がいない	7.4	医者に止められている	8.2	仲間がいない	8.6	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	11.2	人の目が気になる	8.3	スポーツ・レクリエーションが苦手である	17.6	
									どんなスポーツ・レクリエーションをできるのか情報が得られない											スポーツ・レクリエーションでケガをするのではないかと心配である	
																				その他	
	特にない	40.6	特にない	50.1	特にない	42.4	特にない	48.5	特にない	42.2	特にない	44.5	特にない	55.9	特にない	43.7	特にない	41.7	特にない	17.6	

※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

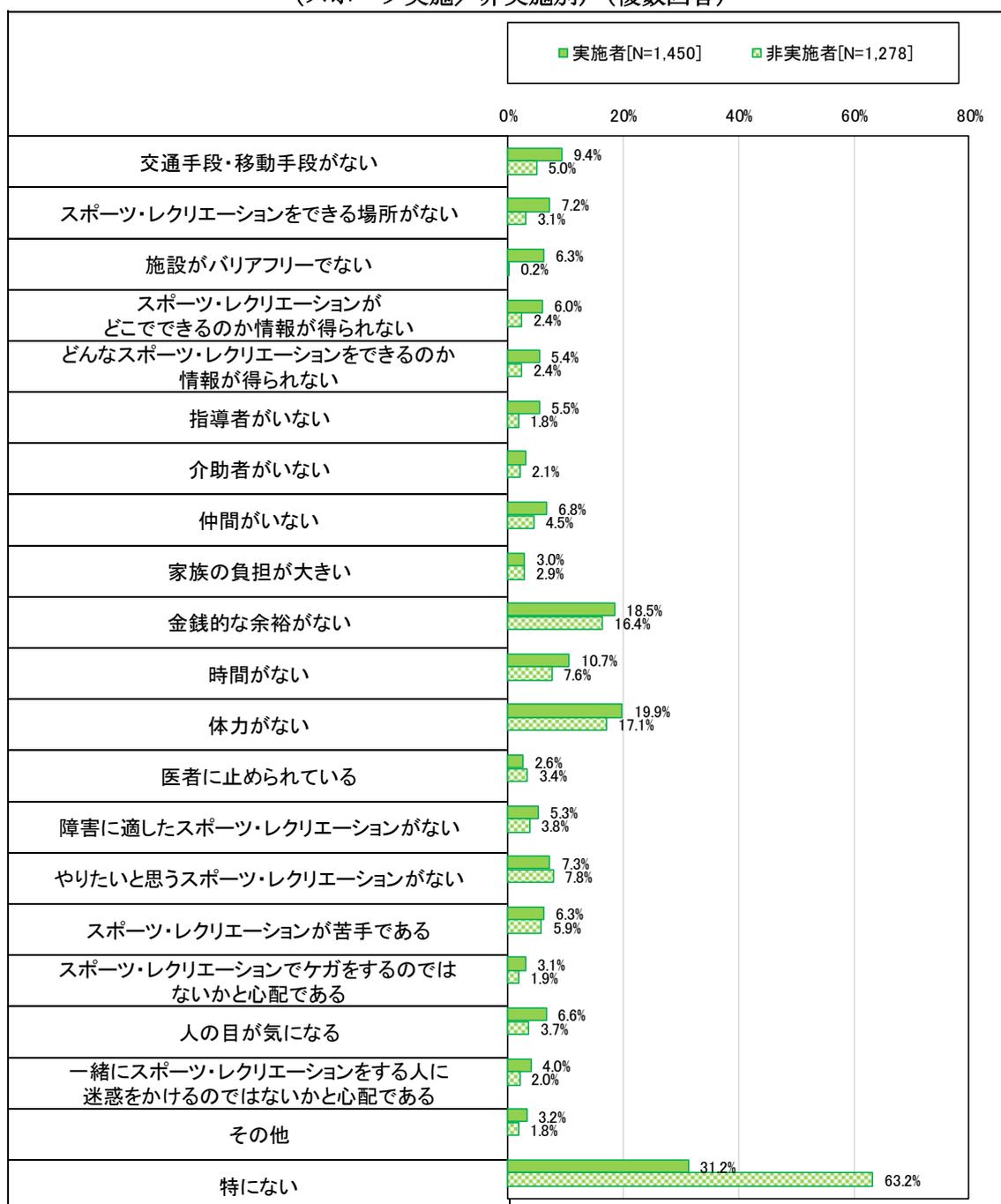
図表 2-57 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁【重度】(複数回答)

	(車椅子不自由)		(車椅子不自由)		視覚障害		聴覚障害		音声・言語・機能障害 （もしや／く）		内部障害		知的障害		発達障害		精神障害		その他	
	N=94		N=130		N=44		N=39		N=36		N=153		N=16		N=23		N=53		N=9	
1位	交通手段・移動手段がない	30.9	体力がない	24.5	交通手段・移動手段がない	27.3	交通手段・移動手段がない	15.4	交通手段・移動手段がない	25.0	体力がない	27.5	体力がない	12.5	交通手段・移動手段がない	17.4	体力がない	30.2	体力がない	33.3
2位	金銭的な余裕がない	29.8	金銭的な余裕がない	16.9	体力がない	20.5	体力がない	12.5	体力がない	12.5	金銭的な余裕がない	17.6	指導者がいない	12.5	スポーツ・レクリエーションが苦手である	13.0	交通手段・移動手段がない	20.8	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	22.2
3位	体力がない	24.5	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	13.1	金銭的な余裕がない	18.2	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない	10.3	金銭的な余裕がない	10.5	時間がない	10.5	交通手段・移動手段がない	12.5	どんなスポーツ・レクリエーションをできるのか情報が得られない	13.2	金銭的な余裕がない	13.2	人の目が気になる	22.2
4位	介助者がいない	23.4	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	13.1	スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない	15.9	時間がない	10.3	介助者がいない	22.2	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	10.5	時間がない	12.5	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない	11.3	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	11.3	その他	22.2
5位	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	20.2	交通手段・移動手段がない	12.3	介助者がいない	11.4	施設がバリアフリーでない	19.4	指導者がいない	19.4	スポーツ・レクリエーションが苦手である	8.5	やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない	6.3	スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない	8.7	時間がない	9.4	金銭的な余裕がない	11.1
					どんなスポーツ・レクリエーションをできるのか情報が得られない					医者に止められている				8.5	スポーツ・レクリエーションが苦手である					
					家族の負担が大きい									6.3	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない					
															スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない					
															家族の負担が大きい					
															スポーツ・レクリエーションでケガをするのではないかと心配である					
	特になし	19.1	特になし	34.6	特になし	25.0	特になし	35.9	特になし	16.7	特になし	41.8	特になし	50.0	特になし	34.8	特になし	37.7	特になし	33.3

※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

スポーツの実施・非実施別に見ると、「施設がバリアフリーでない」、「交通手段・移動手段がない」、「スポーツ・レクリエーションをできる場所がない」では実施者の割合が高い。一方、非実施者では「特にない」が6割強と高くなっており、スポーツを実施していない人は、実施において障壁があるというよりは、スポーツ・レクリエーションそのものに関心を持っていない人が多いことが伺える(図表 2-58)。

図表 2-58 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁
(スポーツ実施/非実施別) (複数回答)



※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

(10) 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション

今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション（現在行っているスポーツ・レクリエーションを含む）については、どの障害においても「特にない」割合が高かった。「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」など、現在実施している割合が高い種目が、今後行いたいと思うスポーツでも上位に入っている。

図表 2-59 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション (障害種別・N=2,728)

(%)

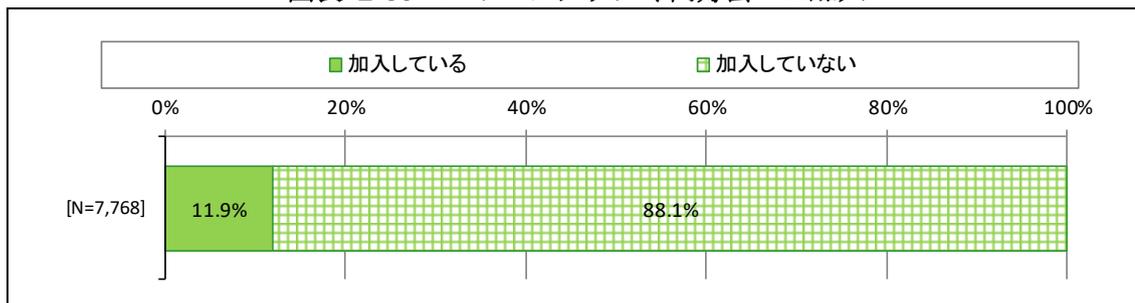
	(車椅子不自由)		(車椅子不自由)		視覚障害		聴覚障害		音声・言語・その他障害		内部障害		知的障害		発達障害		精神障害		その他	
	N=180		N=693		N=191		N=227		N=135		N=328		N=93		N=268		N=960		N=17	
1位	ウォーキング	9.4	ウォーキング	25.4	ウォーキング	28.8	ウォーキング	34.4	ウォーキング	26.7	ウォーキング	32.6	ウォーキング	16.1	ウォーキング	30.6	ウォーキング	30.3	ウォーキング	47.1
2位	散歩(ぶらぶら歩き)	8.9	散歩(ぶらぶら歩き)	18.2	散歩(ぶらぶら歩き)	20.4	散歩(ぶらぶら歩き)	22.5	散歩(ぶらぶら歩き)	18.5	散歩(ぶらぶら歩き)	22.3	散歩(ぶらぶら歩き)	11.8	散歩(ぶらぶら歩き)	18.7	散歩(ぶらぶら歩き)	22.1	水中歩行	35.3
3位	階段昇降		【歩く・走る・泳ぐ】水泳	9.7	階段昇降	11.5	ジョギング/ランニング	14.5	階段昇降		階段昇降	9.1	水中歩行		ジョギング/ランニング	10.4	階段昇降	9.8	散歩(ぶらぶら歩き)	29.4
4位	身体活動を伴うリハビリテーション	6.7	階段昇降	8.9	ジョギング/ランニング	9.9	階段昇降	11.9	筋力トレーニング(マシントレーニング)	8.1	水中歩行		体操(軽い体操/ラジオ体操など)		【歩く・走る・泳ぐ】水泳	9.0	階段昇降	9.5	階段昇降	
5位	筋力トレーニング(マシントレーニング)	5.0	水中歩行	8.1	ヨーガ/ピラティス	6.3	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	11.5	水中歩行	6.7	【歩く・走る・泳ぐ】水泳		ヨーガ/ピラティス		筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	8.6	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	8.8	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	23.5
6位	水中歩行		身体活動を伴うリハビリテーション	5.6	水中歩行	5.8	水中歩行		ジョギング/ランニング		筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	7.9	卓球(ラージボール含む)		階段昇降	8.2	筋力トレーニング(マシントレーニング)	8.0	釣り	
7位	身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏等	4.4	筋力トレーニング(マシントレーニング)	5.5	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	5.2	筋力トレーニング(マシントレーニング)	6.6	【歩く・走る・泳ぐ】水泳	5.9	筋力トレーニング(マシントレーニング)	6.7	【歩く・走る・泳ぐ】水泳		筋力トレーニング(マシントレーニング)	7.5	ヨーガ/ピラティス	7.7	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	17.6
8位	ジョギング/ランニング		ジョギング/ランニング	5.1	海水浴	4.7	釣り		体操(軽い体操/ラジオ体操など)	4.4	自転車(BMX含む)/サイクリング	5.5	バドミントン		ヨーガ/ピラティス	7.1	筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	7.2	アクアエクササイズ	
9位	【歩く・走る・泳ぐ】水泳		筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	4.3	筋力トレーニング(マシントレーニング)		ヨーガ/ピラティス		筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	6.2	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	4.9	野球		自転車(BMX含む)/サイクリング	6.0	水中歩行	6.1	身体活動を伴うリハビリテーション	
10位	体操(軽い体操/ラジオ体操など)		体操(軽い体操/ラジオ体操など)	3.8	自転車(BMX含む)/サイクリング		筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	3.7	身体活動を伴うリハビリテーション	3.7	ジョギング/ランニング	4.6	陸上競技		水中歩行	5.6	体操(軽い体操/ラジオ体操など)	5.9	筋力トレーニング(マシントレーニング)	
11位	ゆるスポーツ		釣り	3.2	ゴルフ(コース)		ボウリング	5.7	ゴルフ(練習場)		ボウリング	4.3	トランポリン		体操(軽い体操/ラジオ体操など)	5.2	自転車(BMX含む)/サイクリング	4.7	ヨーガ/ピラティス	11.8
					マラソン・駅伝などのロードレース															筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング) キャンプ/オートキャンプ ゆるスポーツ スクーバダイビング等
	特にない	55.0	特にない	49.8	特にない	37.7	特にない	34.8	特にない	37.8	特にない	41.2	特にない	53.8	特にない	44.8	特にない	42.7	特にない	35.3

※スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

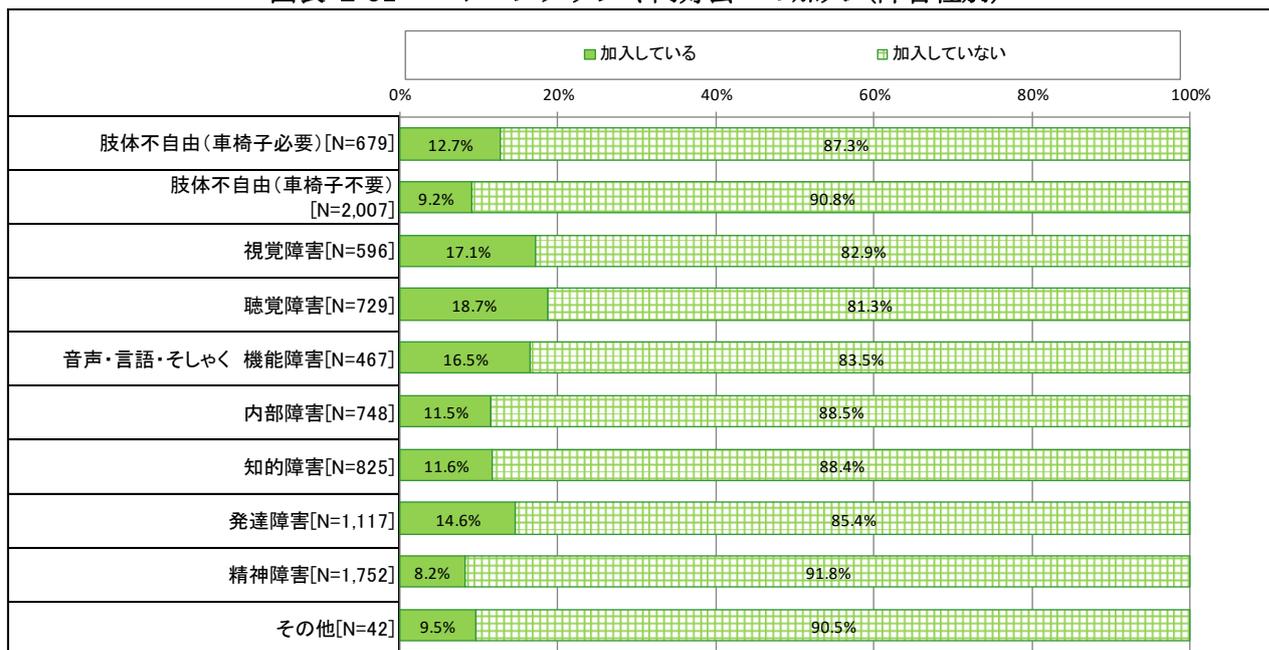
(11) スポーツクラブや同好会・サークルへの加入

スポーツクラブや同好会・サークルに加入しているかについて尋ねたところ、「加入にしている」は11.9%であった(図表 2-60)。障害種別にみると、聴覚障害では18.7%、視覚障害では17.1%、音声・言語・そしゃく機能障害では16.5%が加入していた(図表 2-61)。

図表 2-60 スポーツクラブや同好会への加入

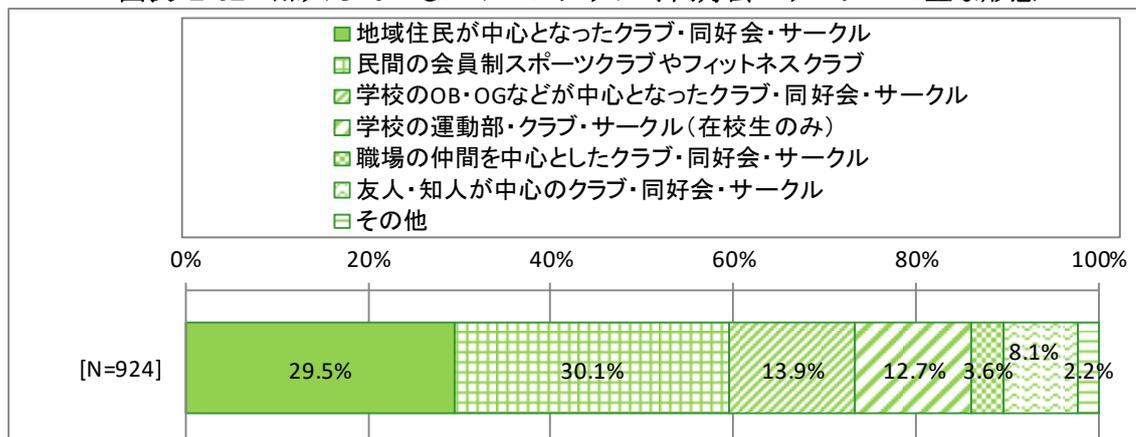


図表 2-61 スポーツクラブや同好会への加入 (障害種別)



加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な形態についてみると、「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」(30.1%)、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」(29.5%)が多い(図表 2-62)。

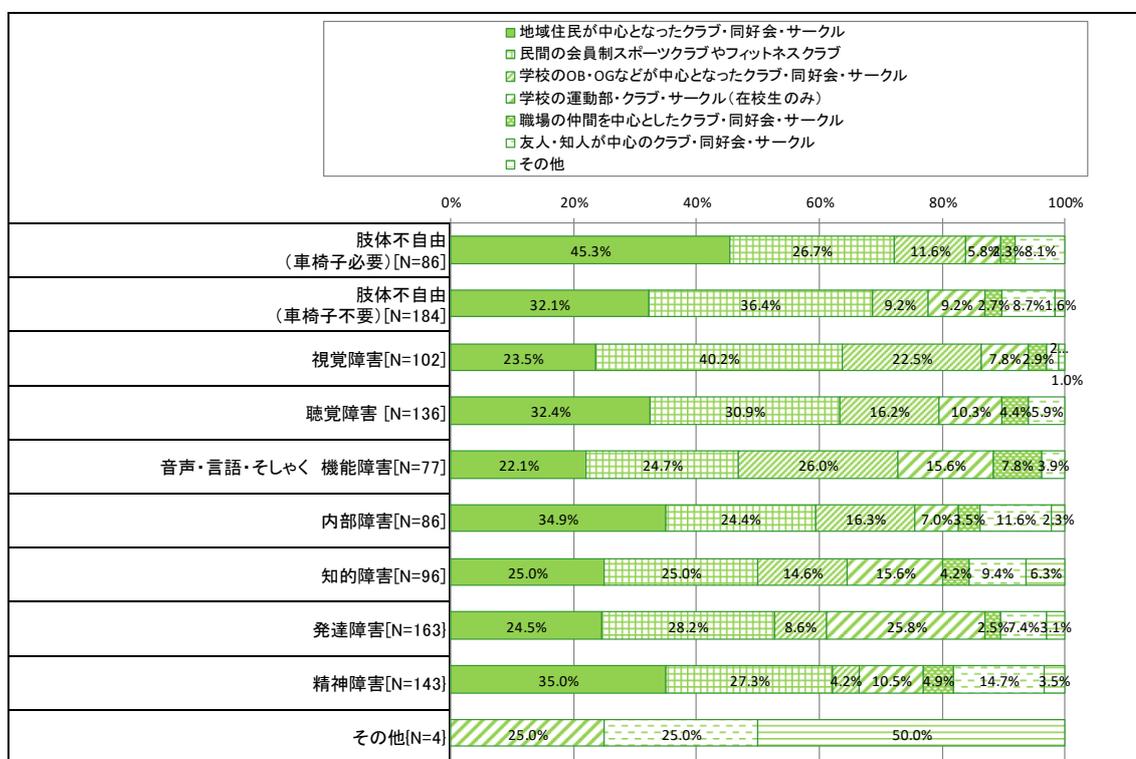
図表 2-62 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な形態



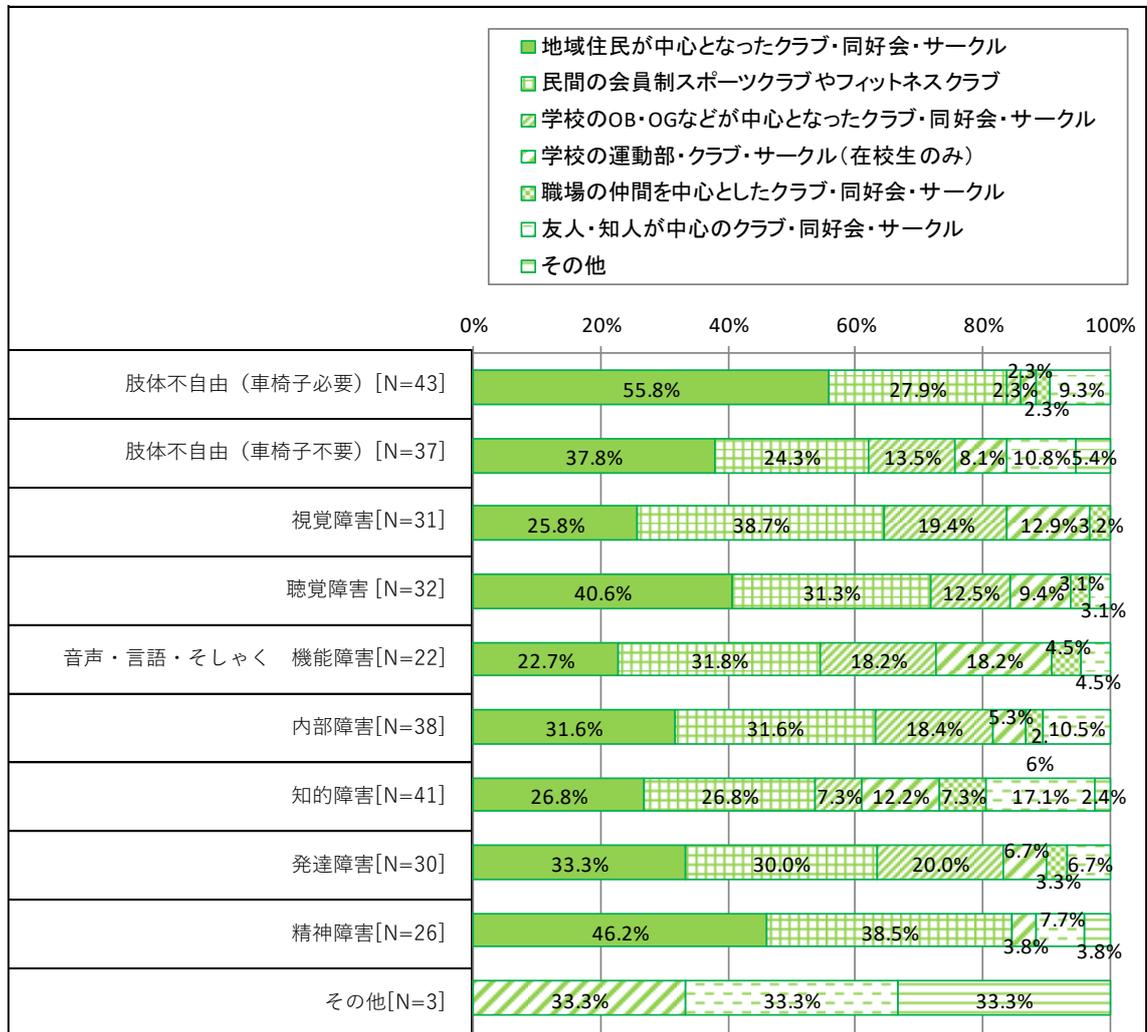
障害種別にみると、肢体不自由（車椅子必要）では「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」が45.3%と高く、視覚障害では「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」（40.2%）、音声・言語・そしゃく機能障害では「学校のOB・OGなどが中心となったクラブ・同好会・サークル」（26.0%）、発達障害では「学校の運動部・クラブ・サークル」（25.8%）が他の障害に比べて多かった(図表 2-63)。

障害の程度を重度に絞り障害種別にみると、肢体不自由（車椅子必要）は「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」（55.8%）の割合の割合が5割を越えている(図表 2-64)。

図表 2-63 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な形態（障害種別）

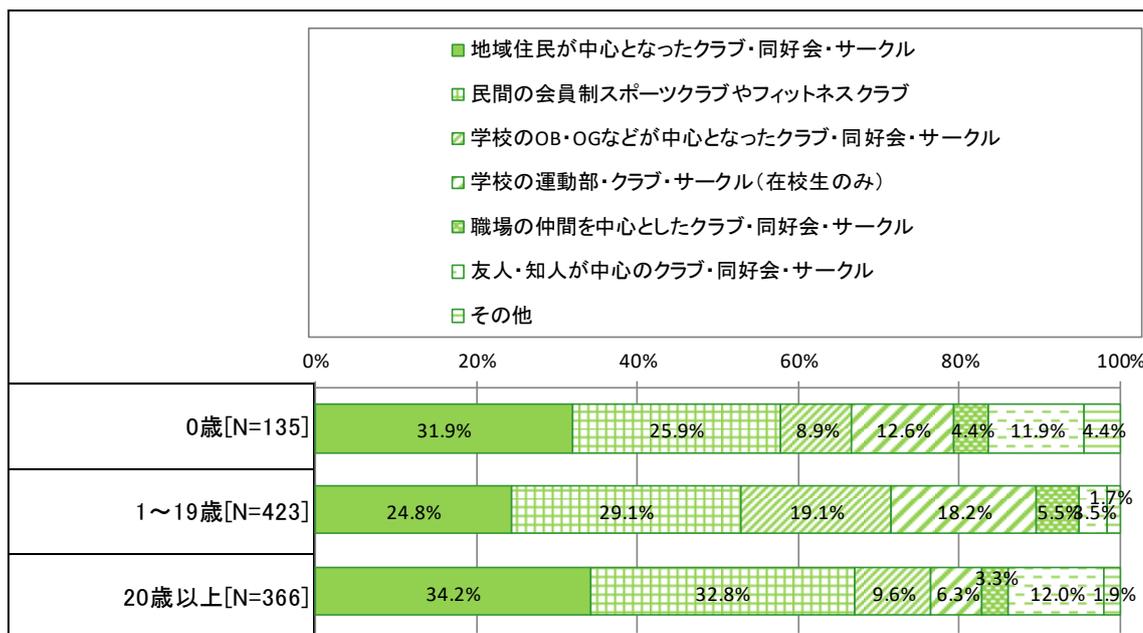


図表 2-64 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な形態（障害種別）【重度】



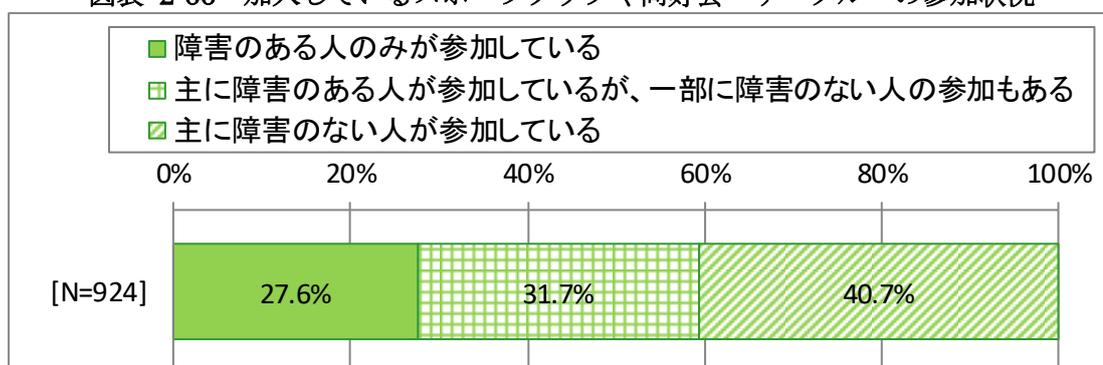
発生年齢別にみると、0歳と20歳以上では「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」(31.9%)(34.2%)が高く、1～19歳では「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」(29.1%)の割合が高い(図表 2-65)。

図表 2-65 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な形態（発生年齢別）

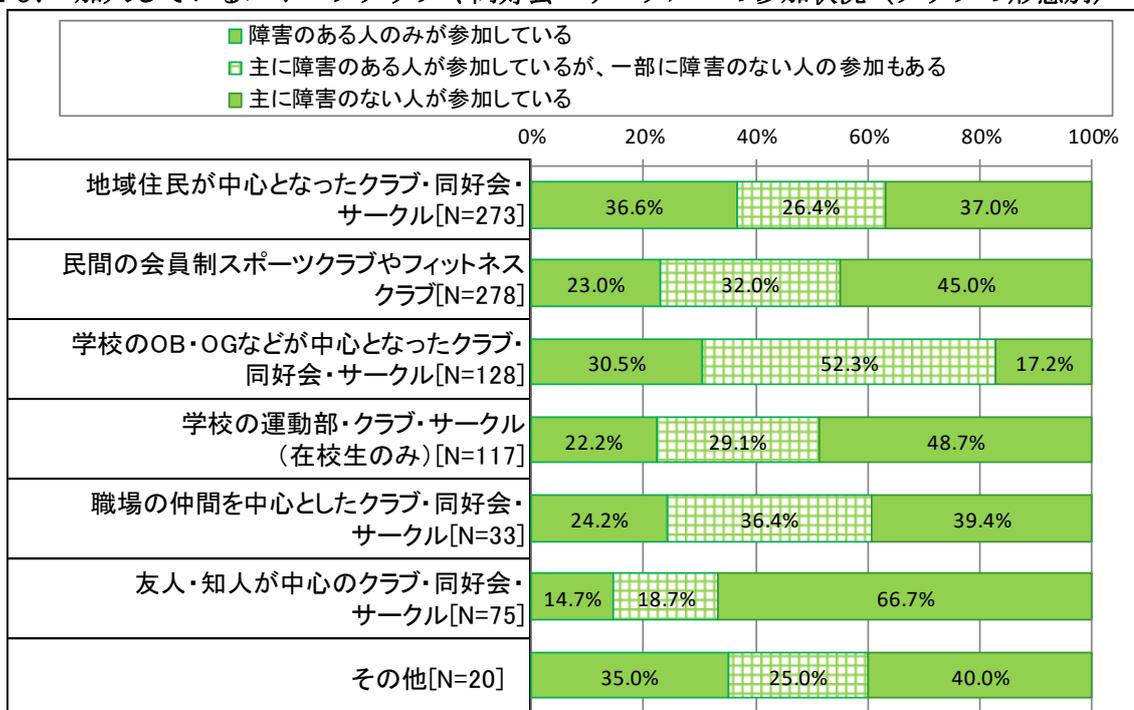


加入しているスポーツクラブや同好会・サークルへの障害者の参加状況についてみると、「障害のある人のみが参加している」は27.6%で、「主に障害のある人が参加しているが、一部に障害のない人の参加もある」(31.7%)と合わせると半数を越える(図表 2-66)。クラブの形態別にみると、「学校のOB・OGなどが中心となったクラブ・同好会・サークル」は「主に障害のある人が参加しているが、一部に障害のない人の参加もある」割合が52.3%であり、「障害のある人のみが参加している」(30.5%)を合わせると8割を越える(図表 2-67)。

図表 2-66 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルへの参加状況



図表 2-67 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルへの参加状況 (クラブの形態別)



過去1年間のスポーツ観戦の有無では、直接のスポーツ観戦、テレビでのスポーツ観戦、インターネットでのスポーツ観戦の全てにおいて、「観戦した種目はない」が最も多かった(図表 2-68)。

図表 2-68 過去1年間のスポーツ観戦の有無(複数回答)

	直接スポーツの試合を観戦したことがある		テレビでスポーツの試合を観戦したことがある		インターネットでスポーツの試合を観戦したことがある	
	本調査 (全体)	2017年調査 (全体)	本調査 (全体)	2017年調査 (全体)	本調査 (全体)	2017年調査 (全体)
	N=7,768	N=8,094	N=7,768	N=8,094	N=7,768	N=8,094
プロ野球(NPB)	16.6%	16.5%	30.9%	31.2%	8.1%	8.1%
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	2.2%	1.7%	11.4%	10.9%	2.1%	1.9%
高校野球	5.3%	5.1%	21.1%	23.2%	2.5%	2.6%
アマチュア野球(大学、社会人など)	2.5%	2.1%	4.1%	4.0%	1.4%	1.4%
Jリーグ(J1、J2、J3)	5.1%	4.5%	11.2%	10.9%	2.9%	2.2%
海外プロサッカー(欧州、南米など)	1.4%	1.2%	6.1%	5.9%	1.8%	1.5%
サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	2.0%	1.8%	15.3%	16.9%	1.6%	1.6%
サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	1.0%	1.0%	8.6%	8.7%	0.9%	1.3%
サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.1%	1.3%	5.3%	4.2%	0.9%	0.9%
プロバスケットボール(Bリーグ)	1.1%	0.9%	3.8%	3.2%	0.8%	0.9%
海外プロバスケットボール(NBAなど)	0.5%	0.5%	3.1%	2.6%	0.8%	0.9%
バスケットボール(高校、大学など)	0.6%	0.8%	1.8%	1.8%	0.6%	0.7%
バレーボール(日本代表試合)	0.7%	0.8%	8.8%	9.3%	0.6%	0.7%
バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	0.7%	0.8%	2.9%	3.2%	0.4%	0.5%
大相撲	2.6%	2.9%	21.7%	22.5%	1.1%	1.2%
マラソン・駅伝	2.3%	2.5%	18.2%	16.7%	0.9%	1.0%
ラグビー	1.8%	1.1%	17.3%	6.0%	1.3%	0.7%
プロテニス	0.8%	1.0%	10.4%	10.5%	0.9%	1.1%
プロゴルフ	1.1%	1.2%	9.3%	8.6%	1.0%	1.1%
フィギュアスケート	1.2%	1.0%	16.1%	15.6%	1.3%	1.2%
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.2%	1.4%	8.0%	8.8%	1.0%	1.2%
F1やNASCARなど自動車レース	0.8%	0.8%	4.0%	4.5%	1.0%	1.3%
その他1	0.3%	0.5%	0.6%	0.8%	0.2%	0.4%
その他2	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
その他3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
観戦した種目はない	70.7%	72.0%	47.0%	45.3%	79.6%	81.4%

図表 2-69 過去1年間のスポーツ観戦の有無（直接観戦）

直接観戦	(車椅子不自由)	(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	音声・言語・そしゃく機能障害	内部障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他
	N=679	N=2,007	N=596	N=729	N=467	N=748	N=825	N=1,117	N=1,752	N=42
プロ野球(NPB)	15.2%	14.8%	20.5%	18.4%	15.2%	17.8%	13.3%	15.2%	18.5%	9.5%
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	2.1%	2.3%	3.4%	3.6%	3.4%	1.3%	1.2%	1.8%	1.8%	0.0%
高校野球	3.1%	3.8%	8.1%	8.8%	6.4%	5.3%	3.8%	4.9%	5.4%	2.4%
アマチュア野球(大学、社会人など)	1.6%	1.7%	5.2%	4.0%	4.5%	3.2%	2.1%	1.9%	2.2%	0.0%
Jリーグ(J1、J2、J3)	4.1%	3.8%	5.7%	6.7%	6.0%	5.9%	5.8%	5.1%	5.4%	7.1%
海外プロサッカー(欧州、南米など)	0.7%	1.1%	2.9%	3.0%	3.9%	0.7%	0.4%	1.0%	1.2%	0.0%
サッカー-日本代表試合(五輪代表含む)	0.6%	1.6%	3.0%	2.3%	4.3%	2.4%	1.6%	2.1%	1.7%	2.4%
サッカー-日本女子代表試合(なでしこジャパン)	0.7%	0.8%	2.2%	1.6%	2.8%	0.9%	0.2%	0.7%	0.9%	0.0%
サッカー(高校、大学、JFLなど)	0.6%	0.6%	2.0%	2.3%	2.8%	1.2%	0.6%	1.4%	1.0%	0.0%
プロバスケットボール(Bリーグ)	0.6%	0.6%	2.3%	1.6%	1.7%	1.3%	1.5%	1.0%	0.9%	0.0%
海外プロバスケットボール(NBAなど)	0.1%	0.4%	1.3%	1.1%	2.4%	0.3%	0.2%	0.4%	0.6%	0.0%
バスケットボール(高校、大学など)	0.0%	0.4%	0.5%	1.6%	1.1%	1.2%	0.1%	0.4%	0.5%	0.0%
バレーボール(日本代表試合)	0.7%	0.7%	0.8%	0.8%	0.4%	0.9%	0.4%	0.8%	1.1%	0.0%
バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	0.3%	0.5%	0.7%	1.0%	1.1%	0.7%	0.6%	1.1%	1.0%	2.4%
大相撲	2.4%	3.3%	3.2%	3.3%	3.2%	2.8%	1.7%	1.3%	2.8%	4.8%
マラソン・駅伝	1.3%	2.1%	3.0%	3.0%	1.9%	3.1%	1.2%	3.4%	2.1%	0.0%
ラグビー	0.9%	1.6%	3.2%	2.5%	1.5%	2.3%	0.5%	1.2%	2.0%	0.0%
プロテニス	0.4%	0.7%	1.2%	1.4%	1.1%	0.8%	0.0%	0.7%	1.0%	0.0%
プロゴルフ	0.6%	1.1%	1.8%	2.3%	0.6%	1.3%	0.7%	0.7%	1.3%	0.0%
フィギュアスケート	0.6%	0.7%	1.7%	2.3%	2.1%	1.1%	0.6%	1.1%	1.5%	0.0%
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.0%	1.2%	1.7%	2.1%	1.3%	2.0%	0.6%	0.9%	1.3%	4.8%
F1やNASCARなど自動車レース	0.6%	0.8%	1.0%	0.8%	1.3%	1.1%	0.4%	0.4%	1.4%	0.0%
その他1	0.0%	0.3%	0.0%	0.3%	0.4%	0.4%	0.1%	0.6%	0.3%	0.0%
その他2	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他3	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
観戦した種目はない	75.7%	74.7%	62.8%	63.0%	64.2%	68.7%	75.2%	72.9%	72.0%	81.0%

図表 2-70 過去1年間のスポーツ観戦の有無（テレビ観戦）

直接観戦	(車椅子不自由)	(車椅子不自由)	視覚障害	聴覚障害	音声・言語・そしゃく機能障害	内部障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他
	N=679	N=2,007	N=596	N=729	N=467	N=748	N=825	N=1,117	N=1,752	N=42
プロ野球(NPB)	30.9%	31.0%	34.7%	33.9%	33.4%	37.4%	20.5%	25.1%	34.4%	38.1%
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	9.4%	10.8%	12.4%	13.7%	13.1%	16.8%	6.1%	9.0%	14.1%	11.9%
高校野球	18.6%	21.9%	21.1%	23.9%	23.3%	29.7%	13.5%	17.0%	24.6%	31.0%
アマチュア野球(大学、社会人など)	3.1%	3.7%	5.7%	5.1%	6.9%	5.1%	3.0%	4.0%	4.3%	4.8%
Jリーグ(J1、J2、J3)	9.4%	10.0%	11.6%	12.6%	11.3%	15.4%	7.5%	10.2%	14.3%	16.7%
海外プロサッカー(欧州、南米など)	4.0%	6.2%	7.4%	8.1%	7.1%	7.5%	3.4%	5.6%	7.8%	4.8%
サッカー-日本代表試合(五輪代表含む)	11.2%	14.8%	13.6%	15.5%	15.8%	21.5%	7.6%	14.0%	19.5%	23.8%
サッカー-日本女子代表試合(なでしこジャパン)	5.4%	8.0%	10.4%	8.4%	9.9%	13.0%	4.5%	7.3%	11.5%	14.3%
サッカー(高校、大学、JFLなど)	3.4%	4.7%	5.9%	7.1%	7.3%	7.9%	2.9%	5.5%	6.4%	4.8%
プロバスケットボール(Bリーグ)	2.9%	3.5%	4.9%	4.9%	5.4%	5.6%	2.4%	3.3%	4.4%	2.4%
海外プロバスケットボール(NBAなど)	1.8%	3.0%	4.0%	4.8%	5.1%	3.5%	1.5%	2.9%	3.8%	0.0%
バスケットボール(高校、大学など)	1.0%	1.6%	3.7%	2.6%	2.6%	2.0%	1.6%	1.9%	1.9%	2.4%
バレーボール(日本代表試合)	6.2%	8.4%	7.9%	8.5%	7.9%	12.6%	6.1%	8.4%	12.4%	9.5%
バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.3%	3.1%	3.5%	4.0%	3.0%	2.9%	2.1%	2.3%	3.9%	7.1%
大相撲	24.6%	25.0%	19.8%	24.4%	24.4%	28.7%	15.4%	13.5%	24.8%	40.5%
マラソン・駅伝	16.8%	20.2%	14.6%	20.2%	21.6%	27.5%	10.2%	14.4%	20.3%	33.3%
ラグビー	13.8%	18.3%	15.3%	19.3%	18.8%	27.0%	8.4%	12.7%	20.2%	33.3%
プロテニス	7.2%	10.7%	9.1%	12.2%	12.4%	15.0%	4.1%	7.8%	14.4%	14.3%
プロゴルフ	7.2%	10.4%	8.2%	12.9%	12.8%	14.0%	3.9%	5.6%	11.0%	11.9%
フィギュアスケート	13.3%	15.9%	13.9%	16.2%	16.3%	24.1%	10.3%	13.2%	21.1%	26.2%
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	5.3%	7.7%	7.0%	7.8%	7.9%	13.1%	4.2%	6.2%	10.9%	9.5%
F1やNASCARなど自動車レース	3.1%	3.5%	4.2%	4.0%	4.5%	5.5%	1.6%	3.5%	6.5%	2.4%
その他1	0.6%	0.7%	0.2%	0.8%	0.4%	0.5%	0.1%	0.9%	0.7%	2.4%
その他2	0.4%	0.0%	0.0%	0.7%	0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	0.3%	2.4%
その他3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
観戦した種目はない	47.3%	47.6%	40.9%	38.7%	38.1%	36.6%	61.1%	55.4%	46.9%	40.5%

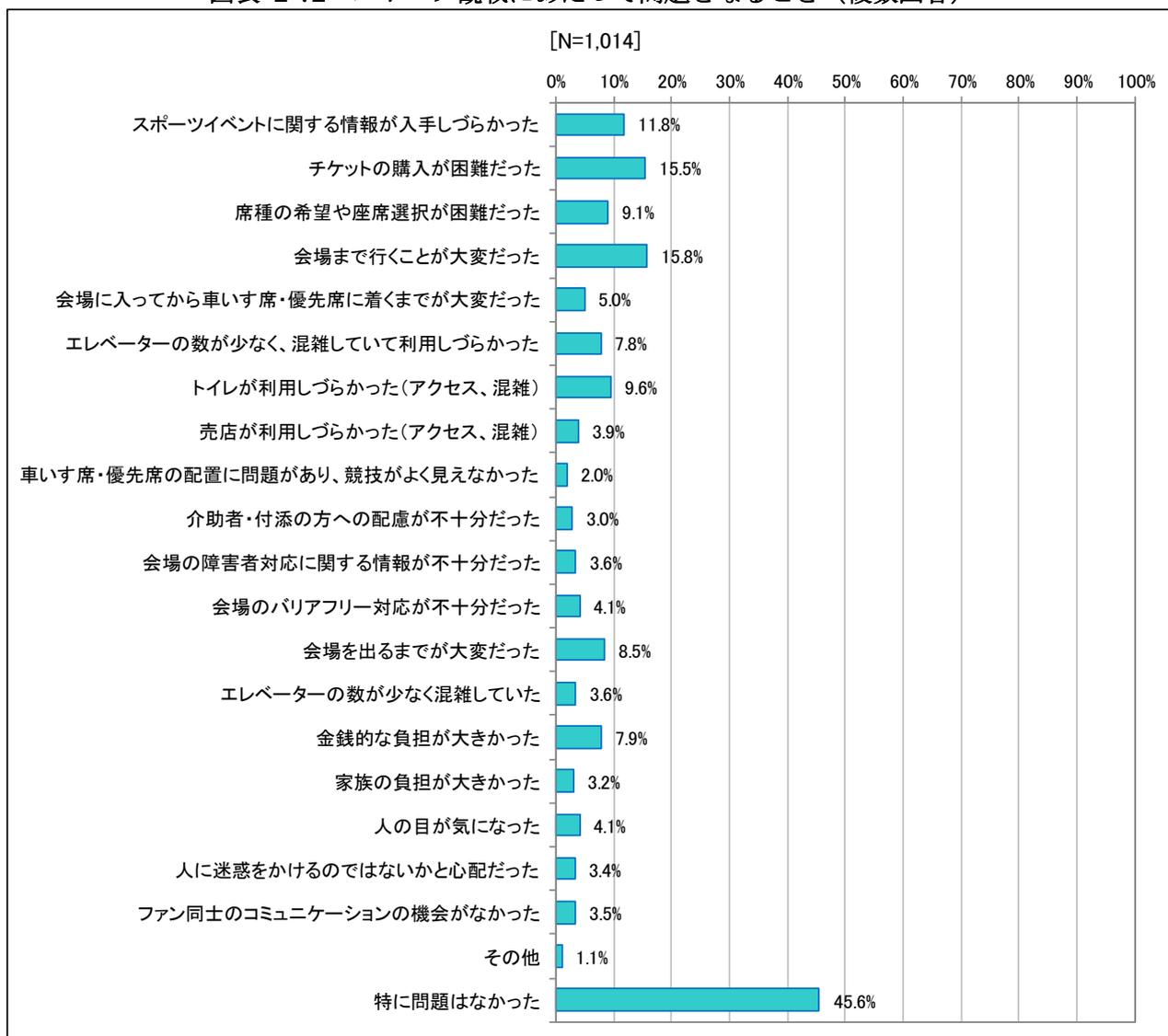
図表 2-71 過去1年間のスポーツ観戦の有無（インターネット観戦）

直接観戦	（車椅子不自由）	（車椅子不要）	視覚障害	聴覚障害	音声・言語・そしゃく機能障害	内部障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他
	N=679	N=2,007	N=596	N=729	N=467	N=748	N=825	N=1,117	N=1,752	N=42
プロ野球（NPB）	10.0%	6.6%	11.2%	11.7%	9.2%	7.9%	4.1%	7.3%	7.5%	0.0%
メジャーリーグ（アメリカ大リーグ）	2.2%	1.7%	3.0%	3.3%	3.2%	2.0%	1.1%	2.0%	1.9%	0.0%
高校野球	2.8%	1.8%	4.2%	5.1%	3.4%	2.9%	1.5%	2.2%	1.4%	0.0%
アマチュア野球（大学、社会人など）	1.3%	0.8%	2.5%	1.5%	2.6%	0.8%	1.7%	1.6%	1.0%	0.0%
Jリーグ（J1、J2、J3）	4.0%	2.5%	3.2%	4.5%	3.6%	2.9%	2.3%	2.5%	2.4%	4.8%
海外プロサッカー（欧州、南米など）	1.9%	1.3%	1.7%	3.3%	3.0%	1.5%	1.0%	1.3%	2.1%	0.0%
サッカー日本代表試合（五輪代表含む）	1.5%	1.5%	1.2%	1.9%	2.6%	1.9%	1.7%	1.8%	1.5%	2.4%
サッカー日本女子代表試合（なでしこジャパン）	1.2%	0.5%	1.7%	1.0%	2.1%	1.1%	0.1%	1.1%	0.6%	0.0%
サッカー（高校、大学、JFLなど）	1.0%	0.4%	1.2%	1.6%	1.7%	1.3%	0.6%	1.1%	0.5%	0.0%
プロバスケットボール（Bリーグ）	1.2%	0.6%	1.3%	1.0%	1.9%	0.4%	0.4%	0.6%	0.8%	0.0%
海外プロバスケットボール（NBAなど）	0.6%	0.5%	0.3%	1.6%	2.1%	0.8%	0.6%	1.1%	1.0%	0.0%
バスケットボール（高校、大学など）	0.6%	0.6%	1.2%	0.1%	1.3%	0.4%	0.7%	0.3%	0.8%	0.0%
バレーボール（日本代表試合）	1.0%	0.6%	0.2%	0.7%	0.2%	0.4%	0.5%	0.7%	0.7%	0.0%
バレーボール（高校、大学、Vリーグなど）	0.3%	0.3%	0.0%	0.7%	0.4%	0.3%	0.2%	0.7%	0.4%	0.0%
大相撲	1.0%	0.8%	0.8%	1.2%	1.7%	0.9%	1.2%	1.2%	1.4%	0.0%
マラソン・駅伝	0.7%	1.1%	1.7%	0.8%	0.9%	1.1%	0.5%	1.2%	0.8%	0.0%
ラグビー	1.8%	0.9%	2.0%	1.8%	1.9%	2.0%	0.6%	0.7%	1.1%	0.0%
プロテニス	1.2%	0.5%	0.7%	1.4%	2.1%	1.1%	0.6%	1.0%	1.1%	0.0%
プロゴルフ	1.0%	0.6%	1.0%	2.2%	1.7%	1.3%	0.6%	1.0%	1.1%	0.0%
フィギュアスケート	0.9%	0.8%	2.0%	1.2%	0.4%	1.5%	0.4%	1.4%	1.9%	0.0%
格闘技（ボクシング、総合格闘技など）	0.6%	0.7%	0.8%	1.8%	0.9%	0.8%	0.7%	1.6%	1.0%	0.0%
F1やNASCARなど自動車レース	1.3%	0.6%	0.8%	1.4%	1.1%	0.9%	0.2%	0.7%	1.7%	0.0%
その他1	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.3%	0.2%	0.0%
その他2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
その他3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
観戦した種目はない	79.2%	84.0%	70.0%	70.8%	70.7%	79.1%	86.8%	81.5%	82.1%	95.2%

(12) スポーツ観戦にあたって問題となること

過去 1 年間に直接スポーツ観戦をした人に、スポーツ観戦にあたって問題となることを尋ねると、「特に問題はなかった」が 45.6%となっている。その他には、「会場まで行くことが大変だった」(15.8%)、「チケットの購入が困難だった」(15.5%)、「スポーツイベントに関する情報が入手しづらかった」(11.8%)の順に割合が高くなっている(図表 2-72)。障害種別では、肢体不自由(車椅子必要)は「スポーツイベントに関する情報が入手しづらかった」、それ以外の障害では「チケットの購入が困難だった」、「会場まで行くことが大変だった」が上位になっている(図表 2-73)。

図表 2-72 スポーツ観戦にあたって問題となること(複数回答)



※スポーツ・レクリエーションの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害者である場合に限定した。

※過去 1 年間に直接スポーツを観戦したことがある場合のみ。

図表 2-73 スポーツ観戦にあたって問題となること（障害種別）（複数回答）

	(車椅子不自由)		(車椅子不自由)		視覚障害		聴覚障害		音声・機言語・しゃく		内部障害		知的障害		発達障害		精神障害		その他		
	N=59		N=250		N=89		N=106		N=58		N=120		N=39		N=105		N=324		N=4		
1位	スポーツイベントに関する情報が入手しづらかった	35.6	会場まで行くことが大変だった	18.0	チケットの購入が困難だった	23.6	チケットの購入が困難だった	19.8	チケットの購入が困難だった	20.7	会場まで行くことが大変だった	17.5	会場まで行くことが大変だった	17.9	チケットの購入が困難だった	17.1	会場まで行くことが大変だった	15.7	会場まで行くことが大変だった	50.0	
2位	席種の希望や座席選択が困難だった	32.2	チケットの購入が困難だった	14.8	会場まで行くことが大変だった	22.5	会場まで行くことが大変だった	17.0	エレベーターの数が少なく、混雑して利用しづらかった	15.5	チケットの購入が困難だった	15.0	チケットの購入が困難だった	15.4	会場まで行くことが大変だった	12.4	金銭的な負担が大きかった	12.0	その他		
3位	会場まで行くことが大変だった	25.4	会場を出るまでが大変だった	12.4	スポーツイベントに関する情報が入手しづらかった	18.0	エレベーターの数が少なく、混雑して利用しづらかった	14.2	スポーツイベントに関する情報が入手しづらかった	15.5	トイレが利用しづらかった(アクセス、混雑)	11.7	スポーツイベントに関する情報が入手しづらかった	15.4	スポーツイベントに関する情報が入手しづらかった	11.4	10.8	チケットの購入が困難だった	10.8		特に問題はなかった
4位	会場に入ってから車いす席・優先席に着くまでが大変だった	22.0	席種の希望や座席選択が困難だった	12.0	トイレが利用しづらかった(アクセス、混雑)	12.4	トイレが利用しづらかった(アクセス、混雑)	13.2	席種の希望や座席選択が困難だった	8.6	会場を出るまでが大変だった	11.7	金銭的な負担が大きかった	12.8	金銭的な負担が大きかった		9.3	金銭的な負担が大きかった	9.3		金銭的な負担が大きかった
5位	チケットの購入が困難だった	16.9	トイレが利用しづらかった(アクセス、混雑)	12.0	席種の希望や座席選択が困難だった	11.2	スポーツイベントに関する情報が入手しづらかった	9.4	売店が利用しづらかった(アクセス、混雑)	8.6	エレベーターの数が少なく、混雑して利用しづらかった	9.2	介助者・付添の方への配慮が不十分だった	10.3	トイレが利用しづらかった(アクセス、混雑)	10.5	トイレが利用しづらかった(アクセス、混雑)	7.7	チケットの購入が困難だった	25.0	
	会場を出るまでが大変だった			エレベーターの数が少なく、混雑して利用しづらかった			会場の障害者対応に関する情報が不十分だった	6.9	席種の希望や座席選択が困難だった	6.7	エレベーターの数が少なく、混雑して利用しづらかった	7.7	7.6	人に迷惑をかけるのではないかと心配だった		エレベーターの数が少なく、混雑して利用しづらかった					
	特に問題はなかった	15.3	特に問題はなかった	45.2	特に問題はなかった	29.2	特に問題はなかった	42.5	特に問題はなかった	32.8	特に問題はなかった	51.7	特に問題はなかった	46.2	特に問題はなかった	48.6	特に問題はなかった	56.2	特に問題はなかった	25.0	

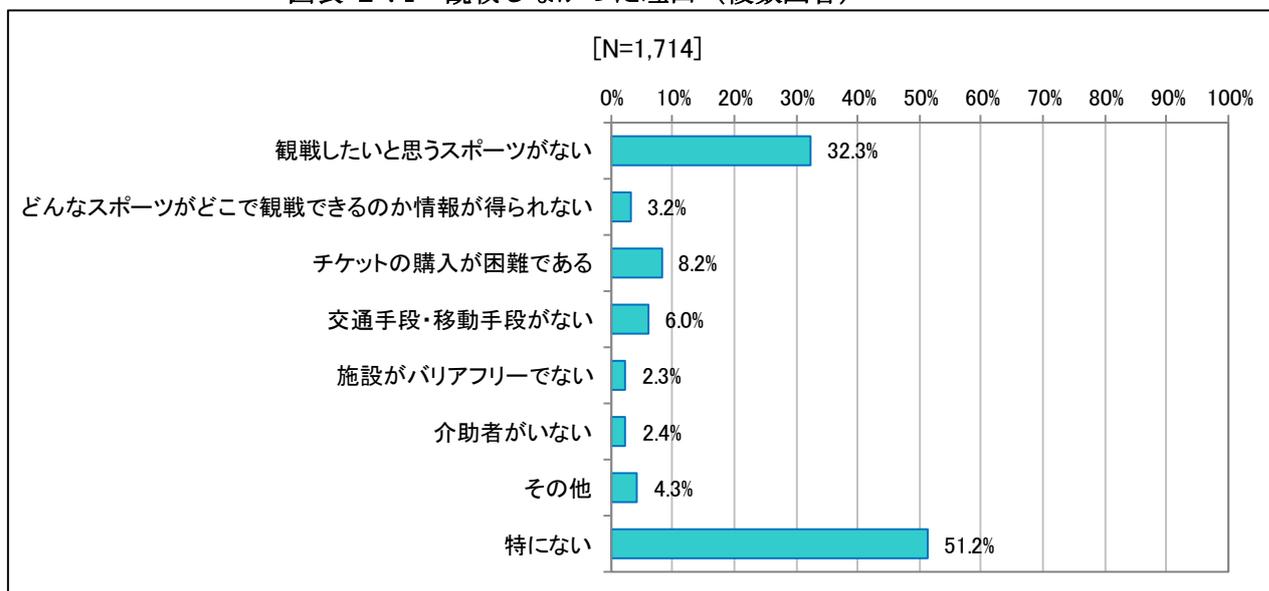
※スポーツ・レクリエーションの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害者である場合に限定した。

(13) 観戦しなかった理由

過去1年間で直接スポーツを観戦しなかった人に、観戦しなかった理由を尋ねると、「特にない」が51.2%、「観戦したいと思うスポーツがない」が32.3%となり、スポーツ観戦そのものに関心が低い傾向があることが伺える(図表 2-74)。

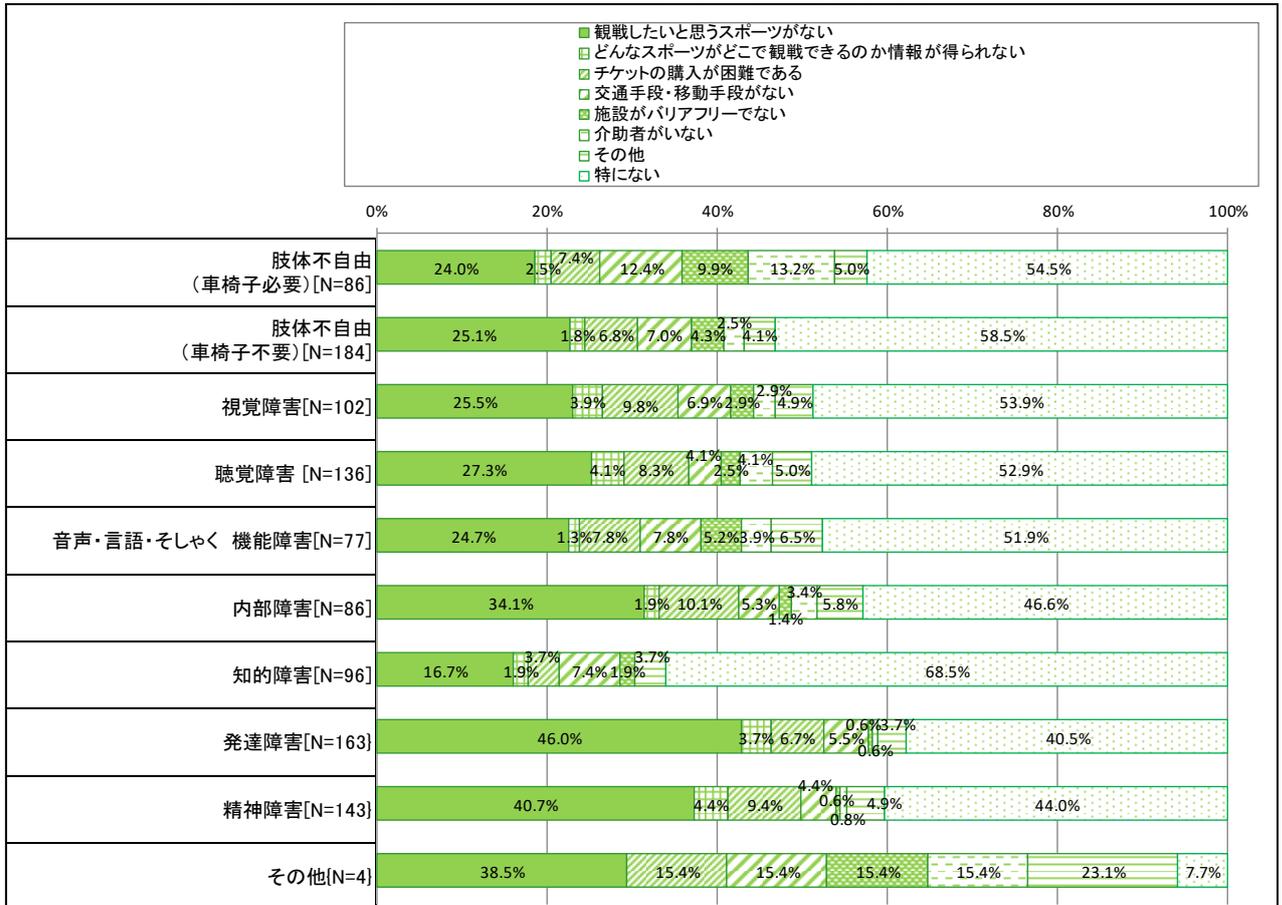
障害種別にみると、「特にない」が全ての障害で4割を越えている。また、「観戦したいスポーツがない」割合が発達障害(46.0%)、精神障害(40.7%)で高い。肢体不自由(車椅子必要)は、「交通手段・移動手段がない」(12.4%)の割合が他よりも高くなっている(図表 2-75)。

図表 2-74 観戦しなかった理由 (複数回答)



※スポーツ・レクリエーションの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害者である場合に限定した。
※過去1年間で直接スポーツ観戦をしなかった人のみ。

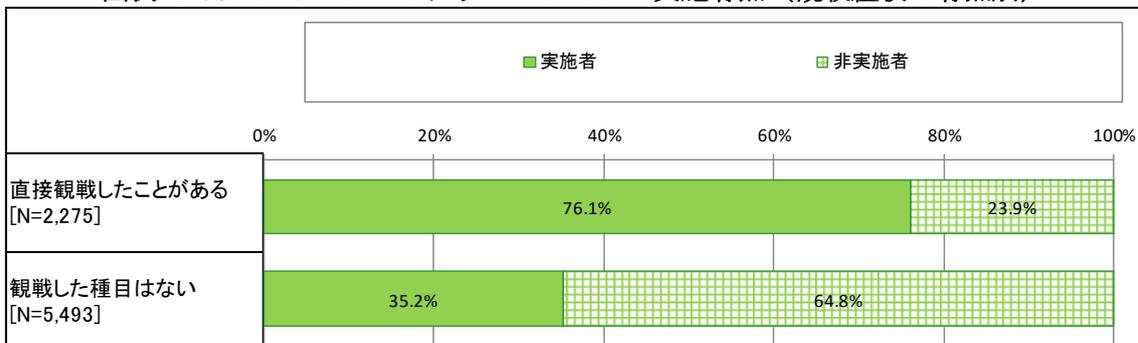
図表 2-75 観戦しなかった理由（障害種別）（複数回答）



※スポーツ・レクリエーションの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害者である場合に限定した。
 ※過去1年間で直接スポーツ観戦をしなかった人のみ。

スポーツを直接観戦した経験の有無で、スポーツ・レクリエーションの実施・非実施についてみると、直接観戦したことがある場合は、スポーツ・レクリエーションを実施している割合が76.1%と、観戦したことがない場合よりも高くなっている(図表 2-76)。

図表 2-76 スポーツ・レクリエーションの実施有無（観戦経験の有無別）



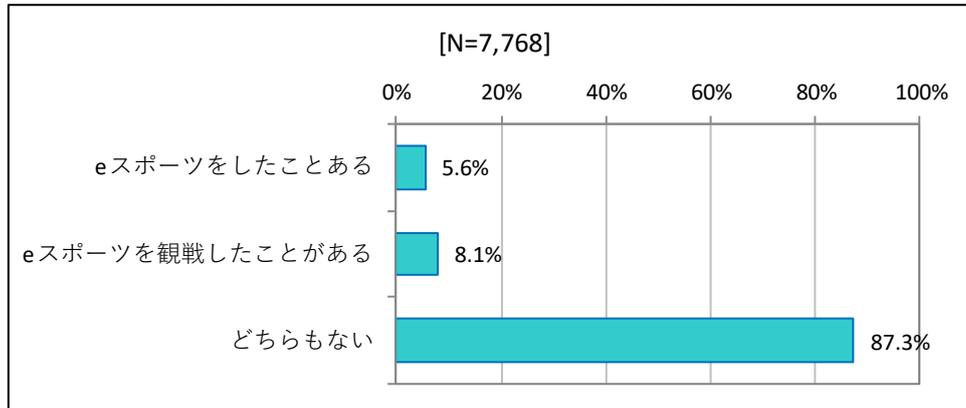
2-3 その他

(1) e スポーツの経験

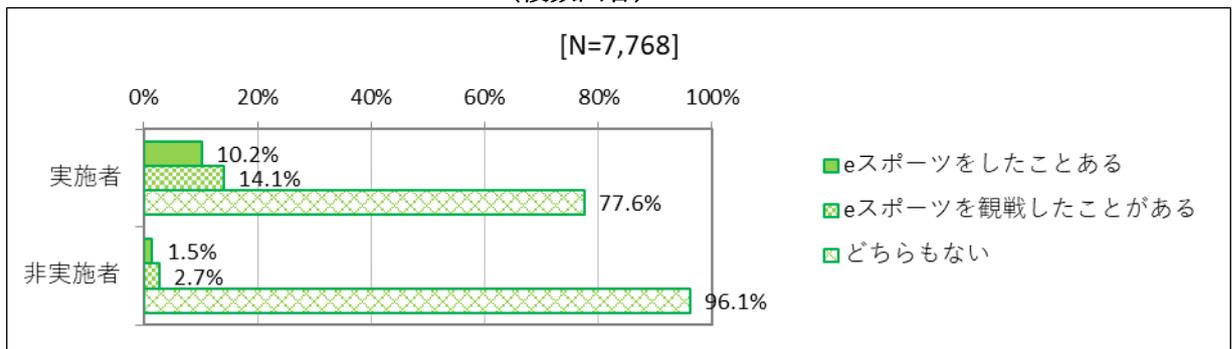
e スポーツの経験についてみると、「e スポーツをしたことがある」は 5.6%、「e スポーツを観戦したことがある」は 8.1%で、まだ e スポーツの経験者は少ないことがわかる(図表 2-77)。スポーツ・レクリエーション実施の有無でみると、スポーツ・レクリエーションの実施者は、非実施者に比べて e スポーツを経験した割合がやや高い(図表 2-78)。

障害種別にみると、「視覚障害」(22.0%)、「聴覚障害」(20.7%)、「音声・言語・そしゃく機能障害」(20.6%)は他と比べてやや e スポーツ経験者(したことがある+観戦したことがある)の割合が高い(図表 2-79)。

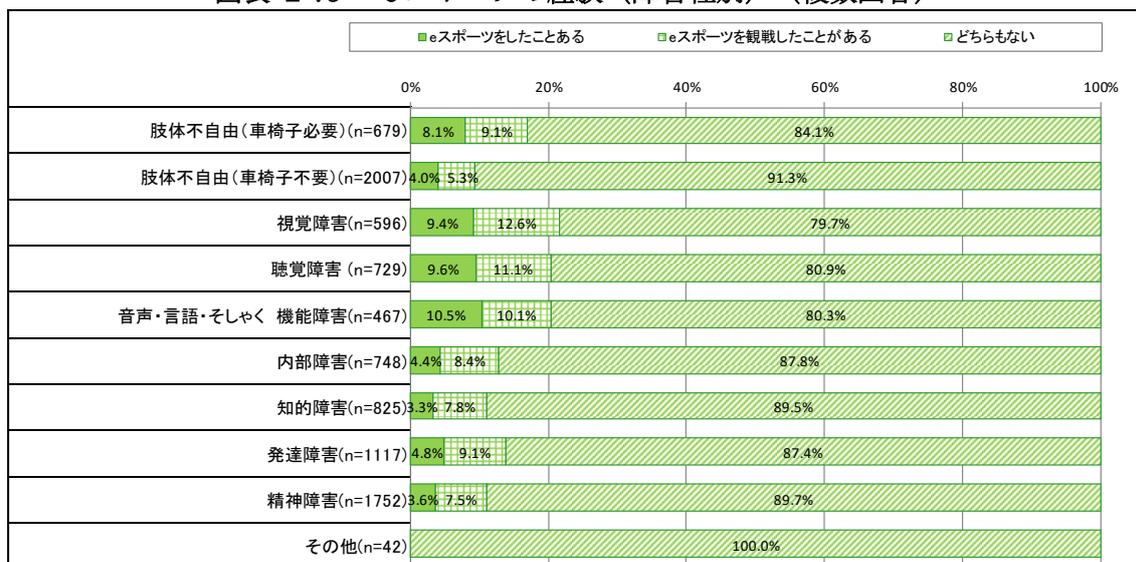
図表 2-77 e スポーツの経験 (複数回答)



図表 2-78 e スポーツの経験 (スポーツ・レクリエーション実施の有無別) (複数回答)



図表 2-79 e スポーツの経験（障害種別）（複数回答）

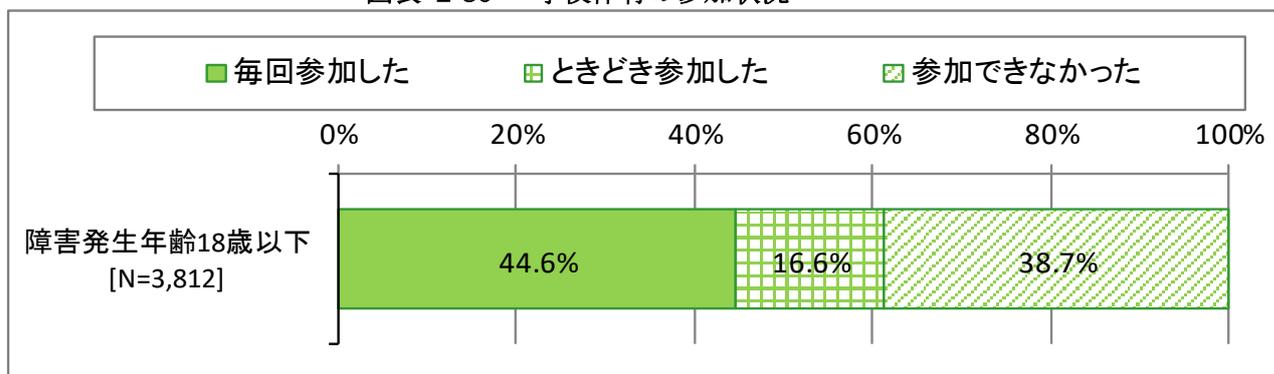


(2) 学校体育の参加状況

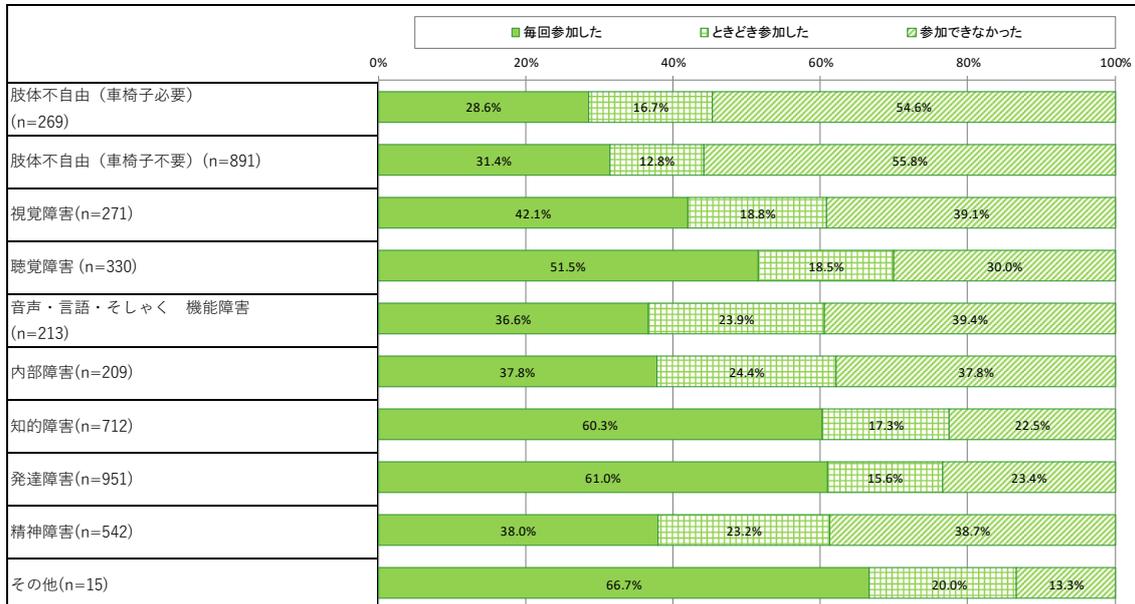
学校体育の参加状況について、障害発生が 18 歳以下の場合に絞ってみると、「毎回参加した」割合は 44.6%である。障害種別では、発達障害(61.0%)、知的障害(60.3%)は「毎回参加した」割合が約 6 割と高くなっている(図表 2-81)。

障害発生年齢別にみると、15 歳以下で障害が発生した「肢体不自由（車椅子必要）・（車椅子不要）」は「参加できなかった」割合が半数以上と高い(図表 2-82)。

図表 2-80 学校体育の参加状況



図表 2-81 学校体育の参加状況（障害発生年齢 18 歳以下・障害種別）



図表 2-82 学校体育の参加状況（障害種別・障害発生年齢別）

	障害発生年齢	毎回参加した	ときどき参加した	参加できなかった
全体	0-6歳[N=2,654]	47.1%	13.8%	39.2%
	7-15歳[N=892]	38.2%	24.4%	37.3%
	16-18歳[N=266]	42.1%	18.8%	39.1%
肢体不自由 (車椅子必要)	0-6歳[N=179]	30.7%	17.9%	51.4%
	7-15歳[N=71]	19.7%	15.5%	64.8%
	16-18歳[N=19]	42.1%	10.5%	47.4%
肢体不自由 (車椅子不要)	0-6歳[N=710]	33.0%	9.2%	57.9%
	7-15歳[N=135]	20.7%	28.9%	50.4%
	16-18歳[N=46]	39.1%	21.7%	39.1%
視覚障害	0-6歳[N=147]	42.2%	15.0%	42.9%
	7-15歳[N=101]	42.6%	26.7%	30.7%
	16-18歳[N=23]	39.1%	8.7%	52.2%
聴覚障害	0-6歳[N=216]	53.7%	16.2%	30.1%
	7-15歳[N=96]	47.9%	22.9%	29.2%
	16-18歳[N=18]	44.4%	22.2%	33.3%
音声・言語・そしゃく 機能障害	0-6歳[N=151]	40.4%	20.5%	39.1%
	7-15歳[N=52]	30.8%	34.6%	34.6%
	16-18歳[N=10]	10.0%	20.0%	70.0%
内部障害	0-6歳[N=137]	35.8%	24.8%	39.4%
	7-15歳[N=52]	42.3%	23.1%	34.6%
	16-18歳[N=20]	40.0%	25.0%	35.0%
知的障害	0-6歳[N=604]	63.7%	16.4%	19.9%
	7-15歳[N=91]	44.0%	25.3%	30.8%
	16-18歳[N=17]	23.5%	5.9%	70.6%
発達障害	0-6歳[N=694]	63.8%	14.0%	22.2%
	7-15歳[N=221]	52.9%	20.4%	26.7%
	16-18歳[N=36]	55.6%	16.7%	27.8%
精神障害	0-6歳[N=284]	35.6%	20.4%	44.0%
	7-15歳[N=158]	34.8%	28.5%	36.7%
	16-18歳[N=100]	50.0%	23.0%	27.0%
その他	0-6歳[N=14]	64.3%	21.4%	14.3%
	7-15歳[N=1]	100.0%	0.0%	0.0%
	16-18歳[N=0]	0%	0%	0%

3 障害者のスポーツ観戦に関する調査

3 障害者のスポーツ観戦に関する調査

本調査では、障害者のスポーツ参加を促進するため、スポーツ大会・スポーツイベント等における障害者が観戦しやすい会場づくりや運営方法に関する先進的な事例の調査を実施した。

1. 調査概要

(1) 調査方法

障害者が観戦しやすい会場づくりや運営方法について、担当者に対して、現地訪問による聞き取り調査、及び文献調査を実施した。

(2) 調査対象

- ・ 日本財団パラリンピックサポートセンター
- ・ 横浜 DeNA ベイスターズ/横浜スタジアム
- ・ 日本ブラインドサッカー協会
- ・ 日本障がい者スポーツ協会
- ・ フクダ電子アリーナ（ジェフユナイテッド）
- ・ ブレックスアリーナ宇都宮
- ・ 日本車いすバスケットボール連盟
- ・ マツダスタジアム（広島東洋カープ・広島市）

(3) 調査内容

- ・ 事業概要
- ・ 障害者が観戦しやすい会場づくりに関する取組
- ・ 運営上の課題と対応策（障害者のスポーツ観戦における障壁／阻害要因、促進要因）
- ・ 障害者等からの反応
- ・ 今後の課題・展開

(4) 調査期間

2019年11月～2020年2月

2. 調査結果（事例調査）

2-1 日本財団パラリンピックサポートセンター

(1) 概要

① 事業概要

2015年5月に活動を開始した日本財団パラリンピックサポートセンター(パラサポ)は、「SOCIAL CHANGE with SPORTS」をスローガンに、パラリンピック・パラスポーツを通じて、一人ひとりの違いを認め、誰もが活躍できるダイバーシティ&インクルージョン(D&I)社会の実現を目指している。

設立以来、パラリンピック競技団体の運営支援をはじめ、パラアスリートや障がいのある当事者と一緒に知る、学ぶ、体験するパラスポーツを活用した D&I プログラムを展開し、2019年にはスポーツ庁長官表彰を受賞した。

② パラ駅伝の概要

日本財団パラリンピックサポートセンターが設立された2015年から、さまざまな障がいのあるランナーと健常ランナーがチームを組んで8区間を走る、「パラ駅伝」を開催している。駒沢オリンピック公園を会場として、駒沢陸上競技場内と競技場を出た公園内のジョギングコース(全長約20km、1周約2.5kmのコース)を8区間9名(伴走者含む)で8周する。駅伝は普通、1区から8区まで違うコースを走るが、パラ駅伝の場合は同じコースを8周、1区から8区までそれぞれランナーの障がいの種別が異なるのが特徴である。

第1区：視覚障がいランナー及び伴走者

第2区：聴覚障がいランナー

第3区：車いすランナー（女）

第4区：健常ランナー（男）

第5区：知的障がいランナー

第6区：肢体不自由ランナー（立位）

第7区：健常ランナー（女）

第8区：車いすランナー（男）

毎年チーム数は増え、2019年3月の第4回大会は、16都道府県と海外（カンボジア）から18チーム、著名人で構成されたオープン参加の2チームを含む過去最多の20チーム、180人が参加した。来場者数は17,500人であった。参加したランナーだけでなくボランティアや来場者が一体となって楽しめるようなイベントになるよう意識している。



(2) 観戦前の対応

① チケット販売・情報提供

公園内のジョギングコースについてはチケットは不要だが、競技場内は無料の一般観覧チケットが必要となる。ホームページやSNSでのチケット申し込みの告知では、「一般席」、「車いす席」、「聴覚障がい対応席」、「アクセシブルシート」と席種を分けて案内をし、希望のシートにお申し込みいただくようになっている。席種の案内は、来場者からの過去の問い合わせ、アンケート等を参考に、より分かりやすい案内になるよう毎回改善をしている。公式ホームページは、文字の大きさ変更と音声読み上げに対応している。

(3) 観戦当日の対応

① ハード面

(a) 観客席

「車いす席」は、常設の車いす席に加え、より多くの方が観戦できるよう競技場内グランドレベルにもエリアを設けている。「聴覚障がい対応席」には、手話通訳と要約筆記ができるモニターを設置している。障がい者に限らず、妊婦の方や移動が困難な方も利用できる「アクセシブルシート」は、通路からアクセスしやすく、席までの段差が少ない座席を確保してある。



(b) 駐車場

来場者が利用できる駒沢オリンピック公園内の一般駐車場の情報は、公式ホームページを通じて案内している。

(c) 会場内設備

パラ駅伝は女性の来場者が多いため、競技場内にある男性トイレを女性用に振り替える対応をしている。多目的トイレは必要な方が利用できるよう案内をしている。

② ソフト面

(a) アクセシビリティマップ

最寄駅から会場までのアクセシビリティマップを作成し、公式ホームページに掲載している。車いすユーザー向けには段差が少なく道が広がっている「車いす推奨ルート」を記載している。また、駐車場、障害者用トイレ、AED、おむつ交換台、エレベーターの位置も一目で分かるよう記載している。



(b) 会場内動線

受付には車いす優先レーンを設けている。車いすの方が来た場合はエレベーターを使うことがあるので、しっかりアテンドのスタッフがついてケアをしている。車いすの方でも、自走できる方、電動の方、または介助者・同伴者と一緒の場合もあり、すべての方にお手伝いが必要なわけでもない。受付で何かお手伝いすることがあるか確認しており、絶対に付きそうという指示はしていない。あくまで当事者の方のご意見を伺いながら、必要があれば対応する。事前にスタッフやボランティアに対し、道順などアテンドに必要なレクチャーを行っている。

(c) スタッフへの研修

駐車場や多目的トイレの数は限られているが、問い合わせがあったときにすぐに答えられるように、事前にホームページやマップにきちんと表記をしている。当日は、ボランティアを多く起用しているので、大会二回目以降は、ボランティアの方にも、当日の接遇に関するセミナーを研修として事前に受講してもらい、車いすの方、聴覚障害、視覚障害の方へのお声がけ、対応について学んでもらう。ソフト面でボランティアの育成を行い、ハード面の足りない部分、不便なところを解消できるような対応をとっている。

(d) 情報保障

聴覚障害のある観客への支援は、一回目は手話通訳だけだったが、中途障害のために、ろう学校に通っておらず手話のわからない方も多いため、要約筆記のモニターを設置することにした。モニターは見やすい角度や席数について、毎年、工夫・改善している。

また、機材のケーブルなどが車いすの動線の邪魔にならないようにしたり、案内動線についても、毎年どこが一番スムーズに案内できるか、意識してマイナーチェンジ、改善を行っている。また、車いす利用者は目線が低いので、案内表示の前に立っている人がいても見える位置に大きく表示を行う。受付の表示も、車椅子利用者からもよく見えるように入口の上のところに大きく「総合受付」と表示したり、手話対応の受付は手話のマークを表示するなど、見せ方、文字の大きさ、位置を意識している。また、各所の総合受付には手話ができるスタッフを配置し、各スタッフも、筆談ができるメモ帳とペンは携行物として常に用意し、聴覚障害の方がいても筆談で対応できるようにしている。緊急時対応については、聴覚障害者は音声だけのアナウンスだとわからないので、電光掲示板で文字情報を流す。また、席に

手話通訳がいるので、そこから情報提供できるようにしている。

(4) 観戦後の対応

① 退場

イベント後は規制退場とし、席ごと、ブロックごとに退場するように案内している。また、規制退場の際には、車椅子席などの方にも適切なご案内ができるようにしている。イベント会社と警備会社も入っているので、そのあたりは通常のイベントに沿って対応している。

② イベント後のコミュニケーション機会の提供

イベント後にアンケートを実施している。「楽しかった」だけで終わらないように、次にどこでどのような大会があるのか、どういうイベントがあるのか、配布物等でアナウンスしている。

2-2 日本ブラインドサッカー協会

(1) 概要

① 事業概要

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会は 2002 年に設立され、2015 年より NPO 法人化した。ビジョンに「ブラインドサッカーを通じて、視覚障がい者と健常者が当たり前で混ざり合う社会を実現すること」、ミッションに「ブラインドサッカーに携わるものが障害の有無にかかわらず、生きがいを持って生きること」に寄与すること」を掲げ、全ての事業はビジョンとミッションを実現させるために行っている。強化事業、育成事業、普及事業、審判事業、大会・地域連携事業、D&I（ダイバーシティ&インクルージョン）事業等を中心に活動している。

全国にクラブチームがあり、2020 年度はブラインドサッカー（B1/全盲）の登録チームが 25 チーム、ロービジョンフットサル（B2・B3/弱視）の登録チームが 4 チームとなっている。

ブラインドサッカーの競技人口を増やすという観点から、国内の大会であれば晴眼者、弱視者もアイマスクをしてフィールドプレイヤーとしても試合に出場可能である。国際試合は全盲の人しか出られない。

ブラインドサッカーは、パラリンピックでは「5 人制サッカー」と呼ばれている。

② イベント概要

2019 年 6 月に実施したアクサブレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権の予選ラウンド会場は、港区立港南小学校グラウンド（人工芝のグラウンドがある）、福島の十六沼公園、FINAL ラウンドは、アミノバイタルフィールド。リーグ戦は、小石川運動場、しながわ中央公園などで実施した。2020 年 2 月の大会は富士通スタジアム川崎。女子日本代表の大会は、埼玉のサイデン化学アリーナ（屋内）で実施。

(2) 観戦前の対応

① チケット販売・情報提供

有料大会は、NPO 法人日本ブラインドサッカー協会のホームページや、大会会場で販売している。2014 年に世界選手権という大会を渋谷の代々木公園で行い、ここで初めてチケット販売を始めて有料化した。そのときに、障害者割引チケットを設定するかどうか議論に

なった。協会の目指している混ざり合う社会を実現するために、障害者割引は設定しないことになり、障害者の方が健常者と同じ料金を払って、健常者と同じように楽しめる環境を作るということで、有料化は始まった。

販売サイトは一般的なもの。気を付けているポイントは、読み上げに対応するように画像ではなくテキストで表示するようにしている。電話での問い合わせにも臨機応変に対応する。

(3) 観戦当日の対応

① ハード面

(a) 観客席

「車いす席」は設けていない。スタンドに登れない人は車いす利用者だけではないので、「アクセシビリティシート」という形で提供している。障害者手帳の確認などは行っていない。あまり厳しくすると、本当に必要としている人が利用できなくなる恐れがある。

スタンドに登れるが、中央まで移動するのが難しい場合は、問い合わせの際に端の方の席を案内するように心がけている。ハード面で対応が不可能なところは、ソフト面で補う。

(b) 駐車場

基本的には、公共交通機関での来場を呼びかけている。大会会場施設の駐車場が利用可能な場合に限り、駐車場を案内している。

(c) 会場内設備

公園に会場を設営した大会では、障害者用トイレ、補助犬用トイレも仮設で設置した。



障害者用トイレ



補助犬用トイレ

② ソフト面

(a) 会場までのアクセス

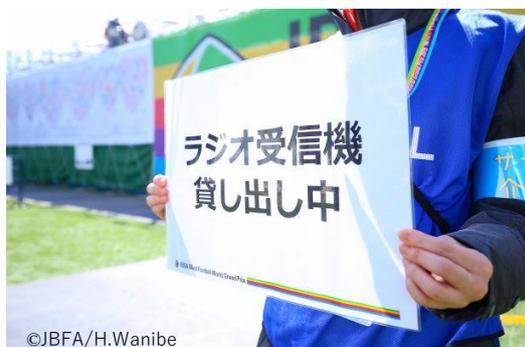
新たな取組みとして、&HAND (アンドハンド) (※妊婦 や 障害者 など外出時に手助けを必要とする人と、周囲の手助けをしたい人を Beacon と LINE でマッチングする取組を行う団体) との連携を始めている。視覚障害の方にデバイスを持ってもらい、必要なときにボタンを押すと、ボランティアのところに連絡が入る。まだオープンになっていない取組だが、実用化に向けて実証実験をしている。

(b) リレーションクルーの取組

障がい者向けのサービスを提供するリレーションセンターを設置している。日本選手権の FINAL ラウンドや、リーグを勝ち上がったチームの大会など規模の大きな大会で設置。小さな大会にも少しずつ広げている。センターには、リレーションクルーと呼ばれるスタッフが常駐している。リレーションクルーは、公益財団法人ケアフィット共育機構が認定するサービス介助士の資格を有するスタッフで、障害者がお手伝いを必要とするときなどに適切に対応が可能である。障害者のみだけでなく、一般の問い合わせ等にも対応。国際大会の観客は空港から直接来場し、大きなスーツケースを持っている場合もあるので、荷物預かりも行っている。

サービスの種類

- ①リレーションクルーの受付
- ②音声ガイドシステムの貸出し
- ③触地図ガイドブックの用意
- ④拡大ガイドブックの貸出し
- ⑤筆談ツールの貸出し



©JBFA/H.Wanibe

ラジオ受信機の貸し出し案内



©JBFA/H.Wanibe

リレーションセンター受付

●音声ガイドシステム（実況中継）

視覚障害の方でも、臨場感のある試合観戦ができるように、試合の実況中継を行う。当日会場で聞くことができる受信機をリレーションセンターで無料で貸し出している。実況をFMラジオで飛ばして、FM受信機で聞いてもらうサービス。インターネットではなくFMラジオにしている理由は、ラジオはタイムラグがないため。視覚障害者だけでなく、初めてブラインドサッカーを観戦する人がルールを理解するために利用している。一般の人の方が借りる台数が多くなり、いざ視覚障害の人が来たときに貸し出せないということが数回あったので、ある程度の台数を確保しておくという対応が必要となった。

●拡大ガイドブック

当日配布のパンフレットの文字や写真等が見やすいサイズで閲覧できるよう、iPadにPDF化したデータを入れて、リレーションセンターで無料で貸し出している。保証金(1,000円)を以前は取っていたが、保証金を取ると貸し出しのハードルが高くなってしまったため、取りやめた。返却を忘れて持ち帰ってしまうなどのことはあるが、貸し出しの際に氏名・電話番号を記入してもらうので、電話をかけると返してもらえる。盗難などのトラブルは今のところ起こっていない。

●筆談ツール

iPadに手書き筆談アプリをインストールし、リレーションセンターで無料で貸し出している。

(c) 会場内動線

設営の際には、健常者も障害者も同じ動線で動けるようにしている。スタンドの設営はIPCの基準に従っている。

(d) その他

託児所を設置し、大会の選手、スタッフ、観客の子供を預かる。

観戦後のファン同士のコミュニケーションの機会は特に提供していないが、ボランティアの懇親会は開催している。大会は多くのボランティアに支えられていて、その中には障がいのある方もいる。

2-3 横浜 DeNA ベイスターズ（横浜スタジアム）

(1) 概要

① 事業概要

横浜スタジアムは、神奈川県横浜市の横浜公園内にある多目的スタジアム。プロ野球セ・リーグの横浜 DeNA ベイスターズの本拠地であり、アマチュア野球やサッカー、コンサートなどのイベントにも利用される。

株式会社横浜 DeNA ベイスターズ（球団）と株式会社横浜スタジアム（球場）は、別会社ではあるが、試合の運営・興行に関しては、グループとして一体となって行っている。

本稿では、主に横浜スタジアムで行われる横浜 DeNA ベイスターズの試合観戦についてみていく。

(2) 観戦前の対応

① チケット販売・情報提供

横浜 DeNA ベイスターズの試合では、車椅子利用者チケットを販売している。チケットは、興行の約 1～2 か月前から販売になる。車椅子利用者チケットについては、専用のページを設けて、そこで案内をしている。

チケットの購入は、球団 WEB サイトからの車椅子利用者専用販売サイトにて抽選販売を実施、抽選で売切れていない場合のみ先着順による二次販売が行われる。この他、球場窓口などでも購入できる。車椅子利用者チケットは、ほぼ前売り券で完売となり、当日券が出ることは、ほとんどない。車椅子利用者チケットについては、一般のチケット販売の案内において、一緒に情報発信している。

車椅子利用者チケットを購入する際は、「内野車椅子利用者 1 名・介助者 2 名」のように介助者分とあわせてチケット購入ができる。内野席については、あわせて駐車券が購入できる（駐車場が確保される）。

他の障害者については、特別な対応のチケットはない。ただし、視覚障害については、盲導犬の同席は認めており、年間 1, 2 回程度の利用がある。盲導犬の場合は、普通席に入っただけ、周りのお客様に対しても呼びかけをして理解を促している。

(3) 観戦当日の対応

① ハード面

(a) 観客席

車椅子利用者席がある。従来から内野席に 6 席（各席介助者 2 名まで、 $6 \times 3 = 18$ 席）、車椅子利用者席（車椅子利用者エリア）があった。

さらに、2019 年シーズンから新設されたウィング席（BAY SIDE）に、5 席（各席介助者 1 名まで、 $5 \times 2 = 10$ 席）の車椅子利用者席（車椅子利用者エリア）が設けられた（ライトウィング側）。

現在、レフトウィング席を改修中であり、2020 年シーズンには、レフトウィング席にも 5 席、車椅子利用者席を設ける予定である。

ウィング車椅子席は、すぐ近くにエレベーターがあり、席までの移動がスムーズにできるようになっている。内野席は、エレベーターまで行くためにコンコースを通らなければいけないため、やや混雑するところを通ることもある。その反省も踏まえて、ウィング車椅子席は、エレベーターの近くに配置した。ウィング車椅子席は、エレベーターで 3 階に降りると、多目的トイレがすぐ近くにある。この配置も意識して行った。

内野車椅子席は、1 塁側のベンチの上、ウィング車椅子席は、通路に近い柵のそば、といずれも一番試合が見やすいところに配置されている。



内野車椅子席



ウィング車椅子席

(b) 会場までのアクセス

横浜スタジアムは、JR 関内駅、市営地下鉄関内駅、みなとみらい線日本大通り駅の 3 駅が徒歩圏内にあり、アクセス面での問題はない。車椅子利用者向けの駐車券も事前販売している。利用者分の駐車スペースは事前に確保している。

② ソフト面

(a) スタッフの対応

車椅子の方がいらっしゃったことが確認できれば、必要に応じてスタッフがサポートを行う。事前に連絡を頂いている場合は、スタッフがお客様のもとへ向かうようにしている。ただし、1名で見に来る障害者の方は少なく、だいたい介助者と一緒にことが多い。

スタッフに対しては、ファールボールが飛んできた時に、障害者の方の安全が確保できるように気を付けるように指導している。

(4) 観戦後

スタッフがつく場合もあるが、ほとんどが介助者と帰られることが多い。特に問題は起きていない。

2-4 ジェフユナイテッド

(1) 概要

① 事業概要

Jリーグに所属するジェフユナイテッド市原・千葉は、市原市と千葉市をホームタウンとし、2003年より、「魅力あるクラブ」、「地域とともに歩むクラブ」、「自主自立経営」を3つの柱とした、クラブビジョンを策定し活動している。2005年に千葉市蘇我スポーツ公園内に開業した「フクダ電子アリーナ」を本拠地としている。約2万人収容のフクダ電子アリーナは、Jリーグのイベント規模に適した、観やすく、使いやすいコンパクトな「地域密着型」スタジアムをコンセプトとして設計された。

(2) 観戦前の対応

① チケット販売・情報提供

車いす席は一般チケットの半額にて販売している。付添者も一名までは車いす席価格でチケットの購入が可能となっている。申し込みは電話またはFAXで、前日まで受け付けている。当初は、車いす席も一般席と同じ金額だったが、どうしても付き添いが必要な場合が多く、付き添い分のお金がかかってしまう、という意見があった。付き添いが必要なときに、その分のチケット代が余分にかかってしまうと、なかなか試合に一緒に行ってもらえない。そこで車いす席、付添者のチケット料金は一般席の半額とした。車いす用の駐車場利用は、チケット購入の際に、ファンクラブ事務局に連絡し、登録する。

ジェフユナイテッドのウェブサイトで、身障者用割引チケット、車いす席チケットについて情報提供を行っている。

(3) 観戦当日の対応

① ハード面

(a) バリアフリーを目指して設計されたアリーナ

2005年に完成したフクダ電子アリーナはハード面に特徴がある。設計の際にジェフユナイテッドから、障害者にも配慮した施設にするために様々なリクエストを出し、それを受け入れてもらった。当時、2002年のワールドカップのためにいくつかスタジアムが出来ていて、障害者席は、車いすでフラットに入れるようにするためにピッチに近いところに設置されることが多かったが、ピッチに近いところだと雨に濡れてしまう。体が弱い方々が、雨に

濡れる席だと困るので、屋根があることは絶対条件だった。それまで利用していた市原のスタジアムは、スタンドの軒下に障害者席を設置していたが、それも臨時で作ったもので、一般の観客の動線とは全く異なり、入場ゲートで特典などを配布したときに、それが障害者席利用の方に行きわたらない。後から渡すなどしていたが、障害者の方も、他の観客と同様に入口で渡されたほうが嬉しいだろうと思い、同じ入場口から入場できるようにしたかった。

フクダ電子アリーナは二階に4か所車いす席が設置されており、二階のコンコースからそのまま入ることができ、また通路の部分がフラットに一周できるスタジアムになっている。ポイントは、一つ目はまず、雨に濡れない。二つ目は、一般の観客と同じ動線で入場できる。

市原のスタジアムのときは、熱烈なサポーターの中に障害者の方がいた。障害者の方も、ゴール裏で他のサポーターと一緒に旗を振って応援したいに違いないと思い、設計会社と相談し、ゴール裏と、ピッチのセンターライン、少し外れたところなど、あらゆる角度から見られるように車いす席を配置してもらった。

車いす席は合計110席あり、メインスタンドには20・20で40席、バックスタンドに10・10・10で30席、北側サイドスタンド（ホーム側）、南側サイドスタンド（アウェイ側）にそれぞれ10・10で20席となっている。付添が入るので、どうしても二席分のスペースが必要となる。身障者エリアのところには大抵係員がいるので、必要があれば対応可能となっている。車いすエリアには家族で見たい場合など、複数の同伴者も入場可能としている。

車いす席からの見晴らしは良く、前の観客が立ち上がっても、視界が遮られることはない。

ゲートから車椅子席までフラットに移動できる



視界を遮らない車椅子席



(b) エレベーターの設置

車いす席までのアクセスとして、コンコースから直接入るようになるためには、どうして

もエレベーターが必要だったので、フクダ電子アリーナの設計の際に、最後に千葉市に依頼し、エレベーターを一基、設置してもらった。車いす利用者がスタジアムに来場した際には、エレベーターに乗って、ダイレクトにスタジアム内に入れるようになっている。他のスタジアムでは、車いすの方は関係者用のエリアからエレベーターで上がるということが多かった。そうすると、誰かが付き添わないと、関係者エリアに入れない。関係者エリアから入ると、結局ゲートは通らない。また、関係者のエレベーターは使用時間が集中するので、その時間帯は障害者の方が利用しづらい。そこで、どうしても一般来場者用に、外に一基エレベーターを付けてほしいとお願いしていた。一基だけだが、特に渋滞することなく、車いすの方もスムーズに入場できている。

(c) 売店・トイレ

コンコース上に飲食やグッズの売店もあるので、障害者の方もスタジアムに来て、自由に買い物ができるようになっている。車いすの方も移動が簡単にできるように、全てフラットに設計した。障害者の人も、健常者と同じ環境下で観戦できるようにするべきだという思いがあったので、それを突き詰めていった。オープンする前に、スタッフが車いすに乗って動線をチェックした。

また、プレオープンの前に、車いすのサポーターをお願いし、動線を試してもらった。すると、車いす席にカップホルダーがないことに気づいた。障害のある方こそ、そういったものが需要というご意見をいただき、そのサポーターの方が、車いす席全部にカップホルダーを寄付してくれた（柵があるので、そこに設置）。当事者で、実際に観戦経験がある人でないと、なかなか気づかないことだった。

トイレがスタジアムの角、八か所にあるが、入りづらくないか、段差はきつくないか、事前にチェックした。トイレは 8 か所にあり、全ての男子トイレと女子トイレの間に多目的トイレがある。

② ソフト面

(a) 会場内動線

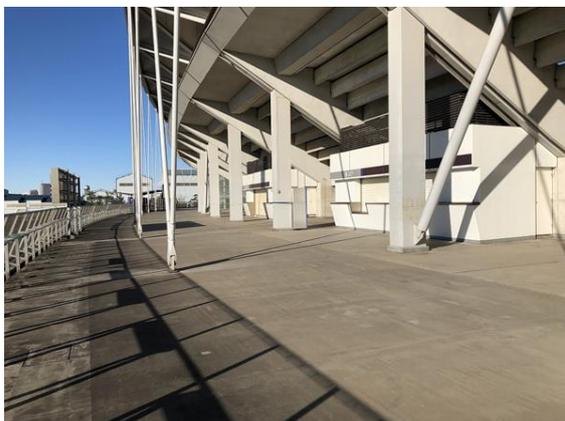
規模は小さいが、見やすく、大会関係者にも運営しやすいスタジアムと好評である。動線を考慮したので、来賓の動線、選手の動線、大会関係者の動線が重ならないように設計されている。なるべく人手をかけずにいろいろな運営ができるようになっている。

障害者の方も、健常者と同じように同じ入口から入り、同じ動線で売店で買い物もでき、同じ動線で座席まで移動できるスタジアムとなっている。通常は、障害者だから特別にしないで、という意識がある。しかし、必ずしもそれが障害者にとって良いこととは限らない。特別にしてほしいと望む方もいるかもしれないが、サッカー観戦に来るような人は基本的にアクティブな人が多く、自分で出来ることは自分で、という人が多い。必要な場合はスタッフが支援を行うが、通常は、障害者の方も、特別扱いはせずに、あくまでも一般の観客と同じように、試合を楽しむことができる運営を行っている。

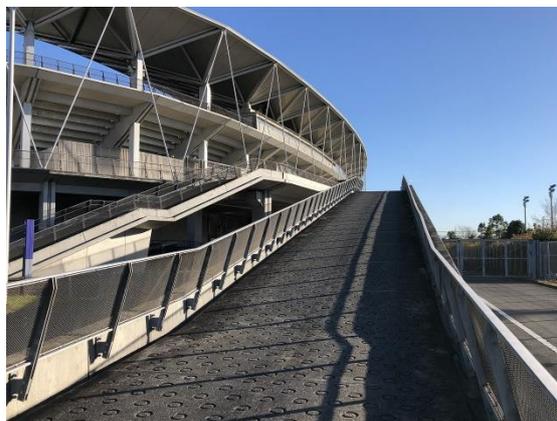
③ その他

会場の外にはスロープがあり、そのまま車でコンコースに入れるようになっている。飲食の売店の担当者が、エレベーターで物を上げ下げするのは大変で、また、エレベーターがその時間全く使えなくなるため、車ごとコンコースに入れるように、スロープを付けてもらった。救急車もコンコースに入れるので、担架をエレベーターに乗せる必要もない。キッチンカーもそのまま入れる。終わったあとのゴミも、ゴミの回収車が回ることができる。机なども車で運べるので、運営上も非常に便利で、運営しやすいスタジアムになっている。

フラットで一周できるコンコース



公園エリアから設置されたスロープ



スタンドの下がすべて駐車場になっているが、障害者用駐車場がエレベーターから少し離れていることが難点である。入場口には、待機列ができてしまうので、そこまで車を乗り入れることが難しい。ただ、少し離れた場所に障害者用駐車場を設置したことによって、台数が取れる。関係者用の駐車場なので、イベントの規模によって車椅子用駐車場の台数を増減可能である。

2-5 宇都宮ブレックス（宇都宮市体育館ブレックスアリーナ）

(1) 概要

① 事業概要

株式会社栃木ブレックスが運営するプロバスケットボールチーム「宇都宮ブレックス」は、2004年に栃木県内で有志による活動を開始し、2007年に「栃木ブレックス」としてチームが発足した。2019年7月から「宇都宮ブレックス」に改称し、チームは2019-20シーズンで13シーズン目を迎えた。株式会社栃木ブレックスは、その他にバスケットボールスクール及びチアダンススクールを運営している。

② 宇都宮市体育館ブレックスアリーナ

宇都宮ブレックスのホームアリーナであるブレックスアリーナ宇都宮は、宇都宮市が所有するため、宇都宮市スポーツ振興財団が指定管理に入り、施設管理を行っている。宇都宮ブレックスは、利用者として、試合の際に借りているという関係性である。

ブレックスアリーナは東日本大震災のあと、2011年～12年頃に耐震工事に入り、震災で被害が出た天井などの補修工事、床面の張り替えなどが行われた。2013年～2014年頃から今の形で利用している。その工事の際に施設として大きく変わったのは、一階から二階に向けてエレベーターが設置された点である。

Bリーグのルールとして、ホームアリーナと決めるところで8割以上は試合を行うという決まりがあり、毎年少なくとも24試合はブレックスアリーナでホーム戦を行っている。2019-20シーズンは、合計28試合をブレックスアリーナで実施することになっている。

(2) 観戦前の対応

① チケット販売・情報提供

チケット販売はインターネット経由がほぼ100%であり、電話では基本的に受け付けていない。車椅子席は、一階のコートサイド、二階に車椅子席がある。マックスでそれぞれ8～10席程度で、車椅子席一つの価格で、利用者本人と付添者が入場できる。車椅子席用にスペースが確保しており、その後ろにパイプ席を置いて付添者が座ることができる。一階はアリーナ改修工事前から車椅子席があったが、二階の車椅子席はエレベーター設置後に新たに設けられた。

一階の車椅子席はほぼ毎試合売り切れる。二階は、試合によって2、3名のときもあれば、売り切れるときもある。スペースやアクセスの問題で、これ以上席を増やすことは難しい。

一階の車椅子席はコートサイドの最前列なので見やすい。車椅子席は価格を抑えて販売している。二階も割と良い場所に車椅子席が設置されている。二階の角の、少し床から高くなったところがガラス張りのスペースになっている。車椅子席のシーズンチケットを購入しているファンもいる。

(3) 観戦当日の対応

① ハード面

(a) 観客席の設置

通常は体育館として利用されているブレックスアリーナを、試合のたびにバスケットボール試合会場として設営している。二階が観客席で一階が競技場とし、一階は試合の度に引き出し式の座席を設置する。二階の固定席が2,000席程度で、販売席数が4,500席なので、2,500ほど増設している。座席は3階にも増やしている。体育館の床の不要な線をテープで消して、コートサイドに椅子を設置し、幕を張る。トラック数台分の設備となり、設営には朝9時～夜9時までほぼ丸一日を要する。毎回、試合終了後に撤去作業を行う。

他チームも同様に運営しているところが多いが、ブレックスは仮設の座席など、数的にも多い。Bリーグのルールで、ホームアリーナは観客5,000人収容がライセンスのための条件になっている。その5,000人を達成するためにも、移動式の席を利用するなどして観客席を増設している。

(b) 駐車場

アクセスは、車で来場する人がほとんどである。体育館の敷地内の駐車場が合計200台程度あるが、そこは基本的に一般の利用者には開放しておらず、関係者用としている。車椅子席のチケットには、敷地内の駐車場に止められる駐車券を発行している。台数は限られているが、車椅子の乗降スペースがある位置の駐車場を確保している。駐車場に入るときには、購入者の情報を把握しているので、利用者にも、購入した車椅子席のチケットを駐車場入り口で提示してもらい、運営側が購入者リストの名前を確認している。

一般の利用者は、会場から車で15分ほど離れたところにある、宇都宮の中央卸売市場の駐車場を400～500台分借り、そこから無料のシャトルバスを運行している。シャトルバス

はJR宇都宮駅東口も経由するため、電車を利用する来場者も利用することができる。また、近隣のコインパーキングが割引で利用可能となっている。

(c) 施設設備

体育館の施設として、駐車場からロビーの高さまではスロープが設置されている。ロビーに上がるところに段差があり、ロビーの両端にのみスロープが設置されているが、ブルックスの試合日は、車椅子利用者含め、一般の方でも躓いたりすることがないように、観客が通るところ全てに木製のスロープを設置しているので、そのまま入場できる。体育館がオールバリアフリーになれば一番良いが、それは難しいので、このような形で対応している。

ブルックスアリーナは、体育館としての通常営業のときは土足禁止だが、ブルックスの試合の際は、その後の清掃が条件で土足可としているので、そのまま靴を脱がずに入れる。靴を脱ぐ場合は段差があっても問題ないが、土足のまま止まらずに入ると躓いたり、入場の速度も落ちてしまうので、そこにスロープを設置した。設置後は、観客の安全の確保ができ、運営上もトラブルが少なくなった。

一階の車椅子席は、アリーナの入り口に入ってコートサイドの一番近いところになっている。二階は、エレベーターを降りて客席エリアに近いところが車椅子席となっている。一般の方はあまりエレベーターを利用しないので、混雑もそれほど問題にはならない。

(d) 非日常的なエンターテインメントの提供

チームのビジョンとして、「非日常のエンターテインメントを提供する」を掲げて運営しているため、ここ数年は、「体育館感」を消すことを目標としている。ロビーなどはなかなか行き届かない部分もあるので、フロアの中ではできるだけもともと体育館にあるものを隠して、お客様に少しでも楽しんでもらえるように演出している。

バスケットボールの試合を演出するために、4面ビジョンをブルックスアリーナに天吊りで設置している。また、壁にも細長いリボンビジョンを付け、装飾をしている。栃木ブルックスが購入したものを、体育館側と市に相談して設置した。天吊りのビジョンは、普段はできるだけ天井近くに上げておいて、試合の時だけ下げるといった形を取っている。ブルックスアリーナにブルックスの試合の日だけに来ていた人は、通常の体育館の様子を見るとあまりに様子が違うので驚く。

② ソフト面

(a) スタッフの対応

障害者が困っているような場合にはスタッフが声掛けするが、通常、車椅子席を利用して観客は毎試合観戦に来ているような慣れた方が多いので、特別なサービスは行わず、他の一般客と同じように対応している。

(b) 会場内動線

障害者の方を含め、全ての観客が快適に観戦できるように、席の案内、スロープ等の動線、フロアの中で動くときにできるだけストレスがないように工夫して運営している。席の案内は、大きめのマップを目立つ場所に掲示したり、人の配置も工夫している。スタッフは、ブレックスの社員及びアルバイト、またボランティアの方にも昔から協力してもらっている。ボランティアの方はブレックスやバスケットを好きで来ている方が多いので、席の案内など丁寧にやってくれている。車椅子利用者は、付き添いなしで、一人で来場することもあるが、特に問題はなく、入場は一般と同じ動線に入れる。

(4) 観戦後

Web アンケートをファンクラブ会員には毎試合後実施し、一般の観客は、ブレックス独自のものやリーグ全体での取組で、年1回～2回行っている。最近多い意見は、一般の客席の幅が狭いということ、体育館の一階のアリーナへの出入り口が一か所なので、ハーフタイムや試合終了後の退場の際に混雑することなどについてである。

退場は、規制などは特にかけていない。退場時のみ、一階の出入り口をもう一か所増やしている。そもそも、体育館の出入り口は4か所ほど扉があるが、一階は一階席のチケットを持っている人だけの出入り口にしてるので、そのチケットチェックをすること、また、選手がバックヤードにしていることもあり、4か所あるうちの3か所は締め切りにして、1か所にしてる。退場時のみ、バックヤードに関わらない扉をもう一つ開放し、混雑が緩和されるように工夫している。

2-6 日本障がい者スポーツ協会

(1) 概要

① 事業概要

日本障がい者スポーツ協会は、障害者スポーツの普及振興を目的とし、昭和 40 年に設立された。全国規模の障害者スポーツ大会の開催及び奨励、障害者スポーツ指導者の育成、障害者スポーツ選手の競技力の強化、障害者スポーツの調査研究、広報などを行っている。

② 障害者のスポーツ大会の開催

(a) 全国障害者スポーツ大会

全国障害者スポーツ大会は、1964 年に開催された「第 2 回パラリンピック東京大会」の成功を契機に翌年の 1965 年から開催されてきた全国身体障害者スポーツ大会と「国連・障害者の十年」の最終年を契機として 1992 年から開催されてきた全国知的障害者スポーツ大会が統合され、2001 年より開催されている。大会は国民体育大会終了後に、同じ開催地都道府県で行われている。大会の目的は、「障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的とする」としている。大会の実施競技は、6 つの個人競技と 7 つの団体競技からなり、2021 年より重度障害者、高齢障害者の対象競技としてボッチャ競技が導入される予定である。

全国障害者スポーツ大会の式典は、開催地の歴史や偉人をテーマに演舞を行うが、障害のある生徒たちのダンスや太鼓なども入る。ナレーションでは特別支援学校の生徒も一緒に、選手団を紹介するなど、障害のある子もない子も一緒に大会を盛り上げている。

(b) ジャパンパラ競技大会

ジャパンパラ競技大会は日本障がい者スポーツ協会が、主催・企画・運営を行い、各競技団体と共催して 1991 年度から開催する、国内最高峰のパラスポーツ競技大会である。もともと日本人選手の国際競技力向上を目的に開始された。パラリンピック大会の競技で、日本代表選手団のメダル獲得が期待される競技に絞って開催する。それによって、競技力の向上、パラスポーツの普及に繋がっている。現在開催しているのは、陸上、水泳、ゴールボール、ボッチャ、車椅子ラグビー、アルペンスキー（2019 年度は実施せず）の 6 競技大会である。



(2) 観戦前の対応

① 仮設設備の設置

全国障害者スポーツ大会などの大規模大会において、車いすトイレが設置されていない施設においては、車椅子用の仮設トイレを設ける。また、エレベーターが狭い場合には、車椅子が一台しか乗降できないため、動線を整備し、歩ける人を階段に回すなどの対応をとっている。更に、大会運営としては、競技役員、審判員の流れ、選手の流れ、観客の流れを把握し、競技会場の中で動線を作るシミュレーションを必ず行っている。また、スロープが設置されていない場合、臨時のスロープを設置し対応する。このような大会を契機に改修工事をする場合もある。

(3) 観戦当日の対応

① ハード面

(a) 観客席

ジャパンパラ競技大会は、「競技力の向上」に加えて「パラスポーツのファン作り」を目標として掲げているため、ファンづくりという観点から、通常の観客席に加え、可能な限り間近で観戦してもらうためにアリーナ席を設置している。アリーナ席に関しては、車椅子席を必ず設置する。床より高い位置に設置したスペースに、スロープで上がってもらう。それを、アリーナ席の一番前に作るようにしている。同伴者の方については、パイプ椅子に座ってもらう。同伴者も障害者の方と一緒に観戦できることが重要である。通常、同伴者は一名のことが多いが、ジャパンパラは普及を第一の目的としているので、全席無料としている。当日、会場まで足を運べば、事前に申し込み等をしなくても、トップアスリーの試合を観戦することができる。

(b) 会場までのアクセス

車椅子利用者用（選手・観客）の駐車場は、可能な限り、三台分の駐車スペースに二台の車が止められるよう確保している。ドアを開けて、自分で運転席から車椅子を下ろし、移乗する。それが終わって、車椅子に乗ったら自分の荷物（競技用の道具等）を車から出す。また、その後会場に行くまでの動線をどれだけ短くするか、工夫している。

また、視覚障害者が会場に入ったときの動線を考え、点字のシールを貼るなどの工夫も行っている。

② ソフト面

(a) ファンづくりを重視した取組

競技大会では、視覚障害者向けに、会場で DJ・解説者等による実況中継を行い、これを FM ラジオの副音声で流している。聴覚障害者向けには、スタンドにスクリーンを設置し、手話も入れる、知的障害者の方向けには、トイレの表示をわかりやすくするなどの配慮を行い、障害の特性に合ったユニバーサルな情報保障を行っている。

また、これらの情報保証は、一般観客にも活用されており、パラ競技を見るのが初めてという方などには有用な手段となっている。

更に、選手等との体験会や競技解説の冊子配布などを通して、ファンづくりをしている。

(b) スタッフ・ボランティア

ボランティアは、日本障がい者スポーツ協会の協賛パートナー企業が現在 34 社あるので、そこを通じて社員の方を募集している。これらの企業は組織として、障害者スポーツや共生社会に理解があり、ボランティア活動にも慣れている。その他にも、障害者スポーツ指導員（登録指導員）の方々にボランティアを依頼する。一般向けには基本的に募集していない。

ボランティアに来る人はモチベーションが高く、仕事はしっかりしてもらえる。登録指導員にはランクがあり、障害者スポーツに対して思いがある人が資格を取っているので、現場でのトラブルも少ない。

障害者スポーツにも理解がある人がボランティアをやっているので、かなりスムーズである。ボランティア経験が既にある人が多く、こまごまとした指導の必要がない。初めてボランティアに参加する場合は、受付ボランティアなどから始めて、徐々に現場に慣れてもらう。

大会の共催となる競技団体は、毎年支援いただいている大学や地域の方などにもボランティア活動を依頼し、競技の理解や支援の拡大に努めている。

(4) 観戦後

① ファン同士のコミュニケーション機会の提供

SNSなどで、ファン同士がそれで自発的に繋がっている。また、東京都には、「TEAM BEYOND」というパラスポーツを応援する人が集まるプロジェクトがある。アスリート、観戦者、支援者、企業・団体など、誰でも参加することができる。TEAM BEYONDのメンバーが積極的に競技大会にも団体観戦に来てくれる。彼らの取り組みとして、試合が終わった後に選手との交流会などを実施している。

2-7 日本車いすバスケットボール連盟

(1) 概要

② 事業概要

日本車いすバスケットボール連盟は、日本の車いすバスケットボール競技を統轄し代表する団体として、車いすバスケットボール競技の普及及び振興を図り、身体障害者の健全な心身の養成と社会参加及び障害に対する社会の理解を促進し、バリアフリー社会の実現に寄与することを目的として、1975年に設立された。

設立以来、国内の車いすバスケットボール普及に力を注いできたが、今後は国内の底辺の拡大、世界を視野に置いた全体のレベルアップにも取り組んでいく。

主な活動としては、天皇杯・皇后杯等各種大会の主催、(公財)日本障がい者スポーツ協会より委託を受け全国障害者スポーツ大会車いすバスケットボール競技予選会開催、パラリンピック及び国際車いすバスケットボール連盟主催の大会への参加、車いすバスケットボールの普及及び啓発活動等を行っている。

③ 主催する大会

- ・天皇杯(旧 総理大臣杯)47回まで終了@武蔵野の森総合スポーツプラザ
 - ・皇后杯(旧 女子日本選手権)30回まで終了@グリーンアリーナ神戸
 - ・U25 日本選手権@スカイホール豊田
 - ・東日本車いすバスケットボール選抜大会(旧 秋季大会)42回まで終了@千葉ポートアリーナ
 - ・西日本車いすバスケットボール選抜大会@今治市営中央体育館
- ※その他、主催事業多数

(2) 観戦前の対応

④ チケット販売・情報提供

三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP 2017～2019の3大会では、車いすエリアチケットをローソンチケットで販売。2018年・2019年は、平日は入場無料で、土日のみ前売り券と当日券を販売した。付き添いは1名まで無料とした。車いすバスケットボールの人気は年々高まっており、一般席はすぐに売り切れる。2019年大会では車いすエリアのチケットも完売した。

(3) 観戦当日の対応

⑤ ハード面

(c) 会場内の動線

大会当日は、障害者の方が通りやすいように、動線上のドアは、可能な限り開放している。また、段差による転倒を防止するために、テレビ中継用や競技関係のケーブルは、養生マット等で保護カバーを施すなど、配慮している。

動線については、会場ごとに対応が異なるが、可能な限り、会場入口から観戦位置まで同フロアでの移動を設定し、来場者に移動の負担がかからないような会場設営を行っている。

(d) 観客席における工夫

アリーナでの観戦においては、観戦位置に台上げと仮設スロープ設置を行い、1名でも多くの方に、試合の迫力が伝わるコート脇で観戦いただけるように工夫している。

⑥ ソフト面

(e) スタッフの対応

会場では、各所に案内ボランティアを配置し、インフォメーションデスクも設置している。スタッフの対応において、健常者向け・障がい者向けと強く意識はしていないが、ヘルプが必要とされることが多いエレベーターには案内スタッフを配置している。また、会場内は、貼紙や動画などで全ての人にわかりやすい案内表示を心がけている。

(4) その他

来場者多数の大会で、会場入口と観戦位置のフロアが異なる場合、エレベーターの利用ピーク時は多少行列が発生することもあるが、特に問題はない。大会後にアンケートを実施し、来場者の意見を把握するように努めている。

障害のあるなしに関わらず、全ての観客が楽しめるような大会運営を行っている。

2-8 マツダスタジアム

(1) 概要

① スタジアム概要

昭和 32 年に開設された旧広島市民球場は、施設の老朽化や狭い観客席など多くの課題を解決するため、新球場が 2009 年に新設された。新設のマツダスタジアムは、グラウンドの解放感や通風、街との一体感を確保するために北側の JR 側へ大きく開いた形態となっており、球場の楽しさを新幹線など JR 車窓からも感じることができる。1 階観客席の最後部には、段差のない幅広のコンコースを配置し、球場を周回することが可能である。設計の段階から障害者団体や市民の意見の把握に努め、障害者を含め誰もが楽しめるよう配慮された球場になっている。

(2) 障害者対応

① チケット販売について

車椅子のまま観戦できる車椅子席のチケットを販売している。車椅子利用者一名につき、同行者は 2 名まで、同行者専用席で観戦できる。一般の指定席と同様に、有料入場券 1 枚につき、3 歳未満の子供 1 名まで無料で入場可能。また、車椅子利用者本人を含め 7 名まで観戦可能な「ハートフルシート」を 1 塁側・3 塁側それぞれに設置している。

② 駐車場

球場 3 塁側駐車場と球場東駐車場に、車椅子専用駐車場があり、1 日 1 台 2,100 円で利用することができる。

③ バリアフリー化されたスタジアム

車椅子席は、3 階コンコース上に常時 90 席分を設置している。最大で 300 席分の車椅子スペースを確保し、介助者も一緒に観戦を楽しむことができる。また、6 階テラスシートや 5 階パーティーフロアなどの観客席も車椅子使用者が段差なしに入ることが可能な設計となっている。移動経路としてエレベーターも整備されているため、車椅子使用者も様々なスタイルで観戦することを可能としている。

内外野の 1 階観客席の最後部に設置されたコンコースには、多機能トイレや売店も配置され、車椅子利用者は自由に周回できる。多機能トイレは球場内に 24 箇所設置されている。

また、観客席の1塁側・3塁側・外野レフト側・ライト側の4か所（約1,000席）には、床下に磁器ループアンテナを設置し、難聴者が場内放送を明瞭に聞き取ることが可能である。

④ ホスピタリティスタッフ

安心して野球観戦を楽しめるよう、3塁側優先エレベーター周辺に、常時ホスピタリティスタッフを配置し、入退場の手伝い、座席への案内、観戦中の移動の手伝い、車椅子の貸し出し、ブランケットの貸し出しなどのサービスを提供している。

【参考文献】

・MAZDA Zoom-Zoom スタジアム 広島（公式サイト）

<http://www.mazdastadium.jp/>

・第3回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について（国土交通省）

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree_tk_000008.html

4 まとめと考察

4 まとめと考察

1. 障害者・児のスポーツ実施の現状

週に1日以上スポーツ・レクリエーションの実施は、7～19歳が30.4%、成人が25.3%

障害児・者が週1日以上、何らかのスポーツ・レクリエーションを実施していたのは、7～19歳が30.4%、成人が25.3%であり、2017年度調査よりも実施率が増加している。ただし、7～19歳はスポーツ・レクリエーションを実施していない割合も増加しており、学校種別で見ると普通学校に在籍する人でその傾向が高い。

過去1年間に実施したスポーツ・レクリエーションの上位種目は、「ウォーキング」、「散歩(ぶらぶら歩き)」、「階段昇降」

過去1年間に実施したスポーツ・レクリエーションを実施した人が行った種目は、7～19歳では「ウォーキング」、「階段昇降」、「散歩(ぶらぶら歩き)」が多く、成人では「ウォーキング」、「散歩(ぶらぶら歩き)」が多かった。

スポーツ・レクリエーションを行う主な目的は、「健康の維持・増進のため」、「気分転換・ストレス解消のため」

スポーツ・レクリエーションは主に、「健康の維持・増進のため」、「気分転換・ストレス解消のため」に行われている。障害種別では、肢体不自由では「リハビリテーションの一環として」が1割強、発達障害、音声・言語・そしゃく障害では「楽しみのため」が約1割で他の障害と比べ割合が高かった。

約7割が過去1年間に直接スポーツを観戦した経験がない

過去1年間のスポーツ観戦の有無では、直接の観戦、テレビでの観戦、インターネットでの観戦の全てにおいて、「観戦した種目はない」が最も多く、直接観戦したことがない人の割合は70.7%であった。観戦しなかった理由は、「特にない」、「観戦したいと思うスポーツがない」の割合が高い。また、スポーツを直接観戦したことがある人は、観戦したことがない人よりも、スポーツ・レクリエーションを実施している割合が高かった。

■障害者のスポーツ参加を促進するために

本調査によって、スポーツ・レクリエーションを実施していない人には、スポーツそのものに関心を持っていない、無関心層の割合が高いことが明らかになった。また、全体の実施率は増加しているが、若年層の「行っていない」割合が前回調査時より微増している。無関心層・若年層のスポーツの参加を促進するための仕掛けとして、有識者委員会では次のような意見が挙げられた。

・子供の頃のスポーツ経験とスポーツの価値

子供のころに、学校体育などで楽しい経験をしていると、大人になってからのスポーツ参加に繋がりがやすい。中途障害でスポーツをやっている人は、子供の頃、あるいは学生時代からスポーツをやっていた人が多い。障害を負った場合も、スポーツの経験がプラスに作用することが多いため、障害のあるなしに関わらず、子供のころにスポーツを楽しむ経験しておくことがスポーツ参加を促進させる方法の一つである。

・当事者ネットワーク

スポーツに関心を持っていないと、スポーツに関する情報がなかなか入ってこない。特定の障害のある方のコミュニティやサークルなど当事者ネットワークに属していれば情報がたくさん入ってくるが、そうでない場合や、また中途障害の場合は情報を得ることが急に困難になり、スポーツへの距離が遠くなってしまう。家庭や学校、地域における支援がないと、スポーツに参加すること自体が難しいため、学校や地域で様々なスポーツを体験することができる機会を提供していくことが重要である。

・ロールモデル像の情報提供

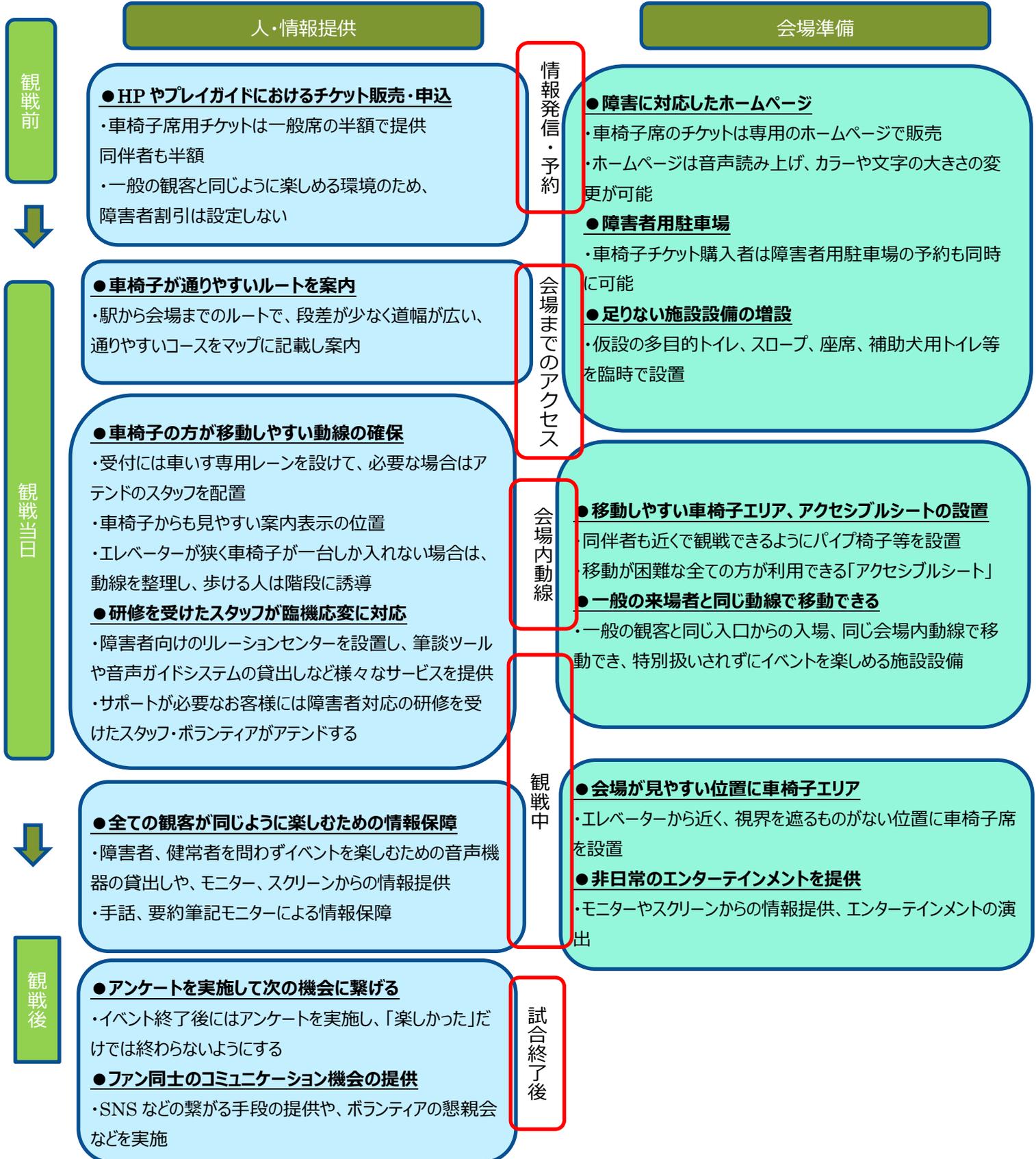
スポーツが単に運動をするものだけのものではなく、人生を豊かにすることができるということを無関心層に伝えていくために、パラリンピアンのようなロールモデルを通じて情報提供していくことが考えられる。ロールモデル像が明快になると、スポーツに興味のない人にもその意義が伝わっていく。スポーツを見る側からする側になり、支える側になることにも繋げることができる。

・ソーシャルキャピタルとしてのスポーツ

スポーツをする人口が増えることは健康社会の実現というテーマにも繋がる。スポーツに参加したり継続することができる要因として、コミュニティに参加しているかどうかということが大きい。スポーツをソーシャルキャピタルにしていく役割は、個人ではなく社会に課せられたもので、スポーツに参加する人としていない人のギャップを埋めるために、また、健常者も障害者も、スポーツに参加することで社会に関わることができ、理想的な体験を共有することを可能にするために、どのように介入してくかが今後の課題となる。

2. 障害者のスポーツ観戦について

事例調査結果を踏まえ、障害者が観戦しやすい会場づくりに関して、人・情報提供に関するものと、会場準備に関するもので分類し、観戦前から観戦後までのプロセス別に整理した。



以上の整理を踏まえ、障害者が観戦しやすい環境づくりのための、運営及び施設における対応方法として以下が挙げられる。

(1) チケット販売の工夫

ホームページは視覚障害者や聴覚障害者も問題なくチケットが購入できるように、読み上げやカラー・文字の大きさの変更等に対応などをする。

野球・サッカーなどでは、車椅子利用者チケットについても販売している。専用のページを設けて、そこで案内をしている。チケットを購入する際は、「内野車椅子利用者1名・介助者1名」のように介助者分とあわせてチケット購入ができるようにしている。

(2) 駐車場利用は事前の問い合わせに対応

駐車場は車椅子用チケットを購入した際に、同時に予約できるようにしている。車椅子や荷物を出すのに不自由がないよう、十分なスペースを確保しておく。

(3) 車椅子利用者のための動線確保

駅などから会場までのアクセスとして、段差がある道なども多いので、出来るだけ車椅子が通りやすいルートをスタッフが案内する。

エレベーターが狭い場合には、車椅子が一台しか通れないので、動線を整理して、歩ける人を階段の動線に回す。

(4) 案内表示の工夫、電光掲示板等の活用

車いす利用者は目線が低いので、案内表示の前に人が立っても見えづらくなならないように注意を払う。

観戦中には、視覚障害者や聴覚障害者のための情報保障のため、電光掲示板や要約筆記モニター、手話での情報提供や、FM ラジオを利用した音声での解説などを提供する。

(5) 仮設席、仮設トイレ等の活用

多目的トイレが少ない場合は、障害者用トイレ、補助犬用トイレも仮設で設置することもある。

多目的トイレについては一般の方が利用しないように、という声掛けは行っている。

(6) ハード面をカバーするためのスタッフの対応（そのためのスタッフ教育）

施設のハード面は簡単に変更できないので、可能な限り運営側のスタッフが対応する。支援が必要な障害者が来場した場合、必要に応じてスタッフがアテンドしてサポートを行う。

スポーツイベントではボランティアを配置することも多いが、障害者対応を学ぶためのセミナーを事前に研修として受講させるケースもある。また、専門知識を持つスタッフが常駐する障害者対応窓口を設置し、様々な障害に対応できるようにしている。

■スポーツ施設を新設する際の課題

事例調査の結果から、既存の施設で障害者向けの設備が不足している場合には、スタッフの配置、仮設備の設置など、運営側で様々な工夫をして対応していることが分かった。ただし、スポーツ施設的设计段階から、バリアフリーの視点を取り入れている事例の場合、障害者にとって、より観戦がしやすい環境であると言える。

例えば、以下のような工夫点が有識者会議では挙げられた。

- ・車椅子席のチケットを購入すると同伴者 1 名は無料としているケースが多いが、数人のグループで応援しながら観戦したい場合などは、一般席と車椅子席で離れて座らなくてはならないため、グループで観戦可能な車椅子席を多くの施設で取り入れていくことも課題として挙げられる。
- ・緊急避難時に、障害者はどのルートで避難するべきか、IoT でリアルタイムの情報を提供できるようにするべき。
- ・競技場はスポーツを観戦する場所・実施する場所としてだけでなく、緊急時の避難所や、地域社会の交流の場として、どのような形で活用していくかを設計段階から考えていく。

以上の点から、障害者も健常者と同じように、不自由なくスポーツを楽しむ機会を得るために、運営側による対応・工夫に加えて、スポーツ施設を新設する場合は、設計する段階からバリアフリーの視点をしっかりと取り入れていくことが重要である。

5 参考

5 参考

1. 障害当事者・介助者へのヒアリング調査

過去1年以内に複数回のスポーツ観戦経験のある、障害当事者（3名）、障害のあるお子さんを持つ保護者（2名）、障害者福祉施設の介護職員（1名）にヒアリングを行った。

1-1 ヒアリング対象：保護者

- ・保護者（女性）…障害当事者（20代、女性）知的障害、自閉症
- ・保護者（女性）…障害当事者（20代・男性）軽度知的障害、自閉症
（20代・男性）重度知的障害、自閉症

●チケットについて

- ・多くの会場は障害者席というと車椅子席となっており、車椅子スペースのみで座席がないため一般席での観戦になる。
- ・チケット購入は保護者が行っているため、特に困ることはない。

●会場内動線

- ・入場の際に、会場の外に並ぶ時間が長く、飽きさせないようにするのが大変。
- ・障害者だからと言って特別扱いは期待していない。一般チケットを購入するので、一般客と同じように並んでいる。

●会場内設備

- ・競技中に席を立つことも多いので、出入りに近い席をいくつか「思いやりゾーン」のようなかたちで確保してもらいたい。そのようなエリアがあれば、高齢者など移動が困難な方も利用できると思う。
- ・荷物が多いが、多くの会場では座席の間隔が狭く、置く場所がない。
- ・古い会場はトイレの数が少なく、行列が出来ることが多い。
- ・多目的トイレは小さなお子さんが利用していることが多いので、一般のトイレを利用している。子供を一人にできないので、個室が広い場合は一緒に入るが、個室が狭いと一緒に入れられないため、二つ同時に空きがない場合は、子供が終わるまで待ち、自分の番はまた列に並び直すこともある。
- ・子供を男子トイレに行かせて、終わったら出口で待つように伝えているが、迷子にならないかいつも心配している。
- ・初めて行く会場の場合、トイレの場所は最初に確認している。トイレで困っている障害者の親は多いと思われる。
- ・ワールドカップラグビーの観戦に行ったときには、ボディチェックを受けるために会場の外に長時間並んだが、並んでいる観客を楽ませるためのボランティアが多く配置されていた。一緒に写真を撮ったり、飽きさせないための様々な工夫がされており、また会場内にもスタッフがたくさんいて、目の不自由な方や車椅子の方にも積極的に声掛けが行われており、他のイベントとは違うと感じた。

●観戦中

- ・トイレや売店で行列が出来ていると並ぶのが大変。
- ・コンサートは静かにしていなくてもはいけないが、スポーツは騒いでも問題ないので、安心して観戦できる。
- ・小さい子供の泣き声を聞くとパニックになってしまうので、席が離れていたほうが良いが、チケット購入の際にはわからないので、当日、保護者が間に座るなどして対応している。
- ・大きな音が苦手なタイプの障害者の方の場合、保護者がスポーツ観戦そのものに連れていくことを躊躇することが多いようだ。
- ・野球の場合は、バッターが出てくたびに音楽が流れたり、スクリーンにもいろいろな映像が映し出されるので、飽きずに観戦できる。
- ・水泳を習っているので水泳の大会もよく観戦に行くが、スクリーンで選手紹介がされたり、応援団が来ていたり、会場が上手に作られていると感じる。
- ・最近では、どのスポーツでも飽きさせないための工夫がされていることが多い。スポーツのルールを理解できなくても、会場の雰囲気を楽しむことができる。誰にでも楽しめるイベントになっていると、参加しやすい。

●スタッフ

- ・案内や手伝いをしてくれるスタッフの数がもう少し多く配置されて、「大丈夫ですか」と声をかけながら歩いてくれると助かる。さらに見た目ですぐに専門スタッフだとわかるようにしてほしい。
- ・障害者に理解のあるスタッフが配置されて、「大丈夫ですか」と声をかけながら会場内を歩いてくれていると助けを求めやすい。
- ・障害者対応の可能なスタッフが常駐しているサービス窓口等があるとありがたい。保護者がトイレに行っている間に、子供を見てくれるスタッフなど。
- ・専門のスタッフが配置されるのなら、チケット代がもっと高くなっても構わない。
- ・ボランティアももう少し待遇を良くして、障害者に対応できる人材を育成してほしい。

●その他

- ・子供とマラソンに参加しているが、「ゴールしたら、いちご食べ放題」など、イベント性の高いスポーツ大会も増えており、親子で楽しめる。
- ・障害のある子も親子で参加できて、運動にも繋がるようなイベントが増えてほしい。パラスポーツだと、一般の障害者にはハードルが高すぎる。
- ・スポーツイベントに参加する場合、小さな体育館でのイベントよりも、大きな会場や屋外でのイベントのほうが、思い切り身体を動かすことができ、本人も楽しそうだ。

1-2 ヒアリング対象：障害当事者

- ・障害当事者(50歳代、女性)肢体不自由(車椅子必要)
- ・障害当事者(50歳代、男性)肢体不自由(車椅子必要)
- ・障害当事者(30歳代、男性)肢体不自由(車椅子不要)

●よく観戦するスポーツの種類

- ・プロ野球
- ・プロレス
- ・大相撲

●チケット購入について

- ・チケットはいつも顔なじみの店長がいるコンビニで購入している。購入を手伝ってくれるため、不自由したことはない。
- ・チケットは両親に購入してもらっている。
- ・車椅子は利用していないので、一般席のチケットを友人に取ってもらっている。

●会場までのアクセス

- ・電車を利用している。
- ・両親と一緒に電車を利用しているが、両親が高齢になり、なかなか移動が困難になってきている。
- ・友人と一緒に車で移動するが、自分も友人も麻痺があるので、移動は大変。

●会場内動線

- ・車椅子席チケットの場合、一般とは別に、関係者用入口から入場する会場もある。エレベーターが車椅子席から遠く、混雑しているので移動が大変なこともある。
- ・エレベーターの数を増やして、座席までの距離が近くなると助かる。

●会場内設備

- ・車いす席の場所がかなり後方にあり、グラウンドから距離がある。そのため、選手の顔などは見えず、モニター画面を眺めることになり、あまりライブ感が感じられなかった。
- ・売店が車椅子利用者には狭く感じた。また、混雑しているときは移動も大変だった。
- ・車椅子対応のトイレの数が少なく、混雑時は一般の人や子供が利用していて、すぐに入れないこともある。
- ・車椅子席が後方にあり、また、電光掲示板も見にくかった。実況・解説もないので、試合の様子がよくわからない。
- ・麻痺があるため、混雑時は座席からトイレまでの移動が困難。
- ・車椅子を利用していないので、混雑時はエレベーターではなく階段を利用するが、転ぶ危険性が高い。
- ・言語障害があり、言葉が伝わりにくいので売店での買い物は同行者に頼んでいる。嚙下が困難になってきたので、売店では柔らかい食べ物を選んで購入している。
- ・車椅子を利用していないので一般席に座るが、筋緊張があり、手が隣の人にぶつかったりしないか心配になる。座席と座席の間がもっと広い方が良い。

●その他

- ・最近障害者の方のスポーツ観戦が増えていると感じる(会場内で見かける頻度が増えた。)
- ・日常生活で不便な状態を我慢することに慣れてしまっているので、どこが不便なのか、改めて考えたときになかなか出てこない。

1-3 ヒアリング対象：介護職員

・障害者福祉施設勤務・介護職員

●チケット購入について

・介助者用席のチケットは、会場にもよるが、車いす席が一般の半額、介助者の席も一般の半額、ということが多い。
・車いす席の隣に介助者が座れることもあれば、一般席にしか座れないこともある。対応が必要な障害者もいるため、席が離れていると困る。その場合は、車いす席の間のスペースで観戦することもある。

●会場内動線

・スロープが設置されていても、ぐるぐると回って、かなり長い距離を進まなくてはならなかったり、通路も、車いす利用者と介助者が一緒に通るには狭いところも多い。
・車いすそのものが大型化してきているため、普通のエレベーターを利用できない。大きい車いすが入れるサイズのエレベーターを増加してほしい。
・観戦後、混雑している中、会場を出るのが大変。障害者が優先的に出られることは少なく、夜遅い時間だと、家・施設に帰るまでに疲弊してしまう。障害者は帰ってから寝るまでにやるべきことも多く、出かけるのが億劫になってしまう。

●会場内設備

・ソフト面ではスタッフの対応など、年々良くなってきていると感じるが、ハード面はまだまだ課題が多い。障害者は車いすに加え、必要な荷物が多いが、その荷物を持ち込めなかったり、置いておくスペースがないこともある。
・中途障害の方だと、杖の利用者が多いが、座席に杖をおくスペースがない。
・売店で、障害者や高齢者が食べやすいもの、嚥下障害に対応した食品も販売してもらえるとありがたい。食事を持参して観戦するのもなかなか大変。
・障害者用の駐車場や、多目的トイレを一般の方が利用していて、障害者の方がすぐに利用できないということがよくある。障害者が優先的に利用できるように、もっと一般向けの案内などを積極的に行ってほしい。休憩中にトイレや売店に行くのも時間がかかり、観戦時間が短くなってしまふ。

2. 障害児・者のスポーツライフに関する調査

日常に関する調査

設定項目表示

日常に関する調査

アンケートにご協力いただき誠にありがとうございます。

回答時間の目安：おおよそ 15分
(ご回答の内容により変動します)

お答えいただいた内容は統計的に処理し、回答者個人が特定されるような情報について公表することはありません。

はじめにお読みください。

- アンケートの回答には、ブラウザのJavaScriptの設定を有効にする必要があります。
- 推奨環境(OS・ブラウザ)
 - Windows 7以降
 - Internet Explorer 11以降
 - Firefox 最新
 - Google Chrome 最新
 - Macintosh OS X以降
 - Safari 最新

※ 上記以外の(OS・ブラウザ)では、正常に動作しない場合がございます。あらかじめご了承ください。

下記のみどりのラインの中に「開始」ボタンが表示されない場合は、JavaScriptがOFFになっているか、推奨環境ブラウザではありません。
お手数ですが、[参考ページ](#)をご覧ください。
JavaScriptを設定後/ブラウザタイプ確認後に、ページの更新(F5キー)をお願い致します。

開始

日常に関する調査

本アンケートではご回答者様本人とご家族に關しまして
デリケートな設問がありますが、ぜひご協力をお願いいたします。
お答えいただいた内容は、統計的に処理をいたしますのでご安心ください。

次 < >>

日常に関する調査

★印の付いた質問は必須回答項目となっていますので、必ずお答えください。

★ S0-1.
あなたの性別をお答えください。(1つ選択)

- 男性
 女性

★ S0-2.
あなたの年齢をお答えください。(数値記入)
※半角数字でご記入ください。

歳

次 < >>

日常に関する調査

設定項目表示

★S1.
あなたの居住地域をお知らせください。郵便番号をご入力ください。
※郵便番号を入力し、検索をかけると自動で住所が入力されます。

★都道府県(1つ選択)
▼選択して下さい▼

★郵便番号(半角数字/ハイフン区切り)
例) 150-0002 郵便番号から住所入力

★市区町村
例) 渋谷区渋谷
※郵便番号をお忘れの場合、**市区町村名まで**ご記入ください。

次 へ >>

日常に関する調査

★S2.
あなた、あるいはあなたが同居するご家族で障害のある方はいますか。(複数選択可)

- あなたご自身
- 配偶者
- 父親
- 母親
- 兄弟
- 姉妹
- お子様(第1子)
- お子様(第2子)
- お子様(第3子)
- お子様(第4子以降)
- 上記の中で障害のある方はいない

次 へ >>

日常に関する調査

以下の項目は、障害のある方それぞれについて、お答えください。
兄弟、姉妹、第4子以降で障害のあるお子様が複数いる場合は、
年齢が一番上の方についてのみお答えください。

★S3.
ご家族で障害のある方の年齢と誕生日をお答えください。(それぞれ数値記入)
※半角数字でご記入ください。

ヨコに回答→	年齢		誕生日	
	歳	月	月	日
あなたご自身	***			
配偶者				
父親				
母親				
兄弟				
姉妹				
お子様(第1子)				
お子様(第2子)				
お子様(第3子)				
お子様(第4子以降)				

次 へ >>

日常に関する調査

設定項目表示

★Q1.
ご家族で障害のある方の性別をお答えください。(それぞれ1つずつ選択)

ヨコに回答→	男性	女性
お子様(第1子)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
お子様(第2子)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
お子様(第3子)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
お子様(第4子以降)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次 < >>

日常に関する調査

★Q2.
ご家族で障害のある方の障害の種類をお答えください。(それぞれ複数選択可)

ヨコに回答→	車椅子を必要とする(※) (日常生活で 肢体不自由 車椅子を必要としない)	肢体不自由 (日常生活で 車椅子を必要とする)	視覚障害	聴覚障害	音声・言語・ 機能障害 そしゃく	内部障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他
あなたご自身	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
配偶者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
父親	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
母親	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
兄弟	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
姉妹	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お子様(第1子)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お子様(第2子)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お子様(第3子)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お子様(第4子以降)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

次 < >>

日常に関する調査

予備調査のご協力ありがとうございます。
これより**本調査**に移ります。
今回の調査は、「障害児・者のスポーツライフに関する調査」になります。
引き続きご協力お願い致します。

次 < >>

日常に関する調査

設定項目表示

障害のある ***** TSC Q10250 ***** についてお伺いします。

★Q3- ***** ANS Q10260 ***** .
 障害のある ***** TSC Q10250 ***** は、次の障害福祉サービスを利用していますか。(複数選択可)

- 通所型
- 入所型
- 訪問型
- その他
- 上記のサービスは利用していない

次 < >>

日常に関する調査

★Q4- ***** ANS Q10260 ***** .
 障害のある ***** TSC Q10250 ***** は、移動の支援に関する福祉サービスを利用していますか。(1つ選択)
※障害者の交通に関する助成は除きます(鉄道・バス等の運賃割引、有料道路、タクシー利用券の給付など)。

- 利用している
- 利用していない

次 < >>

日常に関する調査

★Q5- ***** ANS Q10260 ***** .
 障害のある ***** TSC Q10250 ***** は、障害者手帳をお持ちですか。(複数選択可)

タテに回答!	*** TSC Q10250 ***
身体障害者手帳 1級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 2級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 3級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 4級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 5級	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳 6級	<input type="checkbox"/>
療育手帳(みどりの手帳・愛の手帳・愛護手帳) マルA(最重度・重度)	<input type="checkbox"/>
療育手帳(みどりの手帳・愛の手帳・愛護手帳) B・C(中度・軽度)	<input type="checkbox"/>
療育手帳(みどりの手帳・愛の手帳・愛護手帳) その他	<input type="checkbox"/>
精神障害者保健福祉手帳 1級	<input type="checkbox"/>
精神障害者保健福祉手帳 2級	<input type="checkbox"/>
精神障害者保健福祉手帳 3級	<input type="checkbox"/>
障害者手帳は持っていない	<input type="checkbox"/>

次 < >>

日常に関する調査

★Q6- ***** ANS Q10260 ***** .
 障害のある ***** TSC Q10250 ***** は、何歳から障害がありますか。
 複数の障害がある方は、最初に障害が発生した年齢をお答えください。(1つ選択)

▼▼▼選択して下さい▼▼▼

次 < >>

★Q7- *** ANS Q10260 *** .

障害のある *** TSC Q10250 *** が所属する(最後に所属していた)学校の種別についてお答えください。(1つ選択)

- 普通学校(通常学級のみ)に在籍
- 普通学校(通級による指導あり)
- 普通学校(特別支援学級に在籍)
- 特別支援学校(養護学校・盲学校・ろう学校)

次 < >>

★Q8- *** ANS Q10260 *** .

障害のある *** TSC Q10250 *** は、過去1年の間にどのようなスポーツ・レクリエーションを行いましたか。(複数選択可)
※学校の部活動や休み時間の活動は含めますが、学校の授業や学校行事のキャンプやマラソン大会などは含めません。
※eスポーツは含めません。

【歩く・走る・泳ぐ】※車いす利用を含む

- ウォーキング
- 階段昇降
- 散歩(ぶらぶら歩き)
- ジョギング/ランニング
- マラソン・駅伝などのロードレース
- 陸上競技
- アクアエクササイズ
- 水泳
- 水中歩行

【球技やチームスポーツなど】

- キャッチボール
- ソフトボール
- 野球
- グラウンド・ゴルフ/パークゴルフ/マレットゴルフ等
- ゴルフ(コース)
- ゴルフ(練習場)
- ゲートボール
- ボウリング
- サッカー
- フットサル
- フットベースボール(キックベース)
- ソフトテニス(軟式テニス)
- テニス(硬式テニス)
- 卓球(ラージボール含む)
- ドッジボール
- ハンドボール
- バasketボール
- バドミントン
- バレーボール/ビーチバレー
- ソフトバレーボール
- ラグビー/アメリカンフットボール/タグラグビー
- グラウンドホッケー/ラクロス

【障害者スポーツ】

- ソフトボール/グラウンドソフトボール
- テニス(車いすテニス/フラインドテニス 等)
- Basketballボール/車いすBasketballボール
- フェンシング/車いすフェンシング
- ゴールボール
- バレーボール

【ロープを使うスポーツ】

- つな引き
- なわとび

【体操・ダンス・トレーニング】

- エアロビクダンス
- 体操(軽い体操/ラジオ体操など)
- ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)
- チアリーディング/バントフリング
- ヨーガ/ピラティス
- バレエ
- 筋力トレーニング(マシントレーニング)
- 筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)
- トランポリン

【武道・格闘技など】

- 空手/少林寺拳法
- 柔道
- 太極拳
- レスリング/相撲/ボクシング
- テコンドー/合気道
- 剣道/居合道/なぎなた/銃剣道

【海・マリンスポーツ】

- 海水浴
- スクーバダイビング
- ボート/漕艇/カヌー/カヤック/ラフティング
- ヨット/水上スキー/ウェイクボード/水上バイク/ジェットスキー
- サーフィン/ボディボード/ボードセーリング/ウィンドサーフィン

【野外・アウトドアスポーツ】

- キャンプ/オートキャンプ
- 自転車(BMX含む)/サイクリング
- ローラースケート/インラインスケート/一輪車
- 乗馬
- 釣り
- 登山/トレッキング/トレイルランニング/ロッククライミング
- フリークライミング/ボルダリング
- ハイキング/ワンダーフォーゲル/オリエンテーリング
- グライダー/ハンググライダー/パラグライダー/スカイダイビング

【ウィンタースポーツ】

- アイススケート/アイスホッケー/カーリング
- スキー
- スノーボード

設定項目表示

- (シッティングバレーボール/フロアバレーボール 等)
- クロスカントリースキー/スノーシュー
- 卓球バレー
- 【その他のスポーツ等】
- 卓球/サウンドテーブルテニス
- アーチェリー/弓道/射撃/クレー射撃
- ティーボール
- その他のスポーツ
- サッカー (フライングディスク/インディアカ/ (アーチェリー/ライティングディスク/インディアカ/ スポーツチェンバラ/ユニカール/アルティメット/キンボール/ シャッフルボード/ベタンク、ダーツ/スポーツ吹き矢 等)
- その他のレクリエーション等
- ふうせんバレー
- 【その他の運動】
- ボッチャ
- 身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏 等
- 陸上競技 (視覚障害者音源走/スロラーム/ジャベリックスロー/ ビーンバッグ投 等)
- 身体活動を伴うリハビリテーション
- 水泳
- ゆるスポーツ
- フットベースボール
- その他
- その他の障害者スポーツ (アーチェリー/フライングディスク/ボウリング/ バドミントン/乗馬 等)
- この1年間にスポーツ・レクリエーションは行わなかった

次 < >>

日常に関する調査

★ Q9- *** ANS Q10260 *** .
 Q8でお答えになったスポーツ・レクリエーション種目について、以下の項目にお答えください。
 複数の種目をお答えになった方は、実施回数の多いものを5つまで選んでお答えください。

※ 頻度は、「年」を選んだ場合「1～365」回、「月」を選んだ場合「1～31」回、「週」を選んだ場合「1～7」回の範囲でお答えください。

ヨコへ回答→	頻度	
ウォーキング	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
階段昇降	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
散歩(ぶらぶら歩き)	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ジョギング/ランニング	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
マラソン・駅伝などのロードレース	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
陸上競技	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
アクアエクササイズ	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
水泳	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
水中歩行	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
キャッチボール	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ヨコへ回答→	頻度	
ソフトボール	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
野球	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
グラウンド・ゴルフ/パークゴルフ/マレットゴルフ等	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ゴルフ(コース)	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ゴルフ(練習場)	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ゲートボール	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ボウリング	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
サッカー	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
フットサル	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
フットベースボール(キックベース)	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ヨコへ回答→	頻度	
ソフトテニス(軟式テニス)	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
テニス(硬式テニス)	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
卓球(ラージボール含む)	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ドッジボール	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ハンドボール	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
バスケットボール	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
バドミントン	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
バレーボール/ビーチバレー	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ソフトバレーボール	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ラグビー/アメリカンフットボール/タグラグビー	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ヨコへ回答→	頻度	
グラウンドホッケー/ラクロス	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
ソフトボール/グラウンドソフトボール	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
テニス(車いすテニス/ブライランドテニス 等)	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
バスケットボール/車いすバスケットボール	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回
フェンシング/車いすフェンシング	▼▼▼▼	<input type="checkbox"/> 回

設定項目表示

ゴールボール	▼▼▼▼	回
バレーボール (シットイングバレーボール/フロアバレーボール 等)	▼▼▼▼	回
卓球バレー	▼▼▼▼	回
卓球/サウンドテーブルテニス	▼▼▼▼	回
ティールボール	▼▼▼▼	回
ヨコへ回答→	頻度	
サッカー (ブラインドサッカー/ハンドサッカー/CPサッカー/ アンティサッカー/ロービジョンフットサル 等)	▼▼▼▼	回
ふうせんバレー	▼▼▼▼	回
ボッチャ	▼▼▼▼	回
陸上競技 (視覚障害者音源走/スロラーム/ジャベリックスロー/ ビーンバック投 等)	▼▼▼▼	回
【障害者スポーツ】水泳	▼▼▼▼	回
フットベースボール	▼▼▼▼	回
その他の障害者スポーツ (アーチェリー/フライングディスク/ボウリング/ パドミントン/乗馬 等)	▼▼▼▼	回
つな引き	▼▼▼▼	回
なわとび	▼▼▼▼	回
エアロビックダンス	▼▼▼▼	回
ヨコへ回答→	頻度	
体操(軽い体操/ラジオ体操など)	▼▼▼▼	回
ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)	▼▼▼▼	回
チャアリーディング/バントワリング	▼▼▼▼	回
ヨーガ/ピラティス	▼▼▼▼	回
バレエ	▼▼▼▼	回
筋力トレーニング(マシントレーニング)	▼▼▼▼	回
筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)	▼▼▼▼	回
トランポリン	▼▼▼▼	回
空手/少林寺拳法	▼▼▼▼	回
柔道	▼▼▼▼	回
ヨコへ回答→	頻度	
太極拳	▼▼▼▼	回
レスリング/相撲/ボクシング	▼▼▼▼	回
テコンドー/合気道	▼▼▼▼	回
剣道/居合道/なぎなた/銃剣道	▼▼▼▼	回
海水浴	▼▼▼▼	回
スクーバダイビング	▼▼▼▼	回
ボート/漕艇/カヌー/カヤック/ラフティング	▼▼▼▼	回
ヨット/水上スキー/ウエイクボード/水上バイク/ジェットスキ ー	▼▼▼▼	回
サーフィン/ボディボード/ボードセーリング/ウィンドサーフ ィン	▼▼▼▼	回
キャンプ/オートキャンプ	▼▼▼▼	回
ヨコへ回答→	頻度	
自転車(BMX含む)/サイクリング	▼▼▼▼	回
ローラスケート/インラインスケート/輪車	▼▼▼▼	回
乗馬	▼▼▼▼	回
釣り	▼▼▼▼	回
登山/トレッキング/トレイルランニング/ロッククライミング	▼▼▼▼	回
フリークライミング/ボルダリング	▼▼▼▼	回
ハイキング/ワンダーフォーゲル/オリエンテーリング	▼▼▼▼	回
グライダー/ハンググライダー/ パラグライダー/スカイダイビング	▼▼▼▼	回
アイススケート/アイスホッケー/カーリング	▼▼▼▼	回
スキー	▼▼▼▼	回
ヨコへ回答→	頻度	
スノーボード	▼▼▼▼	回
クロスカントリースキー/スノーシュー	▼▼▼▼	回
アーチェリー/弓道/射撃/クレー射撃	▼▼▼▼	回
その他のスポーツ (ティールボール/フライングディスク/インディアカ/ スポーツチャンバラ/ユニカール/アルティメット/キンボール /シャフルボード/ベタンク、ダーツ/スポーツ吹き矢 等)	▼▼▼▼	回
その他のレクリエーション等	▼▼▼▼	回
身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏 等	▼▼▼▼	回
身体活動を伴うリハビリテーション	▼▼▼▼	回
ゆるスポーツ	▼▼▼▼	回
その他(*** ANS Q10781 ***)	▼▼▼▼	回

次 < >>

日常に関する調査

★Q10- *** ANS Q10260 *** .
障害のある *** TSC Q10250 *** がスポーツ・レクリエーションを行った日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか。(1つ選択)

- 週に3日以上(年151日以上)
 週に1～2日(年51日～150日)
 月に1～3日(年12日～50日)
 3か月に1～2日(年4日～11日)
 年に1～3日
 分からない

★Q11- *** ANS Q10260 *** .
障害のある *** TSC Q10250 *** がスポーツ・レクリエーションを行う目的はどのようなものですか。

タテに回答↓	主な目的 (複数選択可)	最も重視する目的 (1つ選択)
健康の維持・増進のため	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
気分転換・ストレス解消のため	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
楽しみのため	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
友人や家族との交流のため	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
健常者との交流のため	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
体型維持・改善のため	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
リハビリテーションの一環として	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
目標や記録への挑戦のため	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>

★Q12- *** ANS Q10260 *** .
障害のある *** TSC Q10250 *** がスポーツ・レクリエーションをやったよかったことはどのようなものですか。(複数選択可)

- 友人が増えた
 行動範囲が拡大した
 周囲の理解が向上した
 外出が増えた
 相手の気持ちが配慮できるようになった
 ストレスが解消される
 自信がついた
 性格が明るくなった
 体を動かすこと自体が楽しい
 食事がおいしく、夜、熟睡できるようになった
 体力・身体的機能が向上した
 勝利や記録が出た時に嬉しい
 その他

次へ >>

日常に関する調査

★Q13- *** ANS Q10260 *** .
障害のある *** TSC Q10250 *** はスポーツ・レクリエーションをどこで行っていますか。(複数選択可)

タテに回答↓	利用している施設
公共スポーツ施設	<input type="checkbox"/>
民間スポーツ施設	<input type="checkbox"/>
公立小中学校	<input type="checkbox"/>
障害者スポーツ専用・優先施設	<input type="checkbox"/>
福祉施設・高齢者施設	<input type="checkbox"/>
特別支援学校	<input type="checkbox"/>
その他の施設・場所	<input type="checkbox"/>

次へ >>

日常に関する調査

設定項目表示

★Q14- *** ANS Q10260 *** .
 障害のある *** TSC Q10250 *** は、スポーツ施設まで、どのように移動しましたか。(それぞれ複数選択可)

ヨコへ回答→	公共の交通手段で移動した (自力で)	自家用車で移動した (自力で)	家族・友人等に送迎してもらった	移動に関する支援を利用した	その他
公共スポーツ施設	<input type="checkbox"/>				
民間スポーツ施設	<input type="checkbox"/>				
公立小中学校	<input type="checkbox"/>				
障害者スポーツ専用・優先施設	<input type="checkbox"/>				
福祉施設・高齢者施設	<input type="checkbox"/>				
特別支援学校	<input type="checkbox"/>				
その他の施設・場所(*** ANS Q11220 ***)	<input type="checkbox"/>				

次へ >>

日常に関する調査

★Q15- *** ANS Q10260 *** .
 障害のある *** TSC Q10250 *** が下記の施設でスポーツ・レクリエーションを行った日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか。(それぞれ1つずつ選択)

ヨコへ回答→	週に3日以上 (年151日以上)	週に1~2日 (年51日~150日)	月に1~3日 (年12日~50日)	3か月に1~2日 (年4日~11日)	年に1~3日	分らない
公共スポーツ施設	<input type="checkbox"/>					
民間スポーツ施設	<input type="checkbox"/>					
公立小中学校	<input type="checkbox"/>					
障害者スポーツ専用・優先施設	<input type="checkbox"/>					
福祉施設・高齢者施設	<input type="checkbox"/>					
特別支援学校	<input type="checkbox"/>					
その他の施設・場所(*** ANS Q11220 ***)	<input type="checkbox"/>					

次へ >>

日常に関する調査

設定項目表示

★Q16- *** ANS Q10260 *** .
障害のある *** TSC Q10250 *** の、現在のスポーツ・レクリエーションへの取り組みについて、
最も近いものを選んでください。(1つ選択)

- スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している
- スポーツ・レクリエーションを行っているが、もっと行いたい
- スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない
- 特にスポーツ・レクリエーションに関心はない

★Q17- *** ANS Q10260 *** .
障害のある *** TSC Q10250 *** の、スポーツ・レクリエーションの実施において障壁となっているものは何ですか。(複数選択可)
※スポーツ・レクリエーションを実施している場合はその課題、実施していない場合はその理由としてあてはまるものをお答えください。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 交通手段・移動手段がない | <input type="checkbox"/> 体力がない |
| <input type="checkbox"/> スポーツ・レクリエーションをできる場所がない | <input type="checkbox"/> 医者に止められている |
| <input type="checkbox"/> 施設がバリアフリーでない | <input type="checkbox"/> 障害に適したスポーツ・レクリエーションがない |
| <input type="checkbox"/> スポーツ・レクリエーションがどこでできるのか情報が得られない | <input type="checkbox"/> やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない |
| <input type="checkbox"/> どんなスポーツ・レクリエーションをできるのか情報が得られない | <input type="checkbox"/> スポーツ・レクリエーションが苦手である |
| <input type="checkbox"/> 指導者がいない | <input type="checkbox"/> スポーツ・レクリエーションでケガをするのではないかと心配である |
| <input type="checkbox"/> 介助者がいない | <input type="checkbox"/> 人の目が気になる |
| <input type="checkbox"/> 仲間がいない | <input type="checkbox"/> 一緒にスポーツ・レクリエーションをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である |
| <input type="checkbox"/> 家族の負担が大き | <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/> |
| <input type="checkbox"/> 金銭的な余裕がない | <input type="checkbox"/> 特にな |
| <input type="checkbox"/> 時間がない | |

次 < >>

日常に関する調査

★Q18- *** ANS Q10260 *** .
障害のある *** TSC Q10250 *** は、現在行っているスポーツ・レクリエーションも含めて、
今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーションがありますか。(複数選択可)

【歩く・走る・泳ぐ】※車いす利用を含む

- ウォーキング
- 階段昇降
- 散歩(ぶらぶら歩き)
- ジョギング/ランニング
- マラソン・駅伝などのロードレース
- 陸上競技
- アクアエクササイズ
- 水泳
- 水中歩行

【球技やチームスポーツなど】

- キャッチボール
- ソフトボール
- 野球
- グラウンド・ゴルフ/パークゴルフ/マレットゴルフ等
- ゴルフ(コース)
- ゴルフ(練習場)
- ゲートボール
- ボウリング
- サッカー
- フットサル
- フットベースボール(キックベース)
- ソフトテニス(軟式テニス)
- テニス(硬式テニス)
- 卓球(ラージボール含む)
- ドッジボール
- ハンドボール

【ロープを使うスポーツ】

- つな引き
- なわとび

【体操・ダンス・トレーニング】

- エアロビクダダンス
- 体操(軽い体操/ラジオ体操など)
- ダンス(社交ダンス/フォークダンス/フラダンスなど)
- チアリーディング/バントフリング
- ヨーガ/ピラティス
- バレエ
- 筋力トレーニング(マシントレーニング)
- 筋力トレーニング(ダンベル/自重のトレーニング)
- トランポリン

【武道・格闘技など】

- 空手/少林寺拳法
- 柔道
- 太極拳
- レスリング/相撲/ボクシング
- テコンドー/合気道
- 剣道/居合道/なぎなた/銃剣道

【海・マリンスポーツ】

- 海水浴
- スクーバダイビング
- ボート/漕艇/カヌー/カヤック/ラフティング
- ヨット/水上スキー/ウェイクボード/水上バイク/ジェットスキー
- サーフィン/ボディボード/ボードセーリング/ウィンドサーフィン

【野外・アウトドアスポーツ】

設定項目表示

- バスケットボール
- バドミントン
- バレーボール/ビーチバレー
- ソフトバレーボール
- ラグビー/アメリカンフットボール/タグラグビー
- グラウンドホッケー/ラクロス
- 【障害者スポーツ】
- ソフトボール/グラウンドソフトボール
- テニス(車いすテニス/フラインドテニス 等)
- バスケットボール/車いすバスケットボール
- フェンシング/車いすフェンシング
- ゴールボール
- バレーボール
(シッティングバレーボール/フロアバレーボール 等)
- 卓球/バレー
- 卓球/サウンドテーブルテニス
- ティーボール
- サッカー
(フラインドサッカー/ハンドサッカー/CPサッカー/
アンブティサッカー/ロービジョンフットサル 等)
- ふうせんバレー
- ボッチャ
- 陸上競技
(視覚障害者音源走/スロラーム/ジャベリックスロー/
ビーンバッグ投 等)
- 水泳
- フットベースボール
- その他の障害者スポーツ
(アーチェリー/フライングディスク/ボウリング/
バドミントン/乗馬 等)
- キャンプ/オートキャンプ
- 自転車(BMX含む)/サイクリング
- ローラースケート/インラインスケート/一輪車
- 乗馬
- 釣り
- 登山/トレッキング/トレイルランニング/ロッククライミング
- フリークライミング/ボルダリング
- ハイキング/ワンダーフォーゲル/オリエンテーリング
- グライダー/ハンググライダー/
パラグライダー/スカイダイビング
- 【ウィンタースポーツ】
- アイススケート/アイスホッケー/カーリング
- スキー
- スノーボード
- クロスカンリースキー/スノーシュー
- 【その他のスポーツ等】
- アーチェリー/弓道/射撃/クレ射撃
- その他のスポーツ
(ティーボール/フライングディスク/インディアカ/
スポーツチキンバラ/ユニカール/アルティメット/キンボール/
シャフルボード/ベタンク、ダーツ/スポーツ吹き矢 等)
- その他のレクリエーション等
- 【その他の運動】
- 身体活動を伴うゲーム/太鼓/楽器演奏 等
- 身体活動を伴うリハビリテーション
- ゆるスポーツ
- その他
- 特になし

次 < >>

日常に関する調査

★Q19- *** ANS Q10260 *** .
 障害のある *** TSC Q10250 *** は、現在、スポーツクラブや同好会・サークルに加入していますか。(1つ選択)

加入している

加入していない

次 < >>

日常に関する調査

★Q20- *** ANS Q10260 *** .
 障害のある *** TSC Q10250 *** が加入している。
 そのスポーツクラブや同好会・サークルは、主にどのような人たちの集まりですか。(1つ選択)
 ※複数のスポーツクラブ・同好会・サークルに所属している場合は、最も多く参加しているものについてお答えください。

地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル

民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ

学校のOB・OGなどが中心となったクラブ・同好会・サークル

学校の運動部・クラブ・サークル(在校生のみ)

職場の仲間を中心としたクラブ・同好会・サークル

友人・知人が中心のクラブ・同好会・サークル

その他

次 < >>

日常に関する調査

設定項目表示

★Q21- *** ANS Q10260 *** .
 障害のある *** TSC Q10250 *** が加入している、
 そのスポーツクラブや同好会・サークル(*** ANS Q11710 ***)の、
 障害者の参加状況についてお答えください。(1つ選択)

- 障害のある人のみが参加している
- 主に障害のある人が参加しているが、一部に障害のない人の参加もある
- 主に障害のない人が参加している

次 < >>

日常に関する調査

★Q22- *** ANS Q10260 *** .
 障害のある *** TSC Q10250 *** は、過去1年間にスポーツを観戦したことがありますか？(それぞれ複数選択可)

※観戦した種目がない場合は、末尾の「観戦した種目はない」を選択してください。

タテに回答↓	直接スポーツの試合を 観戦したことがある	テレビで スポーツの試合を 観戦したことがある	インターネットで スポーツの試合を 観戦したことがある
プロ野球(NPB)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
高校野球	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アマチュア野球(大学、社会人など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Jリーグ(J1、J2、J3)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
海外プロサッカー(欧州、南米など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サッカー-日本代表試合(五輪代表含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サッカー-日本女子代表試合(なでしこジャパン)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
サッカー(高校、大学、JFLなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プロバスケットボール(Bリーグ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
海外プロバスケットボール(NBAなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
バスケットボール(高校、大学など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
バレーボール(日本代表試合)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
タテに回答↓	直接スポーツの試合を 観戦したことがある	テレビで スポーツの試合を 観戦したことがある	インターネットで スポーツの試合を 観戦したことがある
大相撲	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
マラソン・駅伝	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ラグビー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プロテニス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
プロゴルフ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
フィギュアスケート	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
F1やNASCARなど自動車レース	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
観戦した種目はない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

次 < >>

日常に関する調査

設定項目表示

★Q23- *** ANS Q10260 ***
直接スポーツの試合を観戦したと回答した場合におたずねします。
障害のある *** TSC Q10250 *** が、スポーツ観戦にあたって、問題となることはありませんか。(複数選択可)

【観戦前】

- スポーツイベントに関する情報が入手しづらかった
- チケットの購入が困難だった
- 席種の希望や座席選択が困難だった

【観戦当日】

■会場までのアクセス

- 会場まで行くことが大変だった

■会場内動線

- 会場に入ってから車いす席・優先席に着くまでが大変だった
- エレベーターの数が少なく、混雑して利用しづらかった
- トイレが利用しづらかった(アクセス、混雑)
- 売店が利用しづらかった(アクセス、混雑)

■観戦中

- 車いす席・優先席の配置に問題があり、競技がよく見えなかった
- 介助者・付添の方への配慮が不十分だった
- 会場の障害者対応に関する情報が不十分だった
- 会場のバリアフリー対応が不十分だった

■試合終了後

- 会場を出るまでが大変だった
- エレベーターの数が少なく混雑していた
- 金銭的な負担が大きかった
- 家族の負担が大きかった
- 人の目が気になった
- 人に迷惑をかけるのではないかと心配だった

【観戦後】

- ファン同士のコミュニケーションの機会がなかった

【その他】

- その他
- 特に問題はなかった

次 へ >>

日常に関する調査

★Q24- *** ANS Q10260 ***
「観戦した種目はない」と回答した場合におたずねします。
障害のある *** TSC Q10250 *** が、観戦しなかった理由としてあてはまるものをお答えください。(複数選択可)

- 観戦したいと思うスポーツがない
- どんなスポーツがどこで観戦できるのか情報が得られない
- チケットの購入が困難である
- 交通手段・移動手段がない
- 施設がバリアフリーでない
- 介助者がいない
- その他
- 特にない

次 へ >>

日常に関する調査

設定項目表示

★Q25- *** ANS Q10260 *** .
障害のある *** TSC Q10250 *** は、eスポーツをしたことがありますか。(複数選択可)

- eスポーツをしたことある
- eスポーツを観戦したことがある
- どちらもない

次 へ >>

日常に関する調査

★Q26- *** ANS Q10260 *** .
障害のある *** TSC Q10250 *** の、学校体育の参加状況についてお答えください。
体育の授業には参加していますか(していましたか)。(1つ選択)

- 毎回参加した
- とまどき参加した
- 参加できなかった

次 へ >>

日常に関する調査

★Q27- *** ANS Q10260 *** .
障害のある *** TSC Q10250 *** のご家庭の世帯年収(税込)はおおよそどのくらいですか。(1つ選択)
※差し支えなければお知らせください。

- 収入はなかった
- 200万円未満
- 200万～400万円未満
- 400万～600万円未満
- 600万～800万円未満
- 800万～1,000万円未満
- 1,000万円以上
- わからない
- 答えたくない

次 へ >>

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、株式会社リベルタス・コンサルティングが実施した2019年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。